

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ニショウガクシャ 学校法人 二松学舎									
フリガナ大学の名称	ニショウガクシャダイガク 二松学舎大学 (Nishogakusha University)									
大学本部の位置	東京都千代田区三番町6番地16									
大学の目的	本大学は、東洋の精神による人格の陶冶を旨とし、学校教育法に基づき、広く一般の基礎教養に関する学術と、更に深く専門の学芸を教授研究し、知的・道徳的及び応用的能力を展開させるとともに、世界文化の進展に寄与し、国家社会に貢献する国際性豊かな有為の人物を養成することを使命とする。									
新設学部等の目的	東洋の精神による人格の陶冶を旨とした教授研究の蓄積を背景に、歴史と文化の専門的知識とその応用による「グローバルに活動する逞しい人材」の養成を教育の理念とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	文学部 [Faculty of Literature]	年	人	年次人	人		年月 第 年次	東京都千代田区三番町6番地16		
	歴史文化学科 [Department of History and Culture]	4	60	—	240	学士（文学） [Bachelor of Literature]	令和4年4月 第1年次	千葉県柏市大井2590		
	計		60		240					
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）	文学部 歴史文化学科〔定員増〕 (60) (令和3年6月届出) 国文学科〔定員減〕 (△60) (令和4年4月) 都市文化デザイン学科 (30) (令和3年3月学則変更認可申請) (3年次編入学定員) 大学院 国際日本学研究科〔定員増〕 (20) (令和3年4月届出)									
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
			講義	演習	実験・実習	計	124単位			
	文学部歴史文化学科		181科目	66科目	17科目	264科目				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等						兼任教員等
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	文学部 歴史文化学科		人	人	人	人	人	人	人
				4 (4)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	114 (114)
		計		4 (4)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	- (-)
	既設分	文学部 国文学科		18 (16)	1 (4)	4 (1)	0 (0)	23 (21)	0 (0)	139 (139)
		中国文学科		8 (8)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	137 (137)
		都市文化デザイン学科		3 (3)	3 (2)	1 (1)	0 (0)	7 (6)	0 (0)	102 (102)
		国際政治経済学部 国際政治経済学科		11 (14)	5 (3)	2 (3)	0 (0)	18 (20)	0 (0)	122 (122)
		国際経営学科		6 (5)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	11 (10)	0 (0)	112 (112)
教職課程		6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	6 (6)		
	計		52 (52)	12 (12)	12 (10)	0 (0)	76 (62)	0 (0)	- (-)	
合計			56 (56)	12 (12)	14 (12)	0 (0)	82 (80)	0 (0)	- (-)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		75 (75)	3 (3)	78 (78)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)	1 (1)	4 (4)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		78 (78)	4 (4)	82 (82)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	3541.86㎡	18,145㎡	0㎡	21,686.86㎡	(共用) 附属高校、 附属柏中・高校 (設置基準面積) 27,200㎡ (収容定員) 900名、1,146名 (借用面積・期間) 2,733㎡、2年間				
	運 動 場 用 地	0㎡	105,337㎡	0㎡	105,337㎡					
	小 計	3541.86㎡	123,482㎡	0㎡	127,023.86㎡					
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡					
	合 計	3541.86㎡	123,482㎡	0㎡	127,023.86㎡					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計						
	41,241.13㎡ (41,241.13㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	41,241.13㎡ (41,241.13㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	66室	21室	7室	4室 (補助職員0人)	2室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		歴史文化学科		6 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 ・図書 [356,498 冊] ・学術雑誌 [7,059 冊] ・電子ジャーナル [4,543点] ・データベース [6点] ・電子書籍 [1,308 点] ・視聴覚資料 [8,408点]		
	歴史文化学科	917 [45] (121 [5])	8 [0] (8 [0])	0 [0] (0 [0])	15 (3)	0 (0)	0 (0)			
	計	917 [45] (121 [5])	8 [0] (8 [0])	0 [0] (0 [0])	15 (3)	0 (0)	0 (0)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		3,574.84 ㎡		480 席	376,302 冊					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		2,168.82㎡		武道館			—			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※共同研究費については大学全体 ※図書購入費は届出学科全体、電子書籍を含む ※学科の経常的経費を含む
		教員1人当り研究費等		450千円	450千円	450千円	450千円			
		共同研究費等		16,700千円	16,700千円	16,700千円	16,700千円			
		図 書 購 入 費	2,000千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円			
		設 備 購 入 費	2,100千円	2,100千円	2,100千円	3,200千円	4,200千円			
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
			1,296千円	1,046千円	1,046千円	1,046千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			寄付金、私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

既設大学等の状況	大学の名称	二松学舎大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	文学部						1.13		
	国文学科	4	300	—	1200	学士（文学）	1.09	昭和24年度	東京都千代田区 三番町6-16 千葉県柏市大井 2590
	中国文学科	4	90	—	360	学士（文学）	1.27	昭和24年度	
	都市文化デザイン学科	4	50	—	200	学士（文学）	1.10	平成29年度	
	国際政治経済学部						1.12		同上
	国際政治経済学科	4	160	—	640	学士（国際政治経済学）	1.11	平成3年度	
	国際経営学科	4	80	—	320	学士（経営学）	1.11	平成30年度	
	大学院文学研究科						0.56		東京都千代田区 三番町6-16
	博士前期課程国文学専攻	2	16	—	32	修士（文学）	0.65	昭和41年度	
	博士前期課程中国学専攻	2	16	—	32	修士（文学）	0.46	昭和41年度	
						修士（日本漢学）			
	大学院文学研究科						0.80		東京都千代田区 三番町6-16
	博士後期課程国文学専攻	3	5	—	15	博士（文学）	0.80	昭和41年度	
	博士後期課程中国学専攻	3	5	—	15	博士（文学）	0.80	昭和41年度	
						博士（日本漢学）			
大学院国際政治経済学研究科						0.85		東京都千代田区 三番町6-16	
国際政治経済学専攻修士課程	2	10	—	20	修士（国際政治経済学）	0.85	平成13年度		
附属施設の概要	該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要

(文学部 歴史文化学科) (2022年度入学生から)

科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎ゼミナール	基礎ゼミナール	1前	2				○		4		2					
	小計(1科目)		2	0	0		—		4	0	2	0	0			
自校教育科目	二松学舎入門	1後	2			○								兼1		
	小計(1科目)		2	0	0		—		0	0	0	0	0	兼1		
未来ビジョン科目	ITリテラシー①	1前	2			○								兼2	総合教養科目※から選択 総合教養科目※から選択 総合教養科目※から選択 総合教養科目※から選択	
	データサイエンス入門	2前	2			○								兼1		
	キャリアデザイン	1前	2			○								兼2		
	外国語①	1・2前	1					○								
	外国語②	1・2後	1					○								
	外国語③	1・2前	1					○								
	外国語④	1・2後	1					○								
小計(7科目)		10	0	0		—		0	0	0	0	0	兼5			
二松学舎共通科目 総合教養科目	日本国憲法	1・2前		2		○								兼1	集中	
	言語学	1・2前		2		○								兼1		
	民俗学	1・2後		2		○								兼1		
	哲学	1・2前		2		○								兼1		
	倫理学	1・2後		2		○								兼1		
	法学	1・2後		2		○								兼1		
	宗教学	1・2前		2		○								兼1		
	心理学	1・2前		2		○								兼1		
	学校ボランティア論	1・2前		2		○								兼1		
	介護等体験事前指導	2後		2		○								兼1		
	介護等体験	3		1				○						兼1		
	ジェンダー論	1・2前		2		○								兼1		
	日本史	1・2前		2		○								兼1		
	西洋史	1・2後		2		○				1				兼1		
	美術史	1・2前		2		○				1				兼1		
	仏教史	1・2後		2		○				1				兼1		
	芸術学	1・2後		2		○								兼1		
	東洋史	1・2後		2		○				1				兼1		
	欧米文化史	1・2前		2		○				1				兼1		
	環境科学	1・2前		2		○								兼1		
	宇宙科学	1・2後		2		○								兼1		
	地理学	1・2後		2		○					1			兼1		
	基礎数学	1・2後		2		○								兼1		
	情報科学	1・2前		2		○								兼1		
	プログラミング入門A	1・2前		2		○								兼1		
	プログラミング入門B	1・2後		2		○								兼1		
	情報処理アドヴァンス	1・2前		2		○								兼2		
	データベース演習	1・2後		2		○								兼2		
	地球環境論	1・2前		2		○								兼1		
	情報システム概論	1・2後		2		○								兼1		
	総合英語ⅠA	1・2前		1				○						兼2		※
	総合英語ⅠB	1・2後		1				○						兼2		※
	総合英語ⅡA	1・2前		1				○						兼1		※
	総合英語ⅡB	1・2後		1				○						兼1		※
	総合英語ⅢA	1・2前		1				○						兼1		※
	総合英語ⅢB	1・2後		1				○						兼1		※
	総合英語ⅣA	1・2前		1				○						兼1		※
	総合英語ⅣB	1・2後		1				○						兼1		※
	総合英語(文)A	1・2前		1				○						兼10		※
	総合英語(文)B	1・2後		1				○						兼10		※
	短期海外研修①	1・2休		2					○							集中
	短期海外研修②	1・2休		2					○							集中
	短期海外研修③	1・2休		2					○							集中
	短期海外研修④	1・2休		2					○							集中
ドイツ語①A	1・2前		1				○						兼1	※		
ドイツ語①B	1・2後		1				○						兼1	※		
ドイツ語②A	1・2前		1				○						兼1	※		
ドイツ語②B	1・2後		1				○						兼1	※		
フランス語①A	1・2前		1				○						兼1	※		
フランス語①B	1・2後		1				○						兼1	※		
フランス語②A	1・2前		1				○						兼1	※		
フランス語②B	1・2後		1				○						兼1	※		
ロシア語①A	1・2前		1				○						兼1	※		

	ロシア語①B	1・2後	1			○									兼1	※
	ロシア語②A	1・2前	1			○									兼1	※
	ロシア語②B	1・2後	1			○									兼1	※
	中国語①A	1・2前	1			○									兼3	※
	中国語①B	1・2後	1			○									兼3	※
	中国語②A	1・2前	1			○									兼2	※
	中国語②B	1・2後	1			○									兼2	※
	韓国語①A	1・2前	1			○									兼2	※
	韓国語①B	1・2後	1			○									兼2	※
	韓国語②A	1・2前	1			○									兼1	※
	韓国語②B	1・2後	1			○									兼1	※
	日本語①A	1・2前	1			○									兼1	留学生対象
	日本語①B	1・2後	1			○									兼1	留学生対象
	日本語②中級A	1・2前	1			○									兼1	留学生対象
	日本語②中級B	1・2後	1			○									兼1	留学生対象
	日本語②上級A	1・2前	1			○									兼1	留学生対象
	日本語②上級B	1・2後	1			○									兼1	留学生対象
	日本語③中級A	1・2前	1			○									兼1	留学生対象
	日本語③中級B	1・2後	1			○									兼1	留学生対象
	日本語③上級ⅠA	1・2前	1			○									兼1	留学生対象
	日本語③上級ⅠB	1・2後	1			○									兼1	留学生対象
	日本語③上級ⅢA	1・2前	1			○									兼1	留学生対象
	日本語③上級ⅢB	1・2後	1			○									兼1	留学生対象
	日本語④A	1・2前	1			○									兼1	留学生対象
	日本語④B	1・2後	1			○									兼1	留学生対象
	日本事情A	1・2前	2		○										兼1	留学生対象
	日本事情B	1・2後	2		○										兼1	留学生対象
	日本文学	1・2前	2		○										兼1	
	中国文学	1・2後	2		○										兼1	
	欧米文学	1・2前	2		○										兼1	
	漢文学	1・2後	2		○										兼1	
	健康スポーツ科学	1・2前後	2		○										兼2	
	健康スポーツ①	1・2前	2					○							兼1	
	健康スポーツ②	1・2後	2					○							兼1	
	シーズンスポーツ①	1・2休	2					○							兼1	集中
	シーズンスポーツ②	1・2休	2					○							兼1	集中
	日本語教育概論A	1・2前	2		○										兼1	
	日本語教育概論B	1・2後	2		○										兼1	
	小計(91科目)		0	137	0	—									兼51	
文学部 共通科目	文学入門	1前	2			○			4		2				兼9	オムニバス
	漢学と文章表現A	1前	2			○									兼4	
	漢学と文章表現B	1後	2			○									兼4	
	人文学とビジネスデザイン	2前後		2		○									兼1	
	人文学と教育	2前後		2		○									兼1	
	人文学とコミュニケーション	2前後		2		○									兼2	
小計(6科目)		6	6	0	—									兼11		
学科 共通科目	歴史文化概論	1後	2			○			1						兼1	
	日本史概論	1前	2			○									兼1	
	アジア史概論	1後	2			○									兼1	
	西洋史概論	1前	2			○			1						兼1	
	古文書学入門①(古代・中世)	2前		2		○									兼1	
	古文書学入門②(近世)	2後		2		○									兼1	
	地理学概説	1・2前		2		○					1				兼1	
	地誌学概説	1・2後		2		○					1				兼1	
	社会学概説	1・2後		2		○									兼1	
	政治学概説	1・2前		2		○									兼1	
	経済学概説	1・2後		2		○									兼1	
	哲学概説	1・2前		2		○									兼1	
	倫理学概説	1・2後		2		○									兼1	
小計(13科目)		8	18	0	—			1	0	1	0	0		兼6		
ゼミナール	プレゼミ(日本史・古代～近世)	2前		2		○			1							
	プレゼミ(日本史・近現代)	2後		2		○					1					
	プレゼミ(欧米史)	2前		2		○			1							
	プレゼミ(アジア史)	2後		2		○			1							
	プレゼミ(思想文化史)	2前		2		○					1					
	プレゼミ(芸能文化史)	2後		2		○										
	ゼミナールⅠA	3前	2			○			4		2					
	ゼミナールⅠB	3後	2			○			4		2					
	ゼミナールⅡA	4前	2			○			4		2					
	ゼミナールⅡB	4後	2			○			4		2					
	卒業研究	4通	6			○			4		2					
小計(11科目)		14	12	0	—			4	0	2	0	0				
	日本社会史(明治大正社会史)	2・3前		2		○					1					
	日本文化史(昭和文化史)	2・3後		2		○					1					
	日本仏教史①(古代仏教史)	2・3前		2		○			1							
	日本仏教史②(中世仏教史)	2・3後		2		○			1							
	九段学	2・3前		2		○					1					
江戸東京史	2・3後		2		○									兼1		

専 門 科 目 I	歴史文化フィールドワーク	2・3休	2				○			1					集中	
	比較文学・文化論③A (中国文化史)	2・3前	2						1							
	比較文学・文化論③B (中国文化史)	2・3後	2			○			1							
	文化交流史	2・3前	2			○			1							
	日本漢文学史A	2・3前	2			○								兼1		
	日本漢文学史B	2・3後	2			○								兼1		
	芸能・演劇史①	2・3前	2			○			1							
	芸能・演劇史②	2・3後	2			○			1							
	芸能・演劇史③	2・3前	2			○								兼1		
	芸能・演劇史④	2・3後	2			○								兼1		
	日本思想史	2・3前	2			○								兼1		
	アジア思想史	2・3後	2			○								兼1		
	日本史通史講義① (古代～近世)	2・3前	2			○								兼1		
	日本史通史講義② (近現代)	2・3後	2			○					1			兼1		
	考古学概論	2・3前	2			○								兼1		
	日本史特講①	2・3前	2			○								兼1		
	日本史特講②	2・3後	2			○								兼1		
	日本史特講③	2・3前	2			○			1					兼1		
	日本史特講④	2・3後	2			○								兼1		
	海外社会事情 I (韓国) A	2・3前	2			○								兼1		
	海外社会事情 I (韓国) B	2・3後	2			○								兼1		
	海外社会事情 II (中国) A	2・3前	2			○								兼1		
	海外社会事情 II (中国) B	2・3後	2			○								兼1		
	東アジア史学講読①	2・3前	2			○			1							
	東アジア史学講読②	2・3後	2			○			1							
	ヨーロッパ史特講	2・3後	2			○			1							
	多文化共生講義	2・3後	2			○								兼1		
	自然地理学講義	2・3前	2			○								兼1		
	民俗学概論	2・3後	2			○								兼1		
	日本思想史講読	2・3後	2			○					1			兼1		
	中国思想史講読①	2・3前	2			○								兼1		
	芸能文化史講読	2・3前	2			○				1						
	小計(38科目)			0	76	0		—		4	0	2	0	0	兼13	
	専 門 科 目 II	日本古代史研究	3・4前	2			○								兼1	
		日本中世史研究	3・4後	2			○			1					兼1	
		日本近世史研究	3・4後	2			○								兼1	
		日本近現代史研究	3・4後	2			○					1			兼1	
		日本史料研究	3・4後	2			○								兼1	
国際日本史研究 (日本史の中の世界史)		3・4前	2			○					1			兼1		
日本思想史研究①		3・4前	2			○					1			兼1		
日本思想史研究②		3・4後	2			○					1			兼1		
江戸東京文化研究		3・4前	2			○								兼1		
欧米文化史研究		3・4後	2			○			1					兼1		
アジア文化史研究		3・4前	2			○								兼1		
人文地理学研究		3・4後	2			○					1			兼1		
中国思想史研究①		3・4前	2			○								兼1		
中国思想史研究②		3・4後	2			○								兼1		
芸能・演劇研究③A		3・4前	2			○			1					兼1		
芸能・演劇研究③B		3・4後	2			○			1					兼1		
日本文学と思想A		3・4前	2			○								兼1		
日本文学と思想B		3・4後	2			○								兼1		
中国文学と思想A		3・4前	2			○								兼1		
中国文学と思想B		3・4後	2			○								兼1		
日本史特殊研究① (有職故実)		3・4前	2			○								兼1		
日本史特殊研究② (服飾史)		3・4後	2			○								兼1		
日本史特殊研究③ (もののけ・幽霊・妖怪の歴史)		3・4前	2			○			1					兼1		
日本史特殊研究④		3・4前	2			○								兼1		
日本史特殊研究⑤ (オールラウンド・ヒストリー)		3・4前	2			○					1			兼1		
東アジア都市文化フィールドワーク①		3・4休	2											兼1	集中	
東アジア都市文化フィールドワーク②		3・4休	2											兼1	集中	
欧米都市文化フィールドワーク		3・4休	2											兼1	集中	
中国語学概論A		3・4前	2			○								兼1		
中国語学概論B		3・4後	2			○								兼1		
韓国語学概論A		3・4前	2			○								兼1		
韓国語学概論B		3・4後	2			○								兼1		
海外(中国)研修講座③	3・4	2												集中		
海外(韓国)研修講座③	3・4	2												集中		
東アジア史特殊研究	3・4後	2			○								兼1			
中国文化史特殊研究	3・4前	2			○			1					兼1			
欧米文化史特殊研究	3・4後	2			○			1					兼1			
民俗学特殊研究①	3・4前	2			○								兼1			
民俗学特殊研究②	3・4後	2			○								兼1			
日本思想史特殊研究	3・4前	2			○								兼1			
中国思想史特殊研究	3・4後	2			○								兼1			
美術史特殊研究	3・4前	2			○								兼1			
芸能・演劇特殊研究②A	3・4前	2			○			1					兼1			
芸能・演劇特殊研究②B	3・4後	2			○			1					兼1			
表象メディア特殊研究A	3・4前	2			○								兼1			

	表象メディア特殊研究B	3・4後		2		○									兼1
	小計(46科目)		0	92	0		—		4	0	2	0	0	0	兼18
教職課程 科目	道徳教育の指導法	1前			2	○									兼2
	特別支援教育概論	1前後			2	○									兼1
	教師論	1・2前			2	○									兼2
	教育原理	1・2後			2	○									兼2
	教育史	1・2後			2	○									兼1
	教育心理学	1・2前後			2	○									兼1
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2前後			2	○									兼1
	教育方法・技術論	2前後			2	○									兼2
	教育課程・教育方法論	2前後			2	○									兼2
	生徒指導・進路指導論	2前後			2	○									兼1
	社会科指導法A	2前			2	○									兼1
	社会科指導法B	2後			2	○									兼1
	教育法規	3前後			2	○									兼2
	教育相談	3前後			2	○									兼1
	社会・地理歴史科教育法A	3前			2	○									兼1
	社会・地理歴史科教育法B	3後			2	○									兼1
	教育実践研究	3後			2	○									兼2
	教育実習Ⅰ	4			2			○							兼4
	教育実習Ⅱ	4			4			○							兼4
	教育実習指導	4前			1	○									兼4
教職実践演習(中・高)	4後			2			○							兼4	
小計(21科目)			0	0	43		—		0	0	0	0	0	0	兼8
司書教諭 科目	学校経営と学校図書館	3前			2	○									兼1
	学校図書館メディアの構成	3前			2	○									兼1
	学習指導と学校図書館	3後			2	○									兼1
	読書と豊かな人間性	3後			2	○									兼1
	情報メディアの活用	3前後			2	○									兼1
小計(5科目)			0	0	10		—		0	0	0	0	0	0	兼2
図書館司書課程 ・学芸員課程	生涯学習概論	2前			2	○									兼1
	小計(1科目)			0	0	2		—		0	0	0	0	0	兼1
図書館司書 課程	図書館概論	2前			2	○									兼1
	図書館制度・経営論	3前			2	○									兼1
	図書館情報・技術論	3後			2	○									兼2
	図書館サービス概論	2後			2	○									兼1
	情報サービス論	3後			2	○									兼1
	児童サービス論	3前			2	○									兼1
	情報サービス演習Ⅰ	3前			1			○							兼2
	情報サービス演習Ⅱ	3後			1			○							兼2
	図書館情報資源概論	2後			2	○									兼1
	情報資源組織論	3前			2	○									兼1
	情報資源組織演習	3通			2			○							兼3
	図書館サービス特論	3後			1	○									兼1
	図書館情報資源特論	3後			1	○									兼1
	図書・図書館史	3前			1	○									兼1
小計(14科目)			0	0	23		—		0	0	0	0	0	0	兼8
学芸員課程	博物館概論	2前			2	○									兼1
	博物館経営論	3後			2	○									兼1
	博物館資料論	3前			2	○									兼1
	博物館資料保存論	3後			2	○									兼1
	博物館展示論	3後			2	○									兼1
	博物館教育論	3前			2	○									兼1
	博物館情報・メディア論	3後			2	○									兼1
	博物館実習Ⅰ	3後			1			○							兼2
	博物館実習Ⅱ	4前			2			○							兼2
小計(9科目)			0	0	17		—		0	0	0	0	0	0	兼5
合計(264科目)				42	341	95			4	0	2	0	0	0	兼114
学位又は称号		学士(文学)			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>二松学舎共通科目から22単位、学部共通科目から10単位、学科共通科目から18単位、専門科目から54単位、他学科他専攻科目から20単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限：40単位(年間))</p> <p>なお、学部共通科目のうち人文学とビジネスデザイン、人文学と教育、人文学とコミュニケーションから4単位を選択必修とする。学科共通科目のうち古文書学入門①、古文書学入門②、地理学概説、地誌学概説、社会学概説、政治学概説、経済学概説、哲学概説、倫理学概説のうち10単位を選択必修とする。専門科目のうち専門科目Ⅰの科目から18単位、専門科目Ⅱの科目から18単位を選択必修とする。専門科目には、プレゼミ(4単位選択必修)、ゼミナールⅠ、Ⅱ(各4単位必修)、卒業研究(6単位必修)を含む。</p>							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					
(注)															
1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備															

考に係るものを含む。)についても作成すること。

- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校¹の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要														
(文学部 歴史文化学科) (2022年度入学生から)														
科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎ゼミナール	基礎ゼミナール	1前	2				○		4		2			
	小計(1科目)		2	0	0		—		4	0	2	0	0	
自校教育科目	二松学舎入門	1後	2			○								兼1
	小計(1科目)		2	0	0		—		0	0	0	0	0	兼1
未来ビジョン科目	ITリテラシー①	1前	2			○								兼2
	データサイエンス入門	2前	2			○								兼1
	キャリアデザイン	1前	2			○								兼2
	外国語①	1・2前	1				○							総合教養科目※から選択
	外国語②	1・2後	1				○							総合教養科目※から選択
	外国語③	1・2前	1				○							総合教養科目※から選択
	外国語④	1・2後	1				○							総合教養科目※から選択
小計(7科目)		10	0	0		—		0	0	0	0	0	兼5	
二松学舎共通科目 総合教養科目	日本国憲法	1・2前	2			○								兼1
	言語学	1・2前	2			○								兼1
	民俗学	1・2後	2			○								兼1
	哲学	1・2前	2			○								兼1
	倫理学	1・2後	2			○								兼1
	法学	1・2後	2			○								兼1
	宗教学	1・2前	2			○								兼1
	心理学	1・2前	2			○								兼1
	学校ボランティア論	1・2前	2			○								兼1
	介護等体験事前指導	2後	2			○								兼1
	介護等体験	3	1					○						兼1
	ジェンダー論	1・2前	2			○								兼1
	日本史	1・2前	2			○								兼1
	西洋史	1・2後	2			○			1					兼1
	美術史	1・2前	2			○								兼1
	仏教史	1・2後	2			○			1					兼1
	芸術学	1・2後	2			○								兼1
	東洋史	1・2後	2			○			1					兼1
	欧米文化史	1・2前	2			○			1					兼1
	環境科学	1・2前	2			○								兼1
	宇宙科学	1・2後	2			○								兼1
	地理学	1・2後	2			○					1			兼1
	基礎数学	1・2後	2			○								兼1
	情報科学	1・2前	2			○								兼1
	プログラミング入門A	1・2前	2			○								兼1
	プログラミング入門B	1・2後	2			○								兼1
	情報処理アドヴァンス	1・2前	2			○								兼2
	データベース演習	1・2後	2			○								兼2
	地球環境論	1・2前	2			○								兼1
	情報システム概論	1・2後	2			○								兼1
	総合英語 I A	1・2前	1					○						兼2
	総合英語 I B	1・2後	1					○						兼2
	総合英語 II A	1・2前	1					○						兼1
	総合英語 II B	1・2後	1					○						兼1
	総合英語 III A	1・2前	1					○						兼1
	総合英語 III B	1・2後	1					○						兼1
	総合英語 IV A	1・2前	1					○						兼1
	総合英語 IV B	1・2後	1					○						兼1
	総合英語(文) A	1・2前	1					○						兼10
	総合英語(文) B	1・2後	1					○						兼10
短期海外研修①	1・2休	2											○	
短期海外研修②	1・2休	2											○	
短期海外研修③	1・2休	2											○	
短期海外研修④	1・2休	2											○	
ドイツ語①A	1・2前	1					○							兼1
ドイツ語①B	1・2後	1					○							兼1
ドイツ語②A	1・2前	1					○							兼1
ドイツ語②B	1・2後	1					○							兼1
フランス語①A	1・2前	1					○							兼1
フランス語①B	1・2後	1					○							兼1
フランス語②A	1・2前	1					○							兼1
フランス語②B	1・2後	1					○							兼1

	ロシア語①A	1・2前	1			○							兼1	※
	ロシア語①B	1・2後	1			○							兼1	※
	ロシア語②A	1・2前	1			○							兼1	※
	ロシア語②B	1・2後	1			○							兼1	※
	中国語①A	1・2前	1			○							兼2	※
	中国語①B	1・2後	1			○							兼2	※
	中国語②A	1・2前	1			○							兼2	※
	中国語②B	1・2後	1			○							兼2	※
	韓国語①A	1・2前	1			○							兼2	※
	韓国語①B	1・2後	1			○							兼2	※
	韓国語②A	1・2前	1			○							兼1	※
	韓国語②B	1・2後	1			○							兼1	※
	日本語①A	1・2前	1			○							兼1	留学生対象
	日本語①B	1・2後	1			○							兼1	留学生対象
	日本語②中級A	1・2前	1			○							兼1	留学生対象
	日本語②中級B	1・2後	1			○							兼1	留学生対象
	日本語②上級A	1・2前	1			○							兼1	留学生対象
	日本語②上級B	1・2後	1			○							兼1	留学生対象
	日本語③中級A	1・2前	1			○							兼1	留学生対象
	日本語③中級B	1・2後	1			○							兼1	留学生対象
	日本語③上級ⅠA	1・2前	1			○							兼1	留学生対象
	日本語③上級ⅠB	1・2後	1			○							兼1	留学生対象
	日本語③上級ⅢA	1・2前	1			○							兼1	留学生対象
	日本語③上級ⅢB	1・2後	1			○							兼1	留学生対象
	日本語④A	1・2前	1			○							兼1	留学生対象
	日本語④B	1・2後	1			○							兼1	留学生対象
	日本事情A	1・2前	2			○							兼1	留学生対象
	日本事情B	1・2後	2			○							兼1	留学生対象
	日本文学	1・2前	2			○							兼1	留学生対象
	中国文学	1・2後	2			○							兼1	留学生対象
	欧米文学	1・2前	2			○							兼1	留学生対象
	漢文学	1・2後	2			○							兼1	留学生対象
	健康スポーツ科学	1・2前後	2			○							兼1	留学生対象
	シーズンスポーツ①	1・2休	2					○					兼1	集中
	シーズンスポーツ②	1・2休	2					○					兼1	集中
	日本語教育概論A	1・2前	2			○							兼1	
	日本語教育概論B	1・2後	2			○							兼1	
	小計(91科目)		0	133	0								兼49	
文学部 共通科目	文学入門	1前	2			○			4		2		兼9	オムニバス
	漢学と文章表現A	1前	2			○							兼4	
	漢学と文章表現B	1後	2			○							兼4	
	人文学とビジネスデザイン	2前後	2			○							兼1	
	人文学と教育	2前後	2			○							兼1	
	人文学とコミュニケーション	2前後	2			○							兼2	
小計(6科目)		6	6	0								兼11		
学科 共通科目	歴史文化概論	1後	2			○			1				兼1	
	日本史概論	1前	2			○							兼1	
	アジア史概論	1後	2			○							兼1	
	西洋史概論	1前	2			○			1				兼1	
	古文書学入門①(古代・中世)	2前	2			○							兼1	
	古文書学入門②(近世)	2後	2			○							兼1	
	地理学概説	1・2前	2			○				1				
	地誌学概説	1・2後	2			○								
	社会学概説	1・2後	2			○							兼1	
	政治学概説	1・2前	2			○							兼1	
	経済学概説	1・2後	2			○							兼1	
	哲学概説	1・2前	2			○							兼1	
	倫理学概説	1・2後	2			○							兼1	
小計(13科目)		8	18	0				1	0	1	0	0	兼6	
ゼミナール	プレゼミ(日本史・古代～近世)	2前	2			○			1					
	プレゼミ(日本史・近現代)	2後	2			○					1			
	プレゼミ(欧米史)	2前	2			○			1					
	プレゼミ(アジア史)	2後	2			○			1					
	プレゼミ(思想文化史)	2前	2			○					1			
	プレゼミ(芸能文化史)	2後	2			○			1					
	ゼミナールⅠA	3前	2			○			4		2			
	ゼミナールⅠB	3後	2			○			4		2			
	ゼミナールⅡA	4前	2			○			4		2			
	ゼミナールⅡB	4後	2			○			4		2			
	卒業研究	4通	6			○			4		2			
小計(11科目)		14	12	0				4	0	2	0	0		
	日本社会史(明治大正社会史)	2・3前	2			○					1			
	日本文化史(昭和 cultural 史)	2・3後	2			○					1			
	日本仏教史①(古代仏教史)	2・3前	2			○			1					
	日本仏教史②(中世仏教史)	2・3後	2			○			1					
	九段学	2・3前	2			○					1			
	江戸東京史	2・3後	2			○							兼1	
歴史文化フィールドワーク	2・3休	2					○			1			集中	

専門科目 I	比較文学・文化論③A (中国文化史)	2・3前	2		○			1									
	比較文学・文化論③B (中国文化史)	2・3後	2		○			1									
	文化交流史	2・3前	2		○			1									
	日本漢文学史 A	2・3前	2		○											兼1	
	日本漢文学史 B	2・3後	2		○											兼1	
	芸能・演劇史①	2・3前	2		○				1								
	芸能・演劇史②	2・3後	2		○				1								
	芸能・演劇史③	2・3前	2		○											兼1	
	芸能・演劇史④	2・3後	2		○											兼1	
	日本思想史	2・3前	2		○											兼1	
	アジア思想史	2・3後	2		○											兼1	
	日本史通史講義① (古代～近世)	2・3前	2		○											兼1	
	日本史通史講義② (近現代)	2・3後	2		○						1					兼1	
	考古学概論	2・3前	2		○											兼1	
	日本史特講①	2・3前	2		○											兼1	
	日本史特講②	2・3後	2		○											兼1	
	日本史特講③	2・3前	2		○					1							
	日本史特講④	2・3後	2		○											兼1	
	海外社会事情 I (韓国) A	2・3前	2		○											兼1	
	海外社会事情 I (韓国) B	2・3後	2		○											兼1	
	海外社会事情 II (中国) A	2・3前	2		○											兼1	
	海外社会事情 II (中国) B	2・3後	2		○											兼1	
	東アジア史学講読①	2・3前	2		○					1							
	東アジア史学講読②	2・3後	2		○					1							
	ヨーロッパ史特講	2・3後	2		○					1							
	多文化共生講義	2・3後	2		○											兼1	
	自然地理学講義	2・3前	2		○											兼1	
	民俗学概論	2・3後	2		○											兼1	
	日本思想史講読	2・3後	2		○						1					兼1	
	中国思想史講読①	2・3前	2		○											兼1	
	芸能文化史講読	2・3前	2		○					1							
	小計(38科目)			0	76	0	-		4	0	2	0	0	0		兼13	
	専門科目 II	日本古代史研究	3・4前	2		○										兼1	
		日本中世史研究	3・4後	2		○				1						兼1	
		日本近世史研究	3・4後	2		○											
		日本近現代史研究	3・4後	2		○						1				兼1	
日本史料研究		3・4後	2		○												
国際日本史研究 (日本史の中の世界史)		3・4前	2		○								1		兼1		
日本思想史研究①		3・4前	2		○								1				
日本思想史研究②		3・4後	2		○								1				
江戸東京文化研究		3・4前	2		○											兼1	
欧米文化史研究		3・4後	2		○					1						兼1	
アジア文化史研究		3・4前	2		○											兼1	
人文地理学研究		3・4後	2		○								1			兼1	
中国思想史研究①		3・4前	2		○											兼1	
中国思想史研究②		3・4後	2		○											兼1	
芸能・演劇研究③A		3・4前	2		○					1							
芸能・演劇研究③B		3・4後	2		○					1							
日本文学と思想A		3・4前	2		○											兼1	
日本文学と思想B		3・4後	2		○											兼1	
中国文学と思想A		3・4前	2		○											兼1	
中国文学と思想B		3・4後	2		○											兼1	
日本史特殊研究① (有職故実)		3・4前	2		○											兼1	
日本史特殊研究② (服飾史)		3・4後	2		○											兼1	
日本史特殊研究③ (もののけ・幽霊・妖怪の歴史)		3・4前	2		○					1							
日本史特殊研究④		3・4前	2		○											兼1	
日本史特殊研究⑤ (オーラル・ヒストリー)		3・4前	2		○								1				
東アジア都市文化フィールドワーク①		3・4休	2		○			○								兼1	集中
東アジア都市文化フィールドワーク②		3・4休	2		○			○								兼1	集中
欧米都市文化フィールドワーク		3・4休	2		○			○								兼1	集中
中国語学概論A		3・4前	2		○											兼1	
中国語学概論B		3・4後	2		○											兼1	
韓国語学概論A		3・4前	2		○											兼1	
韓国語学概論B		3・4後	2		○											兼1	
海外 (中国) 研修講座③		3・4	2		○												集中
海外 (韓国) 研修講座③		3・4	2		○												集中
東アジア史特殊研究		3・4後	2		○											兼1	
中国文化史特殊研究		3・4前	2		○					1							
欧米文化史特殊研究	3・4後	2		○					1								
民俗学特殊研究①	3・4前	2		○											兼1		
民俗学特殊研究②	3・4後	2		○											兼1		
日本思想史特殊研究	3・4前	2		○											兼1		
中国思想史特殊研究	3・4後	2		○											兼1		
美術史特殊研究	3・4前	2		○											兼1		
芸能・演劇特殊研究②A	3・4前	2		○					1								
芸能・演劇特殊研究②B	3・4後	2		○					1								
表象メディア特殊研究A	3・4前	2		○											兼1		
表象メディア特殊研究B	3・4後	2		○											兼1		

	小計(46科目)		0	92	0	-			4	0	2	0	0	兼18		
教職課程 科目	道徳教育の指導法	1前			2	○								兼2	集中 集中	
	特別支援教育概論	1前後			2	○								兼1		
	教師論	1・2前			2	○								兼2		
	教育原理	1・2後			2	○								兼2		
	教育史	1・2後			2	○								兼1		
	教育心理学	1・2前後			2	○								兼1		
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2前後			2	○								兼1		
	教育方法・技術論	2前後			2	○								兼2		
	教育課程・教育方法論	2前後			2	○								兼2		
	生徒指導・進路指導論	2前後			2	○								兼1		
	社会科指導法A	2前			2	○								兼1		
	社会科指導法B	2後			2	○								兼1		
	教育法規	3前後			2	○								兼2		
	教育相談	3前後			2	○								兼1		
	社会・地理歴史科教育法A	3前			2	○								兼1		
	社会・地理歴史科教育法B	3後			2	○								兼1		
	教育実践研究	3後			2	○								兼2		
教育実習 I	4			2				○					兼4			
教育実習 II	4			4				○					兼4			
教育実習指導	4前			1	○								兼4			
教職実践演習(中・高)	4後			2				○					兼4			
	小計(21科目)		0	0	43	-			0	0	0	0	0	兼8		
司書教諭 科目	学校経営と学校図書館	3前			2	○								兼1		
	学校図書館メディアの構成	3前			2	○								兼1		
	学習指導と学校図書館	3後			2	○								兼1		
	読書と豊かな人間性	3後			2	○								兼1		
情報メディアの活用	3前後			2	○								兼1			
	小計(5科目)		0	0	10	-			0	0	0	0	0	兼2		
図書館司書課程 ・学芸員課程	生涯学習概論	2前			2	○								兼1		
	小計(1科目)		0	0	2	-			0	0	0	0	0	兼1		
図書館司書 課程	図書館概論	2前			2	○								兼1		
	図書館制度・経営論	3前			2	○								兼1		
	図書館情報・技術論	3後			2	○								兼2		
	図書館サービス概論	2後			2	○								兼1		
	情報サービス論	3後			2	○								兼1		
	児童サービス論	3前			2	○								兼1		
	情報サービス演習 I	3前			1			○						兼2		
	情報サービス演習 II	3後			1			○						兼2		
	図書館情報資源概論	2後			2	○								兼1		
	情報資源組織論	3前			2	○								兼1		
	情報資源組織演習	3通			2			○						兼3		
	図書館サービス特論	3後			1	○								兼1		
	図書館情報資源特論	3後			1	○								兼1		
図書・図書館史	3前			1	○								兼1			
	小計(14科目)		0	0	23	-			0	0	0	0	0	兼8		
学芸員課程	博物館概論	2前			2	○								兼1		
	博物館経営論	3後			2	○								兼1		
	博物館資料論	3前			2	○								兼1		
	博物館資料保存論	3後			2	○								兼1		
	博物館展示論	3後			2	○								兼1		
	博物館教育論	3前			2	○								兼1		
	博物館情報・メディア論	3後			2	○								兼1		
	博物館実習 I	3後			1			○						兼2		
	博物館実習 II	4前			2			○						兼2		
	小計(9科目)		0	0	17	-			0	0	0	0	0	兼5		
合計(264科目)				42	337	95	-			4	0	2	0	0	兼113	
学位又は称号		学士(文学)		学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
二松学舎共通科目から22単位、学部共通科目から10単位、学科共通科目から18単位、専門科目から54単位、他学科他専攻科目から20単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限：40単位(年間)) なお、学部共通科目のうち人文学とビジネスデザイン、人文学と教育、人文学とコミュニケーションから4単位を選択必修とする。学科共通科目のうち古文書学入門①、古文書学入門②、地理学概説、地誌学概説、社会学概説、政治学概説、経済学概説、哲学概説、倫理学概説のうち10単位を選択必修とする。専門科目のうち専門科目Ⅰの科目から18単位、専門科目Ⅱの科目から18単位を選択必修とする。専門科目には、プレゼミ(4単位選択必修)、ゼミナールⅠ、Ⅱ(各4単位必修)、卒業研究(6単位必修)を含む。								1学年の学期区分		2期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。

- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															
(文学部 歴史文化学科) (2022年度入学生から適用)															
科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
二松学舎共通科目	総合教養科目	中国語①A	1・2前		1			○							兼1
		中国語①B	1・2後		1			○							兼1
		健康スポーツ科学	1・2前後		2		○								兼1
		健康スポーツ①	1・2前		2				○						兼1
		健康スポーツ②	1・2後		2				○						兼1
小計(4科目)			0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼2	
学科共通科目		地誌学概説	1・2後		2		○					1			
		小計(1科目)		0	2	0	—			0	0	1	0	0	
合計(5科目)				0	10	0				0	0	1	0	0	兼2
学位又は称号		学士(文学)		学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
二松学舎共通科目から22単位、学部共通科目から10単位、学科共通科目から18単位、専門科目から54単位、他学科他専攻科目から20単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:40単位(年間)) なお、学部共通科目のうち人文学とビジネスデザイン、人文学と教育、人文学とコミュニケーションから4単位を選択必修とする。学科共通科目のうち古文書学入門①、古文書学入門②、地理学概説、地誌学概説、社会学概説、政治学概説、経済学概説、哲学概説、倫理学概説のうち10単位を選択必修とする。専門科目のうち専門科目Ⅰの科目から18単位、専門科目Ⅱの科目から18単位を選択必修とする。専門科目には、プレゼミ(4単位選択必修)、ゼミナールⅠ、Ⅱ(各4単位必修)、卒業研究(6単位必修)を含む。							1学年の学期区分				2期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															
(文学部国文学科) (2021年度入学生まで適用)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
文学部 共通科目	基礎ゼミナール	1 通	2					○		6	2	1			兼 3
	文学入門A	1 前	2				○			11	3	1			オムニバス
	文学入門B	1 後	2				○			11	3	1			オムニバス
	漢学と文章表現A	1 前	2				○								兼 4
	漢学と文章表現B	1 後	2				○								兼 4
	人文学とビジネスデザイン	2前・後		2			○								兼 1
	人文学と教育	2前・後		2			○			1					
	人文学とコミュニケーション	2前・後		2			○								兼 2
小計 (8科目)	—	—	10	6	0		—		12	3	1	0	0	兼 10	
学科 共通科目	外国語①	1 通	2				○								総合科目の外国語 より読み替え
	外国語②	1 通	2				○								
	日本文学概論A	1 前	2				○		1						兼 1
	日本文学概論B	1 後	2				○		1						兼 1
	日本語学概論①A	1 前	2				○		1						兼 2
	日本語学概論①B	1 後	2				○		1						兼 2
	日本文学全史A	1 前	2				○								兼 2
	日本文学全史B	1 後	2				○								兼 2
	日本文学研究入門①	1 前	2				○		1						兼 1
	日本文学講読入門①	1 後	2				○		2						兼 1
	日本文学研究入門②	1 前	2				○		1						兼 1
	日本文学講読入門②	1 後	2				○		1						兼 1
	漢文学概論A	1・2 前		2			○								兼 2
	漢文学概論B	1・2 後		2			○								兼 2
	漢文学 I A	1・2 前		1			○								兼 1
	漢文学 I B	1・2 後		1			○								兼 1
	書道 I A	1・2 前		1			○								兼 3
	書道 I B	1・2 後		1			○								兼 3
	書道 II A	1・2 前		1			○								兼 2
	書道 II B	1・2 後		1			○								兼 2
	書道理論A	1・2 前		2			○								兼 1
	書道理論B	1・2 後		2			○								兼 1
	書道鑑賞A	1・2 前		2			○								兼 1
	中国語 I A	1・2 前		1			○								兼 1
	中国語 I B	1・2 後		1			○								兼 1
	中国文学 I	2 前		2			○								兼 1
	中国文学 II	2 後		2			○								兼 1
小計 (27科目)	—	—	24	22	0		—		4	0	0	0	0	兼 15	
	国文学演習①A	2・3 前		1				○		2					
	国文学演習①B	2・3 後		1				○		2					
	国文学演習②A	2・3 前		1				○		1					兼 1
	国文学演習②B	2・3 後		1				○		1					兼 1
	国文学演習③A	2・3 前		1				○							兼 1
	国文学演習③B	2・3 後		1				○							兼 1
	国文学演習④A	2・3 前		1				○							兼 2
	国文学演習④B	2・3 後		1				○							兼 2
	国文学演習⑤A	2・3 前		1				○		1					兼 1
	国文学演習⑤B	2・3 後		1				○		1					兼 1
	国文学史 I A	2・3 前		2			○								兼 1
	国文学史 I B	2・3 後		2			○								兼 1
	国文学史 II A	2・3 前		2			○		1						
	国文学史 II B	2・3 後		2			○		1						
	国文学史 III A	2・3 前		2			○								兼 1
	国文学史 III B	2・3 後		2			○								兼 1
	国文学講義①A	2・3 前		2			○		1						
	国文学講義①B	2・3 後		2			○		1						

国文学講義②A	2・3	前	2	○								兼 1
国文学講義②B	2・3	後	2	○								兼 1
国文学講義③A	2・3	前	2	○								兼 1
国文学講義③B	2・3	後	2	○								兼 1
国文学講義④A	2・3	前	2	○				1				
国文学講義④B	2・3	後	2	○				1				
国文学講義⑤A	2・3	前	2	○								兼 1
国文学講義⑤B	2・3	後	2	○								兼 1
国文学講義⑧A	2・3	前	2	○								兼 1
国文学講義⑧B	2・3	後	2	○								兼 1
国文学研究①A	3・4	前	2		○			1				
国文学研究①B	3・4	後	2		○			1				
国文学研究③A	3・4	前	2		○							兼 1
国文学研究③B	3・4	後	2		○							兼 1
国文学研究④A	3・4	前	2		○			1				
国文学研究④B	3・4	後	2		○			1				
国文学研究⑤A	3・4	前	2		○							兼 1
国文学研究⑤B	3・4	後	2		○							兼 1
国文学研究⑥A	3・4	前	2		○				1			
国文学研究⑥B	3・4	後	2		○				1			
ジャンル別通史①A	3・4	前	2	○								兼 1
ジャンル別通史①B	3・4	後	2	○								兼 1
ジャンル別通史③A	3・4	前	2	○								兼 1
ジャンル別通史③B	3・4	後	2	○								兼 1
源氏物語特殊研究A	3・4	前	2		○							兼 1
源氏物語特殊研究B	3・4	後	2		○							兼 1
児童文学特殊研究A	3・4	前	2		○							兼 1
児童文学特殊研究B	3・4	後	2		○							兼 1
近代文学特殊研究A	3・4	前	2		○							兼 1
近代文学特殊研究B	3・4	後	2		○							兼 1
表象メディア演習①A	2・3	前	1		○							兼 1
表象メディア演習①B	2・3	後	1		○							兼 1
表象メディア演習②A	2・3	前	1		○							兼 1
表象メディア演習②B	2・3	後	1		○							兼 1
芸能・演劇演習①A	2・3	前	1		○							兼 1
芸能・演劇演習①B	2・3	後	1		○							兼 1
芸能・演劇演習②A	2・3	前	1		○							兼 1
芸能・演劇演習②B	2・3	後	1		○							兼 1
芸能・演劇演習③A	2・3	前	1		○			1				
芸能・演劇演習③B	2・3	後	1		○			1				
芸能・演劇演習④A	2・3	前	1		○							兼 1
芸能・演劇演習④B	2・3	後	1		○							兼 1
表象メディア文化論①A	2・3	前	2	○								兼 1
表象メディア文化論①B	2・3	後	2	○								兼 1
表象メディア文化論②A	2・3	前	2	○				1				
表象メディア文化論②B	2・3	後	2	○				1				
表象メディア史A	2・3	前	2	○								兼 1
表象メディア史B	2・3	後	2	○								兼 1
芸能・演劇史①A	2・3	前	2	○				1				
芸能・演劇史①B	2・3	後	2	○				1				
芸能・演劇史②A	2・3	前	2	○								兼 1
芸能・演劇史②B	2・3	後	2	○								兼 1
芸能・演劇文化論①A	2・3	前	2	○								兼 1
芸能・演劇文化論②A	2・3	前	2	○								兼 1
芸能・演劇文化論②B	2・3	後	2	○								兼 1
表象メディア講義①A	2・3	前	2	○								兼 1
表象メディア講義①B	2・3	後	2	○								兼 1
表象メディア講義③A	2・3	前	2	○								兼 1
表象メディア講義③B	2・3	後	2	○								兼 1
表象メディア研究①A	3・4	前	2		○							兼 1
表象メディア研究①B	3・4	後	2		○							兼 1
芸能・演劇研究①A	3・4	前	2		○							兼 1
芸能・演劇研究①B	3・4	後	2		○							兼 1
芸能・演劇研究②A	3・4	前	2		○							兼 1
芸能・演劇研究②B	3・4	後	2		○							兼 1

専攻科目

芸能・演劇研究③A	3・4	前	2		○				1			
芸能・演劇研究③B	3・4	後	2		○				1			
表象メディア特殊研究A	3・4	前	2		○						兼	1
表象メディア特殊研究B	3・4	後	2		○						兼	1
芸能・演劇特殊研究①A	3・4	前	2		○						兼	1
芸能・演劇特殊研究①B	3・4	後	2		○						兼	1
芸能・演劇特殊研究②A	3・4	前	2		○						兼	1
芸能・演劇特殊研究②B	3・4	後	2		○						兼	1
芸能・演劇特殊研究③A	3・4	前	2		○						兼	1
芸能・演劇特殊研究③B	3・4	後	2		○						兼	1
芸能・演劇特殊研究④A	3・4	前	2		○						兼	1
芸能・演劇特殊研究④B	3・4	後	2		○						兼	1
日本語学演習①A	2・3	前	1		○				2		兼	1
日本語学演習①B	2・3	後	1		○				2		兼	1
日本語学演習②A	2・3	前	1		○						兼	1
日本語学演習②B	2・3	前	1		○						兼	1
異文化コミュニケーション	2・3	前	2		○						兼	1
言語の習得と理解の過程	2・3	前	2		○				1			
日本語教育史	2・3	後	2		○					1		
日本語学講義①A	2・3	前	2		○						兼	1
日本語学講義①B	2・3	後	2		○						兼	1
日本語学講義②A	2・3	前	2		○					1		
日本語学講義②B	2・3	後	2		○					1		
日本語の構造①	2・3	前	2		○				1			
日本語の構造②	2・3	後	2		○				1			
日本語教育概論A	2	前	2		○					1		
日本語教育概論B	2	後	2		○					1		
日本語教育方法論A	3	前	2		○					1		
日本語教育方法論B	3	後	2		○					1		
日本語学研究①A	3・4	前	2		○				1			
日本語学研究①B	3・4	後	2		○				1			
日本語学研究②A	3・4	前	2		○						兼	1
日本語学研究②B	3・4	後	2		○						兼	1
対照言語学研究①	3・4	後	2		○						兼	1
対照言語学研究②	3・4	前	2		○						兼	1
対照言語学研究③	3・4	前	2		○						兼	1
日本語学特殊研究①A	3・4	前	2		○				1			
日本語学特殊研究①B	3・4	後	2		○				1			
言語学概論A	3・4	前	2		○						兼	1
言語学概論B	3・4	後	2		○						兼	1
言語と社会A	3・4	前	2		○						兼	1
言語と社会B	3・4	後	2		○						兼	1
言語と文化A	3・4	前	2		○						兼	1
言語と文化B	3・4	後	2		○						兼	1
日本語教育実習	4	前	2						○	1		
日本語教育評価法	4	後	2		○					1		
日本文化演習①A	2・3	前	1			○			1			
日本文化演習①B	2・3	後	1			○			1			
日本文化史A	2・3	前	2							1		
日本文化史B	2・3	後	2			○				1		
仏教文化A	2・3	前	2			○			1			
仏教文化B	2・3	後	2			○			1			
現代日本研究A	2・3	前	2			○				1		
現代日本研究B	2・3	後	2			○				1		
日本文化講義①A	2・3	前	2			○				1		
日本文化講義①B	2・3	後	2			○				1		
日本文化講義②A	2・3	前	2			○				1		
日本文化講義②B	2・3	後	2			○				1		
日本文化研究②A	3・4	前	2			○				1		
日本文化研究②B	3・4	後	2			○				1		
日本文化特殊研究①A	3・4	前	2			○					兼	1
日本文化特殊研究①B	3・4	後	2			○					兼	1
日本文化特殊研究②A	3・4	前	2			○				1		
日本文化特殊研究②B	3・4	後	2			○				1		
日本文化特殊研究③A	3・4	前	2			○			1			

日本文化特殊研究③B	3・4 後	2			○		1														
比較文学・文化演習①A	2・3 前	1			○															兼 1	
比較文学・文化演習①B	2・3 後	1			○															兼 1	
比較文学・文化演習②A	2・3 前	1			○		1														
比較文学・文化演習②B	2・3 後	1			○		1														
比較文学・文化論①A	2・3 前	2			○															兼 1	
比較文学・文化論①B	2・3 後	2			○															兼 1	
比較文学・文化論③A	2・3 前	2			○															兼 1	
比較文学・文化論③B	2・3 後	2			○															兼 1	
比較文学・文化論④A	2・3 前	2			○															兼 1	
比較文学・文化論④B	2・3 後	2			○															兼 1	
比較文学・文化講義②A	2・3 前	2			○															兼 1	
比較文学・文化講義②B	2・3 後	2			○															兼 1	
比較文学・文化講義③A	2・3 前	2			○															兼 1	
比較文学・文化講義③B	2・3 後	2			○															兼 1	
比較文学・文化研究①A	3・4 前	2			○		1														
比較文学・文化研究①B	3・4 後	2			○		1														
比較文学・文化研究②A	3・4 前	2			○															兼 1	
比較文学・文化研究②B	3・4 後	2			○															兼 1	
比較文学・文化研究④A	3・4 前	2			○															兼 1	
比較文学・文化研究④B	3・4 後	2			○															兼 1	
比較文学・文化研究⑤A	3・4 前	2			○															兼 1	
比較文学・文化研究⑤B	3・4 後	2			○															兼 1	
比較文学・文化特殊研究②A	3・4 前	2			○															兼 1	
比較文学・文化特殊研究②B	3・4 後	2			○															兼 1	
比較文学・文化特殊研究⑥A	3・4 前	2			○															兼 1	
比較文学・文化特殊研究⑥B	3・4 後	2			○															兼 1	
小計 (175科目)	—	0	318	0	—		13	4	1	0	0									兼 41	
日本国憲法	1・2前・後	2			○																兼 1
基礎政治学B	1・2 後	2			○																兼 1
基礎経済学A	1・2 前	2			○																兼 1
基礎経済学B	1・2 後	2			○																兼 1
民俗学A	1・2 前	2			○																兼 1
民俗学B	1・2 後	2			○																兼 1
哲学・倫理学A	1・2 前	2			○																兼 1
哲学・倫理学B	1・2 後	2			○																兼 1
美学A	1・2 前	2			○																兼 1
美学B	1・2 後	2			○																兼 1
心理学A	1・2 前	2			○		1														
心理学B	1・2 後	2			○		1														
学校ボランティア論	1・2 前	2			○																兼 1
キャリア教育①	1 後	1			○																兼 1
キャリア教育②	2 前	1			○																兼 1
キャリア教育③	2 後	1			○																兼 1
キャリア教育④	3 前	1			○																兼 1
ジェンダー論A	1・2 前	2			○																兼 1
文化人類学A	1・2 前	2			○																兼 1
文化人類学B	1・2 後	2			○																兼 1
美術史A	1・2 前	2			○																兼 1
美術史B	1・2 後	2			○																兼 1
基礎漢文A	1・2 前	2			○																兼 1
宇宙科学A	1・2 前	2			○																兼 1
宇宙科学B	1・2 後	2			○																兼 1
基礎数学A	1・2 前	2			○																兼 1
基礎数学B	1・2 後	2			○																兼 1
情報科学①A	1・2 前	2			○																兼 1
情報科学①B	1・2 後	2			○																兼 1
情報科学②A	1・2 前	2			○																兼 1
情報科学②B	1・2 後	2			○																兼 1
情報処理①	1・2 前後	2			○																兼 2
情報処理②	1・2 前後	2			○																兼 1
情報処理アドヴァンス①	1・2 前	2			○																兼 2
情報処理アドヴァンス②	1・2 後	2			○																兼 2
地球環境論A	1・2 前	2			○																兼 1
地球環境論B	1・2 後	2			○																兼 1

総合科目	総合英語Ⅰ (コミュニケーション)	1・2 通		2		○													兼 2
	総合英語Ⅱ (TOEIC)	1・2 通		2		○													兼 1
	総合英語Ⅲ (映画)	1・2 通		2		○													兼 1
	総合英語Ⅳ (日常生活)	1・2 通		2		○													兼 1
	総合英語Ⅴ (海外旅行)	1・2 通		2		○													兼 1
	総合英語Ⅵ (ビジネス)	1・2 通		2		○													兼 3
	総合英語Ⅶ (メディア)	1・2 通		2		○													兼 1
	総合英語Ⅷ (アカデミック)	1・2 通		2		○													兼 1
	総合英語 (文)	1・2 通		2		○													兼 11
	ドイツ語①	1・2 通		2		○													兼 1
	ドイツ語②	1・2 通		2		○													兼 1
	ドイツ語③	1・2 通		2		○													兼 1
	フランス語①	1・2 通		2		○													兼 2
	フランス語②	1・2 通		2		○													兼 1
	フランス語③	1・2 通		2		○													兼 1
	ロシア語①	1・2 通		2		○													兼 1
	ロシア語②	1・2 通		2		○													兼 1
	ロシア語③	1・2 通		2		○													兼 1
	中国語①	1・2 通		2		○					1								兼 3
	中国語②	1・2 通		2		○					1								兼 1
	中国語③	1・2 通		2		○													兼 1
	韓国語①	1・2 通		2		○					1								兼 1
	韓国語②	1・2 通		2		○					1								兼 1
	韓国語③	1・2 通		2		○					1								兼 1
	日本語①A	1・2 前		1		○													兼 1
	日本語①B	1・2 後		1		○													兼 1
	日本語②中級A	1・2 前		1		○													兼 1
	日本語②中級B	1・2 後		1		○													兼 1
	日本語②上級A	1・2 前		1		○													兼 1
	日本語②上級B	1・2 後		1		○													兼 1
	日本語③中級A	1・2 前		1		○													兼 1
	日本語③中級B	1・2 後		1		○													兼 1
	日本語③上級ⅠA	1・2 前		1		○													兼 1
	日本語③上級ⅠB	1・2 後		1		○													兼 1
	日本語④A	1・2 前		1		○													兼 1
日本語④B	1・2 後		1		○													兼 1	
短期海外研修①	1・2 休		2			○												集中	
短期海外研修②	1・2 休		2			○												集中	
健康スポーツ科学A	1・2 前		2		○													兼 1	
健康スポーツ科学B	1・2 後		2		○													兼 1	
健康スポーツ①	1・2 通		2							○								兼 1	
健康スポーツ②	1・2 通		2							○								兼 1	
シーズンスポーツ①	1・2 休		2							○								兼 1 集中	
シーズンスポーツ②	1・2 休		2							○								兼 1 集中	
小計 (81科目)	-	0	146	0	-				2	1	0	0	0					兼 55	
自由選択科目	日本文学講読①A	3 前		2		○			1										
	日本文学講読①B	3 後		2		○			1										
	日本文学講読②A	3 前		2		○												兼 1	
	日本文学講読②B	3 後		2		○												兼 1	
	日本文学講読③A	3 前		2		○												兼 1	
	日本文学講読③B	3 後		2		○												兼 1	
	日本文学講読⑤A	3 前		2		○												兼 1	
	日本文学講読⑤B	3 後		2		○												兼 1	
	日本文学講読⑦A	3 前		2		○												兼 1	
	日本文学講読⑦B	3 後		2		○												兼 1	
	日本文学講読⑧A	3 前		2		○												兼 1	
	日本文学講読⑧B	3 後		2		○												兼 1	
	日本文学講読⑨A	3 前		2		○												兼 1	
	日本文学講読⑨B	3 後		2		○												兼 1	
	日本文学講読⑩A	3 前		2		○												兼 1	
	日本文学講読⑩B	3 後		2		○												兼 1	
	日本文学講読⑪A	3 前		2		○				1									
	日本文学講読⑪B	3 後		2		○				1									
小計 (18科目)	-	0	36	0	-				2	0	0	0	0					兼 7 -	
道徳教育の指導法	1 前			2		○												兼 2	

教職課程科目	特別支援教育概論	1 前後		2	○										兼 1	
	教師論	1・2 前		2	○										兼 2	
	教育原理	1・2 後		2	○										兼 2	
	教育史	1・2 後		2	○										兼 1	
	教育心理学	1・2 前後		2	○				1							
	特別活動・総合的な学習の時間の指導	2 前後		2	○										兼 1	
	教育方法・技術論	2 前後		2	○										兼 2	
	教育課程・教育方法論	2 前後		2	○										兼 2	
	生徒指導・進路指導論	2 前後		2	○										兼 2	
	国語科指導法 I	2 前後		2	○										兼 1	
	教育法規	3 前後		2	○										兼 1	
	教育相談	3 前後		2	○				1							
	国語科教育法A	3 前		2	○										兼 2	
	国語科教育法B	3 後		2	○										兼 2	
	書道科教育法A	3 前		2	○										兼 1	
	書道科教育法B	3 後		2	○										兼 1	
	国語科（古典）指導法	3 前後		2	○										兼 1	
	国語科教育法演習A	3 前		1		○									兼 2	
	国語科教育法演習B	3 後		1		○									兼 2	
	教育実践研究	3 後		2	○										兼 3	
	教育実習 I	4		2	○										兼 4	集中
	教育実習 II	4		4											兼 4	集中
	教育実習指導	4 前		1		○									兼 4	
	教職実践演習（中・高）	4 後		2		○									兼 4	
	小計（25科目）	—	0	0	49	—			1	0	0	0	0	0	兼 9	—
司書教諭	学校経営と学校図書館	3 前		2	○										兼 1	
	学校図書館メディアの構成	3 前		2	○										兼 1	
	学習指導と学校図書館	3 後		2	○										兼 1	
	読書と豊かな人間性	3 後		2	○										兼 1	
	情報メディアの活用	3 後		2	○										兼 1	
小計（5科目）	—	0	0	10	—		0	0	0	0	0	0	0	兼 2	—	
学芸員課程科目	生涯学習概論	3 前		2	○										兼 1	
	博物館概論	3 前		2	○										兼 1	
	博物館経営論	3 前		2	○										兼 1	
	博物館資料論	3 後		2	○										兼 1	
	博物館資料保存論	3 後		2	○										兼 1	
	博物館展示論	3 後		2	○										兼 1	
	博物館教育論	3 後		2	○						1					
	博物館情報・メディア論	3 前		2	○						1					
	博物館実習 I	3 後		1	○										兼 2	
博物館実習 II	4 前		2	○										兼 2		
小計（10科目）	—	0	0	19	—		0	0	1	0	0	0	0	兼 5	—	
司書課程科目	生涯学習概論	3 前		2	○										兼 1	
	図書館概論	3 前		2	○										兼 1	
	図書館制度・経営論	3 前		2	○										兼 1	
	図書館情報技術論	3 前後		2	○										兼 2	
	図書館サービス概論	3 後		2	○										兼 1	
	情報サービス論	3 前		2	○										兼 1	
	児童サービス論	3 前		2	○										兼 1	
	情報サービス演習 I	3 前後		1		○									兼 2	
	情報サービス演習 II	3 後		1		○									兼 2	
	図書館情報資源概論	3 前		2	○										兼 1	
	情報資源組織論	3 前		2	○										兼 1	
	情報資源組織演習	3 通		2		○									兼 3	
	図書館サービス特論	3 後		1	○										兼 1	
	図書館情報資源特論	3 後		1	○										兼 1	
	図書・図書館史	3 後		1	○										兼 1	
小計（15科目）	—	0	0	25	—		0	0	0	0	0	0	0	兼 9	—	
ナゼミ	ゼミナール I	3 通	4			○		16	2	2					兼 6	
	ゼミナール II	4 通	4			○		16	2	2					兼 5	
	小計（2科目）	—	8	0	0	—		16	2	2	0	0			兼 6	—
研究業	卒業研究	4 通	6			○		16	2	2					兼 5	
	小計（1科目）	—	6	0	0	—		16	2	2	0	0			兼 5	—
合計（367科目）		—	48	528	103	—		17	2	2	0	0			兼 139	

学位又は称号	学士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
文学部履修規程に基づき、文学部共通科目14単位、学科共通科目24単位、総合科目12単位、専攻科目32単位、自由選択科目28単位、ゼミナール8単位、卒業研究6単位、計124単位以上を履修しなければならない。 （履修科目の登録の上限：40単位（年間））		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業時間	90分

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要																	
（文学部中国文学科）（2021年度入学生まで適用）																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
文学部 共通科目	基礎ゼミナール	1 通	2					○			5					兼 1	
	文学入門A	1 前	2				○				9					兼 6	
	文学入門B	1 後	2				○				9					兼 6	
	漢学と文章表現A	1 前	2				○									兼 4	
	漢学と文章表現B	1 後	2				○									兼 4	
	人文学とビジネスデザイン	2前・後		2			○									兼 1	
	人文学と教育	2前・後		2			○									兼 1	
	人文学とコミュニケーション	2前・後		2			○									兼 2	
小計（8科目）	—	—	10	6	0			—			9	0	0	0	0	兼 14	
学科 共通科目	中国語基礎演習①A	1 前	1					○			1					兼 3	
	中国語基礎演習①B	1 後	1					○			1					兼 3	
	中国語基礎演習②A	1 前	1					○			1					兼 4	
	中国語基礎演習②B	1 後	1					○			1					兼 4	
	中国学入門A	1 前	1				○				2						
	中国学入門B	1 後	1				○				2						
	中国文学演習A	1 前	1					○			1					兼 3	
	中国文学演習B	1 後	1					○			1					兼 3	
	中国文学史A	2 前	2				○				1						
	中国文学史B	2 後	2				○				1						
	中国思想史A	2 前	2				○				1						
	中国思想史B	2 後	2				○				1						
	日本語学概論②A	1・2 前		2			○										兼 1
	日本語学概論②B	1・2 後		2			○										兼 1
	国文法演習A	1・2 前		1					○								兼 1
	国文法演習B	1・2 後		1					○								兼 1
	書道①A	1・2 前		1			○										兼 2
	書道①B	1・2 後		1			○										兼 2
	書道②A	1・2 前		1			○										兼 2
	書道②B	1・2 後		1			○										兼 2
	中国文学概論A	1・2 前		2			○										兼 1
	中国文学概論B	1・2 後		2			○										兼 1
	中国思想概論A	1・2 前		2			○										
	中国思想概論B	1・2 後		2			○										
	中国近現代文学史A	1・2 前		2			○										兼 1
	中国近現代文学史B	1・2 後		2			○										兼 1
	日本漢学概論A	1・2 前		2			○										兼 1
	日本漢学概論B	1・2 後		2			○										兼 1
	中国書道史A	1・2 前		2			○										兼 1
	中国書道史B	1・2 後		2			○										兼 1
	韓国文学史A	1・2 前		2			○										兼 1
	韓国文学史B	1・2 後		2			○										兼 1
	漢字情報処理	1・2前・後		2			○										兼 1
小計（33科目）	—	—	16	36	0			—			6	0	0	0	0	兼 18	
	中国文学講読①	2・3 前		2			○									兼 1	
	中国文学講読②	2・3 後		2			○									兼 1	
	中国文学講読③	2・3 前		2			○									兼 1	
	中国文学講読④	2・3 後		2			○									兼 1	
	中国思想講読①	2・3 前		2			○									兼 1	
	中国思想講読②	2・3 後		2			○									兼 1	
	中国史学講読①	2・3 前		2			○				1						
	中国史学講読②	2・3 後		2			○				1						
	中国文学講読⑤	3・4 前		2			○										兼 1
	中国文学講読⑥	3・4 後		2			○										兼 1
	中国思想講読③	3・4 前		2			○				1						
	中国思想講読④	3・4 後		2			○				1						

	中国文学研究①	3・4 前	2			○			1				
	中国文学研究②	3・4 後	2			○			1				
	中国文学研究③	3・4 前	2			○						兼 1	
	中国文学研究④	3・4 後	2			○						兼 1	
	中国文学研究⑤	3・4 前	2			○			1				
	中国文学研究⑥	3・4 後	2			○			1				
	中国文学研究⑦	3・4 前	2			○						兼 1	
	中国文学研究⑧	3・4 後	2			○						兼 1	
	中国思想研究①	3・4 前	2			○			1				
	中国思想研究②	3・4 後	2			○			1				
	中国思想研究③	3・4 前	2			○			1				
	中国思想研究④	3・4 後	2			○			1				
	日本漢学演習①	2・3 前	2			○						兼 1	
	日本漢学演習②	2・3 後	2			○						兼 1	
	日本漢学演習③	2・3 前	2			○						兼 1	
	日本漢学演習④	2・3 後	2			○						兼 1	
	日本漢文学史A	2・3 前	2		○							兼 1	
	日本漢文学史B	2・3 後	2		○							兼 1	
	日本漢学講読①	2・3 後	2		○							兼 1	
	日本漢学講読②	2・3前・後	2		○							兼 1	
	日本漢学講読④	3・4 後	2		○							兼 1	
	日本漢学講読⑥	3・4 後	2		○							兼 1	
	日本漢学研究A	3・4 前	2			○						兼 1	
	日本漢学研究B	3・4 後	2			○						兼 1	
	中国語中級会話①	2・3 前	2		○							兼 1	
	中国語中級会話④	2・3 後	2		○							兼 1	
	中国語中級表現①	2・3 前	2		○							兼 1	
	中国語中級表現④	2・3 後	2		○							兼 1	
	中国語中級読解①	2・3 前	2		○				1				
	中国語中級読解④	2・3 後	2		○				1				
	中国語上級会話①	3・4 前	2		○							兼 1	
	中国語上級会話②	3・4 後	2		○							兼 1	
	中国語上級表現①	3・4 前	2		○							兼 1	
	中国語上級表現②	3・4 後	2		○							兼 1	
	中国語上級読解①	3・4 前	2		○							兼 1	
	中国語上級読解②	3・4 後	2		○							兼 1	
	中国語上級読解⑦	3・4 前	2		○							兼 1	
	中国語上級読解⑧	3・4 後	2		○							兼 1	
	ビジネス中国語①	3・4 前	2		○							兼 1	
	ビジネス中国語②	3・4 後	2		○							兼 1	
	中国語学概論A	3・4 前	4		○				1				
	中国語学概論B	3・4 後	4		○				1				
	楷書の古典①A	2・3 前	1		○							兼 1	
	楷書の古典①B	2・3 後	1		○							兼 1	
	楷書の古典②A	2・3 前	1		○							兼 1	
	楷書の古典②B	2・3 後	1		○							兼 1	
	行書の古典①A	2・3 前	1		○				1				
	行書の古典①B	2・3 後	1		○				1				
	行書の古典②A	2・3 前	1		○							兼 1	
	行書の古典②B	2・3 後	1		○							兼 1	
	草書の古典①A	2・3 前	1		○							兼 1	
	草書の古典①B	2・3 後	1		○							兼 1	
専攻科目	かなの古典①A	2・3 前	1		○				1				
	かなの古典①B	2・3 後	1		○				1				
	書道作品制作①A	2・3 前	1		○							兼 1	
	書道作品制作①B	2・3 後	1		○							兼 1	
	日本書道史研究A	2・3 前	2			○			1				
	日本書道史研究B	2・3 後	2			○			1				
	草書の古典②A	3・4 前	2		○							兼 1	
	草書の古典②B	3・4 後	2		○							兼 1	
	かなの古典②A	3・4 前	2		○				1				
	かなの古典②B	3・4 後	2		○				1				
	隷書・篆書の古典A	3・4 前	2		○							兼 1	
	隷書・篆書の古典B	3・4 後	2		○							兼 1	
	書道作品制作③A	3・4 通	2		○				1			兼 2	

書道作品制作③B	3・4 通	2		○			1					兼 2
日本書道史A	3・4 前	2		○			1					
日本書道史B	3・4 後	2		○			1					
書論講読A	3・4 前	2		○								兼 1
書論講読B	3・4 後	2		○								兼 1
基礎韓国語演習①A	2・3 前	1			○							兼 1
基礎韓国語演習①B	2・3 後	1			○							兼 1
基礎韓国語演習②A	2・3 前	1			○							兼 1
基礎韓国語演習②B	2・3 後	1			○							兼 1
韓国語中級会話③	2・3 前	2		○								兼 1
韓国語中級会話④	2・3 後	2		○								兼 1
韓国語中級表現③	2・3 前	2		○								兼 1
韓国語中級表現④	2・3 後	2		○								兼 1
韓国語中級読解③	2・3 前	2		○								兼 1
韓国語中級読解④	2・3 後	2		○								兼 1
韓国語上級会話①	3・4 前	2		○								兼 1
韓国語上級会話②	3・4 後	2		○								兼 1
韓国語上級表現①	3・4 前	2		○								兼 1
韓国語上級表現③	3・4 後	2		○								兼 1
ビジネス韓国語①	3・4 前	2		○								兼 1
ビジネス韓国語②	3・4 後	2		○								兼 1
韓国文学研究A	3・4 前	2			○							兼 1
韓国文学研究B	3・4 後	2			○							兼 1
韓国語学概論A	3・4 前	2		○								兼 1
韓国語学概論B	3・4 後	2		○								兼 1
比較文学・文化演習①A	2・3 前	1			○							兼 1
比較文学・文化演習①B	2・3 後	1			○							兼 1
比較文学・文化演習②A	2・3 前	1			○							兼 1
比較文学・文化演習②B	2・3 後	1			○							兼 1
比較文学・文化論①A	2・3 前	2		○								兼 1
比較文学・文化論①B	2・3 後	2		○								兼 1
比較文学・文化論③A	2・3 前	2		○			1					
比較文学・文化論③B	2・3 後	2		○			1					
比較文学・文化論④A	2・3 前	2		○								兼 1
比較文学・文化論④B	2・3 後	2		○								兼 1
比較文学・文化講義②A	2・3 前	2		○								兼 1
比較文学・文化講義②B	2・3 後	2		○								兼 1
比較文学・文化講義③A	2・3 前	2		○								兼 1
比較文学・文化講義③B	2・3 後	2		○								兼 1
比較文学・文化研究①A	3・4 前	2			○							兼 1
比較文学・文化研究①B	3・4 後	2			○							兼 1
比較文学・文化研究②A	3・4 前	2			○							兼 1
比較文学・文化研究②B	3・4 後	2			○							兼 1
比較文学・文化研究④A	3・4 前	2			○							兼 1
比較文学・文化研究④B	3・4 後	2			○							兼 1
比較文学・文化研究⑤A	3・4 前	2			○							兼 1
比較文学・文化研究⑤B	3・4 後	2			○							兼 1
比較文学・文化特殊研究②A	3・4 前	2			○							兼 1
比較文学・文化特殊研究②B	3・4 後	2			○							兼 1
比較文学・文化特殊研究⑥A	3・4 前	2			○							兼 1
比較文学・文化特殊研究⑥B	3・4 後	2			○							兼 1
小計 (128科目)	—	0	238	0	—		9	0	0			兼 32
日本国憲法	1・2前・後	2		○								兼 1
基礎政治学B	1・2 後	2		○								兼 1
基礎経済学A	1・2 前	2		○								兼 1
基礎経済学B	1・2 後	2		○								兼 1
民俗学A	1・2 前	2		○								兼 1
民俗学B	1・2 後	2		○								兼 1
哲学・倫理学A	1・2 前	2		○								兼 1
哲学・倫理学B	1・2 後	2		○								兼 1
美学A	1・2 前	2		○								兼 1
美学B	1・2 後	2		○								兼 1
心理学A	1・2 前	2		○								兼 1
心理学B	1・2 後	2		○								兼 1
学校ボランティア論	1・2 前	2		○								兼 1

キャリア教育①	1 後	1	○									兼 1
キャリア教育②	2 前	1	○									兼 1
キャリア教育③	2 後	1	○									兼 1
キャリア教育④	3 前	1	○									兼 1
ジェンダー論A	1・2 前	2	○									兼 1
文化人類学A	1・2 前	2	○									兼 1
文化人類学B	1・2 後	2	○									兼 1
美術史A	1・2 前	2	○									兼 1
美術史B	1・2 後	2	○									兼 1
基礎漢文A	1・2 前	2	○									兼 1
宇宙科学A	1・2 前	2	○									兼 1
宇宙科学B	1・2 後	2	○									兼 1
基礎数学A	1・2 前	2	○									兼 1
基礎数学B	1・2 後	2	○									兼 1
情報科学①A	1・2 前	2	○									兼 1
情報科学①B	1・2 後	2	○									兼 1
情報科学②A	1・2 前	2	○									兼 1
情報科学②B	1・2 後	2	○									兼 1
情報処理①	1・2 前後	2	○									兼 2
情報処理②	1・2 前後	2	○									兼 1
情報処理アドヴァンス①	1・2 前	2	○									兼 2
情報処理アドヴァンス②	1・2 後	2	○									兼 2
地球環境論A	1・2 前	2	○									兼 1
地球環境論B	1・2 後	2	○									兼 1
総合英語Ⅰ (コミュニケーション)	1・2 通	2	○									兼 2
総合英語Ⅱ (TOEIC)	1・2 通	2	○									兼 1
総合英語Ⅲ (映画)	1・2 通	2	○									兼 1
総合英語Ⅳ (日常生活)	1・2 通	2	○									兼 1
総合英語Ⅴ (海外旅行)	1・2 通	2	○									兼 1
総合英語Ⅵ (ビジネス)	1・2 通	2	○									兼 3
総合英語Ⅶ (メディア)	1・2 通	2	○									兼 1
総合英語Ⅷ (アカデミック)	1・2 通	2	○									兼 1
総合英語 (文)	1・2 通	2	○									兼 11
ドイツ語①	1・2 通	2	○									兼 1
ドイツ語②	1・2 通	2	○									兼 1
ドイツ語③	1・2 通	2	○									兼 1
フランス語①	1・2 通	2	○									兼 2
フランス語②	1・2 通	2	○									兼 1
フランス語③	1・2 通	2	○									兼 1
ロシア語①	1・2 通	2	○									兼 1
ロシア語②	1・2 通	2	○									兼 1
ロシア語③	1・2 通	2	○									兼 1
中国語①	1・2 通	2	○									兼 4
中国語②	1・2 通	2	○									兼 1
中国語③	1・2 通	2	○									兼 1
韓国語①	1・2 通	2	○									兼 2
韓国語②	1・2 通	2	○									兼 1
韓国語③	1・2 通	2	○									兼 1
日本語①A	1・2 前	1	○									兼 1
日本語①B	1・2 後	1	○									兼 1
日本語②中級A	1・2 前	1	○									兼 1
日本語②中級B	1・2 後	1	○									兼 1
日本語②上級A	1・2 前	1	○									兼 1
日本語②上級B	1・2 後	1	○									兼 1
日本語③中級A	1・2 前	1	○									兼 1
日本語③中級B	1・2 後	1	○									兼 1
日本語③上級 I A	1・2 前	1	○									兼 1
日本語③上級 I B	1・2 後	1	○									兼 1
日本語④A	1・2 前	1	○									兼 1
日本語④B	1・2 後	1	○									兼 1
短期海外研修①	1・2 休	2		○								
短期海外研修②	1・2 休	2		○								
健康スポーツ科学A	1・2 前	2	○									兼 1
健康スポーツ科学B	1・2 後	2	○									兼 1
健康スポーツ①	1・2 通	2			○							兼 1

総合科目

集中
集中

	健康スポーツ②	1・2 通		2				○								兼 1
	シーズンスポーツ①	1・2 休		2				○								兼 1 集中
	シーズンスポーツ②	1・2 休		2				○								兼 1 集中
	小計 (81科目)	—	0	146	0	—			0	0	0	0	0	0	0	兼 56
自由 選択 科目	日本文学講読①A	3 前		2				○								兼 1
	日本文学講読①B	3 後		2				○								兼 1
	日本文学講読②A	3 前		2				○								兼 1
	日本文学講読②B	3 後		2				○								兼 1
	日本文学講読③A	3 前		2				○								兼 1
	日本文学講読③B	3 後		2				○								兼 1
	日本文学講読⑤A	3 前		2				○								兼 1
	日本文学講読⑤B	3 後		2				○								兼 1
	日本文学講読⑦A	3 前		2				○								兼 1
	日本文学講読⑦B	3 後		2				○								兼 1
	日本文学講読⑧A	3 前		2				○								兼 1
	日本文学講読⑧B	3 後		2				○								兼 1
	日本文学講読⑨A	3 前		2				○								兼 1
	日本文学講読⑨B	3 後		2				○								兼 1
	日本文学講読⑩A	3 前		2				○								兼 1
	日本文学講読⑩B	3 後		2				○								兼 1
	日本文学講読⑪A	3 前		2				○								兼 1
日本文学講読⑪B	3 後		2				○								兼 1	
小計 (18科目)	—	0	36	0	—				0	0	0	0	0	0	兼 9	—
教職 課程 科目	道徳教育の指導法	1 前		2				○								兼 2
	特別支援教育概論	1 前後		2				○								兼 1
	教師論	1・2 前		2				○								兼 2
	教育原理	1・2 後		2				○								兼 2
	教育史	1・2 後		2				○								兼 1
	教育心理学	1・2 前後		2				○								兼 1
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2 前後		2				○								兼 1
	教育方法・技術論	2 前後		2				○								兼 2
	教育課程・教育方法論	2 前後		2				○								兼 2
	生徒指導・進路指導論	2 前後		2				○								兼 2
	国語科指導法 I	2 前後		2				○								兼 1
	教育法規	3 前後		2				○								兼 1
	教育相談	3 前後		2				○								兼 1
	国語科教育法A	3 前		2				○								兼 2
	国語科教育法B	3 後		2				○								兼 2
	書道科教育法A	3 前		2				○		1						
	書道科教育法B	3 後		2				○		1						
	中国語科教育法A	3 前		2				○								兼 1
	中国語科教育法B	3 後		2				○								兼 1
	国語科 (古典) 指導法	3 前後		2				○								兼 1
	国語科教育法演習A	3 前		1				○								兼 2
	国語科教育法演習B	3 後		1				○								兼 2
	中国語科教育法演習 II A	3 前		1				○								兼 1
中国語科教育法演習 II B	3 後		1				○								兼 1	
教育実践研究	3 後		2				○								兼 3	
教育実習 I	4		2				○								兼 4 集中	
教育実習 II	4		4				○								兼 4 集中	
教育実習指導	4 前		1				○								兼 4	
教職実践演習 (中・高)	4 後		2				○								兼 4	
小計 (29科目)	—	0	0	55	—				1	0	0	0	0	0	兼 10	—
司書 教諭	学校経営と学校図書館	3 前		2				○								兼 1
	学校図書館メディアの構成	3 前		2				○								兼 1
	学習指導と学校図書館	3 後		2				○								兼 1
	読書と豊かな人間性	3 後		2				○								兼 1
	情報メディアの活用	3 後		2				○								兼 1
小計 (5科目)	—	0	0	10	—				0	0	0	0	0	0	兼 2	—
学芸 員課	生涯学習概論	3 前		2				○								兼 1
	博物館概論	3 前		2				○								兼 1
	博物館経営論	3 前		2				○								兼 1
	博物館資料論	3 後		2				○								兼 1
	博物館資料保存論	3 後		2				○								兼 1
	博物館展示論	3 後		2				○								兼 1

程 科 目	博物館教育論	3 後			2	○									兼 1
	博物館情報・メディア論	3 前			2	○									兼 1
	博物館実習Ⅰ	3 後			1	○									兼 2
	博物館実習Ⅱ	4 前			2	○									兼 2
	小計 (10科目)	—	0	0	19	—			0	0	0	0	0	0	兼 5 —
司 書 課 程 科 目	生涯学習概論	3 前			2	○									兼 1
	図書館概論	3 前			2	○									兼 1
	図書館制度・経営論	3 前			2	○									兼 1
	図書館情報技術論	3 前後			2	○									兼 2
	図書館サービス概論	3 後			2	○									兼 1
	情報サービス論	3 前			2	○									兼 1
	児童サービス論	3 前			2	○									兼 1
	情報サービス演習Ⅰ	3 前後			1		○								兼 2
	情報サービス演習Ⅱ	3 後			1		○								兼 2
	図書館情報資源概論	3 前			2	○									兼 1
	情報資源組織論	3 前			2	○									兼 1
	情報資源組織演習	3 通			2		○								兼 3
	図書館サービス特論	3 後			1	○									兼 1
図書館情報資源特論	3 後			1	○									兼 1	
図書・図書館史	3 後			1	○									兼 1	
小計 (15科目)	—	0	0	25	—			0	0	0	0	0	0	兼 9 —	
ナ ゼ ミ ナ ル	ゼミナールⅠ	3 通	4			○		10	0	0					兼 1
	ゼミナールⅡ	4 通	4			○		10	0	0					兼 1
	小計 (2科目)	—	8	0	0	—		10	0	0	0	0	0	兼 1 —	
研 卒 業	卒業研究	4 通	6			○		10	0	0					兼 1
	小計 (1科目)	—	6	0	0	—		10	0	0	0	0	0	兼 1 —	
合計 (330科目)			—	40	462	109	—	10	0	0	0	0	0	兼 137	
学位又は称号		学士 (文学)		学位又は学科の分野				文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
文学部履修規程に基づき、文学部共通科目14単位、学科共通科目24単位、総合科目12単位、専攻科目32単位、自由選択科目28単位、ゼミナール8単位、卒業研究6単位、計124単位以上を履修しなければならない。(履修科目の登録の上限：40単位 (年間))								1 学年の学期区分			2期				
								1 学期の授業期間			15週				
								1 時限の授業時間			90分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(文学部都市文化デザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
文学部 共通科目	基礎ゼミナール	1 通	2				○				3			
	文学入門A	1 前	2				○		2		3			兼 9 オムニバス
	文学入門B	1 後	2				○							兼 9 オムニバス
	漢学と文章表現A	1 前	2				○							兼 4
	漢学と文章表現B	1 後	2				○							兼 4
	人文学とビジネスデザイン	2前・後		2			○							兼 1
	人文学と教育	2前・後		2			○							兼 1
	人文学とコミュニケーション	2前・後		2			○							兼 2
小計 (8科目)	—	—	10	6	0	—	—	—	2	0	6	0	0	兼 17 —
学科 共通科目	都市文化デザイン学入門	1 前	2				○		1					
	異文化コミュニケーション入門	1 前	2				○				1			
	ポピュラーカルチャー入門	1 後	2				○							兼 1
	メディア学概論	1 前	2				○		1					
	記号学概論	1 後	2				○		1					
	観光社会学概論	1 前	2				○		1					
	アートビジネス概論	1 前	2				○							兼 1
	現代日本文化概論A	1 前		2			○				1			
	現代日本文化概論B	1 後		2			○				1			
	地域社会文化概論A	1 前		2			○		1					
	地域社会文化概論B	1 後		2			○		1					
	英語で学ぶフランス語	1・2 前		2			○				1			
	英語で学ぶ中国語	1・2 後		2			○				1			
小計 (13科目)	—	—	16	12	0	—	—	—	3	0	3			兼 1 —
専攻 科目	地域ブランディング論	2 前	2				○							
	ブランディング・リテラシー演習	3 前		2				○	1					
	エディティング・リテラシー演習	3 後		2				○						兼 1
	パフォーマンス・リテラシー演習	3 前		2				○						兼 1
	都市文化デザイン学研究	3 前	2					○	1					
	コミュニケーションデザイン研究	3 後	2					○	1					
	ゲーム表現文化研究	3 前		2				○	1					
	マンガ表現文化研究	3 後		2				○						兼 1
	アニメ表現文化研究	3 後		2				○			1			
	多文化共生論特殊研究	3 通	2					○			1			
	都市文学特殊研究	3 前		2				○	1					兼 1
	江戸東京文化特殊研究	3 後		2				○			1			
	消費文化産業特殊研究	3 前		2				○						兼 1
	文化ビジネス特殊研究①	3 前												留学生対象
	文化ビジネス特殊研究②	3 後												留学生対象
	アニメーション文化特殊研究①	3 前												留学生対象
	アニメーション文化特殊研究②	3 後												留学生対象
東アジア都市文化フィールドワーク①	3・4 休		2				○	1					集中	
東アジア都市文化フィールドワーク②	3・4 休		2				○			1			集中	
欧米都市文化フィールドワーク	3・4 休		2				○			1			集中	
小計 (20科目)	—	—	6	26	0	—	—	—	2	0	3			兼 6
	日本国憲法	1・2前・後		2			○							兼 1
	基礎政治学B	1・2 後		2			○							兼 1
	基礎経済学A	1・2 前		2			○							兼 1
	基礎経済学B	1・2 後		2			○							兼 1
	民俗学A	1・2 前		2			○							兼 1
	民俗学B	1・2 後		2			○							兼 1
	哲学・倫理学A	1・2 前		2			○							兼 1
	哲学・倫理学B	1・2 後		2			○							兼 1
	美学A	1・2 前		2			○							兼 1
	美学B	1・2 後		2			○							兼 1
	心理学A	1・2 前		2			○							兼 1

総合科目	心理学B	1・2 後	2	○							兼 1
	学校ボランティア論	1・2 前	2	○							兼 1
	キャリア教育①	1 後	1	○							兼 1
	キャリア教育②	2 前	1	○							兼 1
	キャリア教育③	2 後	1	○							兼 1
	キャリア教育④	3 前	1	○							兼 1
	ジェンダー論A	1・2 前	2	○							兼 1
	文化人類学A	1・2 前	2	○							兼 1
	文化人類学B	1・2 後	2	○							兼 1
	美術史A	1・2 前	2	○							兼 1
	美術史B	1・2 後	2	○							兼 1
	基礎漢文A	1・2 前	2	○							兼 1
	宇宙科学A	1・2 前	2	○							兼 1
	宇宙科学B	1・2 後	2	○							兼 1
	基礎数学A	1・2 前	2	○							兼 1
	基礎数学B	1・2 後	2	○							兼 1
	情報科学①A	1・2 前	2	○							兼 1
	情報科学①B	1・2 後	2	○							兼 1
	情報科学②A	1・2 前	2	○							兼 1
	情報科学②B	1・2 後	2	○							兼 1
	情報処理①	1・2 前後	2	○							兼 2
	情報処理②	1・2 前後	2	○							兼 1
	情報処理アドヴァンス①	1・2 前	2	○							兼 2
	情報処理アドヴァンス②	1・2 後	2	○							兼 2
	地球環境論A	1・2 前	2	○							兼 1
	地球環境論B	1・2 後	2	○							兼 1
	総合英語Ⅰ（コミュニケーション）	1・2 通	2	○							兼 2
	総合英語Ⅱ（TOEIC）	1・2 通	2	○							兼 1
	総合英語Ⅲ（映画）	1・2 通	2	○							兼 1
	総合英語Ⅳ（日常生活）	1・2 通	2	○							兼 1
	総合英語Ⅴ（海外旅行）	1・2 通	2	○							兼 1
	総合英語Ⅵ（ビジネス）	1・2 通	2	○							兼 3
	総合英語Ⅶ（メディア）	1・2 通	2	○							兼 1
	総合英語Ⅷ（アカデミック）	1・2 通	2	○							兼 1
	総合英語（文）	1・2 通	2	○							兼 11
	ドイツ語①	1・2 通	2	○							兼 1
	ドイツ語②	1・2 通	2	○							兼 1
	ドイツ語③	1・2 通	2	○							兼 1
	フランス語①	1・2 通	2	○				1			兼 1
	フランス語②	1・2 通	2	○				1			兼 1
	フランス語③	1・2 通	2	○							兼 1
	ロシア語①	1・2 通	2	○							兼 1
	ロシア語②	1・2 通	2	○							兼 1
	ロシア語③	1・2 通	2	○							兼 1
	中国語①	1・2 通	2	○				1			兼 3
	中国語②	1・2 通	2	○							兼 2
中国語③	1・2 通	2	○							兼 1	
韓国語①	1・2 通	2	○							兼 2	
韓国語②	1・2 通	2	○							兼 1	
韓国語③	1・2 通	2	○							兼 1	
日本語①A	1・2 前	1	○							兼 1	
日本語①B	1・2 後	1	○							兼 1	
日本語②中級A	1・2 前	1	○							兼 1	
日本語②中級B	1・2 後	1	○							兼 1	
日本語②上級A	1・2 前	1	○							兼 1	
日本語②上級B	1・2 後	1	○							兼 1	
日本語③中級A	1・2 前	1	○							兼 1	
日本語③中級B	1・2 後	1	○							兼 1	
日本語③上級ⅠA	1・2 前	1	○							兼 1	
日本語③上級ⅠB	1・2 後	1	○							兼 1	
日本語④A	1・2 前	1	○							兼 1	
日本語④B	1・2 後	1	○							兼 1	
短期海外研修①	1・2 休	2	○	○						集中	
短期海外研修②	1・2 休	2	○	○						集中	
健康スポーツ科学A	1・2 前	2	○							兼 1	

	健康スポーツ科学B	1・2 後		2		○									兼 1
	健康スポーツ①	1・2 通		2							○				兼 1
	健康スポーツ②	1・2 通		2							○				兼 1
	シーズンスポーツ①	1・2 休		2							○				兼 1
	シーズンスポーツ②	1・2 休		2							○				兼 1
	小計 (81科目)	—	0	146	0	—			0	0	2	0	0		兼 56
自由 選択 科目	日本文学講読①A	3 前		2		○									兼 1
	日本文学講読①B	3 後		2		○									兼 1
	日本文学講読②A	3 前		2		○									兼 1
	日本文学講読②B	3 後		2		○									兼 1
	日本文学講読③A	3 前		2		○									兼 1
	日本文学講読③B	3 後		2		○									兼 1
	日本文学講読⑤A	3 前		2		○									兼 1
	日本文学講読⑤B	3 後		2		○									兼 1
	日本文学講読⑦A	3 前		2		○									兼 1
	日本文学講読⑦B	3 後		2		○									兼 1
	日本文学講読⑧A	3 前		2		○									兼 1
	日本文学講読⑧B	3 後		2		○									兼 1
	日本文学講読⑨A	3 前		2		○									兼 1
	日本文学講読⑨B	3 後		2		○									兼 1
日本文学講読⑩A	3 前		2		○									兼 1	
日本文学講読⑩B	3 後		2		○									兼 1	
日本文学講読⑪A	3 前		2		○									兼 1	
日本文学講読⑪B	3 後		2		○									兼 1	
小計 (18科目)	—	0	36	0	—			0	0	0	0	0		兼 9	
学 芸 員 課 程 科 目	生涯学習概論	3 前		2		○									兼 1
	博物館概論	3 前		2		○									兼 1
	博物館経営論	3 前		2		○									兼 1
	博物館資料論	3 後		2		○									兼 1
	博物館資料保存論	3 後		2		○									兼 1
	博物館展示論	3 後		2		○									兼 1
	博物館教育論	3 後		2		○									兼 1
	博物館情報・メディア論	3 前		2		○									兼 1
	博物館実習Ⅰ	3 後		1		○									兼 2
	博物館実習Ⅱ	4 前		2		○									兼 2
	小計 (10科目)	—	0	0	19	—			0	0	0	0	0		兼 6
司 書 課 程 科 目	生涯学習概論	3 前		2		○									兼 1
	図書館概論	3 前		2		○									兼 1
	図書館制度・経営論	3 前		2		○									兼 1
	図書館情報技術論	3 前後		2		○									兼 2
	図書館サービス概論	3 後		2		○									兼 1
	情報サービス論	3 前		2		○									兼 1
	児童サービス論	3 前		2		○									兼 1
	情報サービス演習Ⅰ	3 前後		1			○								兼 2
	情報サービス演習Ⅱ	3 後		1			○								兼 2
	図書館情報資源概論	3 前		2		○				1					兼 1
	情報資源組織論	3 前		2		○									兼 1
	情報資源組織演習	3 通		2			○								兼 3
	図書館サービス特論	3 後		1		○									兼 1
図書館情報資源特論	3 後		1		○									兼 1	
図書・図書館史	3 後		1		○									兼 1	
小計 (15科目)	—	0	0	25	—			0	0	1	0	0		兼 8	
ナ ゼ ミ ナ ル	ゼミナールⅠ	3 通	4				○		3	0	3				
	ゼミナールⅡ	4 通	4				○		3	0	3				
小計 (2科目)	—	8	0	0	—			3	0	3	0	0		—	
研 卒 究 業	卒業研究	4 通	6				○		3	0	3				
	小計 (1科目)	—	6	0	0	—			3	0	3	0	0		—
合計 (168科目)		—	46	234	0	—		3	0	3	0	0		兼 102	
学位又は称号	学士 (文学)		学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
文学部履修規程に基づき、文学部共通科目14単位、学科共通科目24単位、総合科目12単位、専攻科目32単位、自由選択科目28単位、ゼミナール8単位、卒業研究6単位、計124単位以上を履修しなければならない。(履修科目の登録の上限：40単位 (年間))							1 学年の学期区分		2期						
							1 学期の授業期間		15週						

1 時限の授業時間	90分
-----------	-----

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部歴史文化学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
二松学舎 共通科目	基礎ゼミナール	<p>【概要】 これから始まる4年間の大学生活を有意義に過ごすために必要なことがらを学ぶ。学習方法のみならず、学習以外での場面で学生生活のあり方も学ぶ。</p> <p>【到達目標】 自ら選択した専攻に基いて、履修計画を立て、必要な授業科目を選択できるようにする。大学での学習・クラブ・サークル活動・アルバイト等を含め、目標に従って時間を計画的に使えるようにする。</p>	
二松学舎 共通科目	自校教育科目	<p>二松学舎入門</p> <p>この講座では、学祖三島中洲の人物像や本学の建学の精神を学び、校名の由来、輩出した人材、漢学塾として創設された後に専門学校時代を経て新制大学に移行し現在に至るまでの本学の自校史を学ぶことで、二松学舎大学という大学がどのような大学なのかを学び、本学の社会的役割、行われている教育研究の内容や成果等、本学の目的・理念・使命等を理解する。また、それによって受講学生自身が自覚的に二松学舎大学とはどのような大学であるのかを再認識することを目標とする。</p> <p>さらに、学祖三島中洲や本学に関係した歴史上の著名人の残した著作等を読解することなどを通して、日本語の文章読解力やコミュニケーション能力の向上等、本学の国漢の伝統を生かした言葉の力の醸成を図る。</p>	
二松学舎 共通科目	未来ビジョン科目	<p>ITリテラシー①</p> <p>【概要】 コンピュータを扱う上での基礎固めを目的とし、特に初心者を対象してパソコンの各種基本操作・Wordによる文書作成・Excelでの表計算等を重点的に学習する。実習形式の授業により実践的なスキルを習得し、課題作成を通じて応用力を養う。</p> <p>【到達目標】 社会人として、最低限身につけておかなければならない技術を習得し、MicrosoftOfficeSpecialist、パソコン検定3級に合格できるレベルを目標とする。</p>	
二松学舎 共通科目	未来ビジョン科目	<p>データサイエンス入門</p> <p>日常で目にする新聞、テレビ、広告などでは、あらゆる数字データが示されている。ここで示されているデータはどうやって得られたものだろうか。また、どのような意味をもっているのだろうか。これらのデータの意味や背景を自分なりに考え、そのデータが正しいか疑わしいかを自身の考えに基づいて理解できる必要がある。そのために必要な統計処理の基礎を学ぶと同時に、表計算・統計処理ソフトを用いてデータの収集から分析方法、分析結果の解釈の仕方などの実践的な知識・技術を養う。</p>	
二松学舎 共通科目	未来ビジョン科目	<p>キャリアデザイン</p> <p>【概要】 大学での学習の特徴、大学生活のコスト、本学の特色、社会から求められる各種の能力等を的確に理解する。そのうえで、各自の大学等での目標設定やその実現に向けて必要な各種のノウハウやツール等の基本を習得する。さらに、就職を取り巻く環境や採用状況等を把握したうえで、就職活動の流れやポイントを理解して、早期に先行きの職業選択等を自主的に行える基盤を作る。</p> <p>【到達目標】 授業での課題発表や就職時の面接等で必要な情報の収集・分析、プレゼンやグループディスカッションのポイントを身につける。社会人として求められる基礎学力(国語力、計算力等)、一般常識力等の現状を把握し、今後のレベルアップに向けたノウハウ等を習得する。</p>	
二松学舎 共通科目	未来ビジョン科目	<p>外国語①</p> <p>総合教養科目のうち、総合英語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢB、ⅣA、ⅣB、総合英語(文)A、B、ドイツ語①A、B、②A、B、フランス語①A、B、②A、B、ロシア語①A、B、②A、B、中国語①A、B、②A、B、韓国語①A、B、②A、Bの中から1科目を選択し履修する。</p>	
二松学舎 共通科目	未来ビジョン科目	<p>外国語②</p> <p>総合教養科目のうち、総合英語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢB、ⅣA、ⅣB、総合英語(文)A、B、ドイツ語①A、B、②A、B、フランス語①A、B、②A、B、ロシア語①A、B、②A、B、中国語①A、B、②A、B、韓国語①A、B、②A、Bの中から1科目を選択し履修する。</p>	
二松学舎 共通科目	未来ビジョン科目	<p>外国語③</p> <p>総合教養科目のうち、総合英語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢB、ⅣA、ⅣB、総合英語(文)A、B、ドイツ語①A、B、②A、B、フランス語①A、B、②A、B、ロシア語①A、B、②A、B、中国語①A、B、②A、B、韓国語①A、B、②A、Bの中から1科目を選択し履修する。</p>	

二松舎 共通科目	未来 ビジョン 科目	外国語④	総合教養科目のうち、総合英語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢB、ⅣA、ⅣB、総合英語(文)A、B、ドイツ語①A、B、②A、B、フランス語①A、B、②A、B、ロシア語①A、B、②A、B、中国語①A、B、②A、B、韓国語①A、B、②A、Bの中から1科目を選択し履修する。
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本国憲法	<p>【概要】</p> <p>日本国憲法は日本国の基本法であり、日本国並びに日本国民が準拠すべき最も重要な法である。日本国憲法の【概要】について検討をおこない、日本社会の抱える具体的問題、国際社会における日本の在り方について、憲法学的視点からの分析をおこなう。まず、日本国憲法の理解について不可欠な基礎的知識の修得を目指す。具体的には、憲法の基礎概念、日本国憲法の成り立ち、日本国憲法上の基本的人権保障の態様、そのための統治機構の制度について、理論、学説、判例等を通じて、学生諸君の理解を進める。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本国憲法をめぐり生ずる具体的な問題について、学生諸君が憲法学的視点から理解し、自分自身の見解を確立、主張することのできる能力の育成を目指す。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	言語学	<p>【概要】</p> <p>ヨーロッパ、中東・アフリカ、アジア等の世界の言語の分布・概要、言語学の基本概念などを理解する。そのために、言語の系統・形態論・統語論・文法論という言語学の基本的な考え方を身につける。そのうえで、音声学の知見、ギリシャ文字・ラテン文字・アラビア文字・ヘブライ文字・インド系文字・楔形文字・エジプト象形文字等の知見を通して、日本語や英語などの身近な言語による先入観に左右されず、言語を客観的にとらえられるようになることを目標とする。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	民俗学	<p>【概要】</p> <p>民俗学は、世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の調査・研究を通して生活文化のあり方や、その基盤を追求する学問である。そこで地域社会に伝承される生活文化を検討し、その基盤や変化、そして現在の存在意義を考える。生活と密着した衣食住や人生儀礼・生業、さらに年中行事や祭り、民俗信仰などをとりあげる。そういった民俗のありようを、時代や社会の変化の中でとらえ、その意味や変容を考える。</p> <p>【到達目標】</p> <p>民俗学とはどのような学問かを理解し、生活文化としての日本民俗の重要性を認識する。また、地域文化としての民俗の特徴を理解できるようにする。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	哲学	<p>【概要】</p> <p>哲学とは、ふだんわたしたちがあたりまえと思っていることがらを、「なぜ?」と問い直す営みであり、この営みをわたしたちが実際に行うためには、西洋の哲学の歴史を学んでおくことが不可欠である。本授業では、「人間とはどのような存在であるか」という問いを軸として、古代から現代までの主要な哲学者の思想、哲学的議論を概観する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>西洋哲学史の大きな流れを理解し、哲学的議論に必要な基礎知識や基本概念、論点を習得する。その知識・理解をふまえ、自分の考えを系統立てて、論理的に表現できるようになる。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	倫理学	<p>【概要】</p> <p>倫理学とは、規範の根拠について問う哲学の一部門である。本授業では、倫理学がこれまで伝統的に扱ってきた問いや議論、学説を概説しつつ、それらを現代社会の倫理的問題の中で捉え直す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>倫理学の基礎知識や基本概念、論点を習得し、自分自身の倫理的判断(「良い/悪い」)の根拠を論理的に説明できるようになる。現代社会に広がる倫理的問題を、多角的な視点から問いかけ、他の人々と議論できるとともに、「いかに行為すべきか」「いかに生きるべきか」といった問いについて主体的に追究できる。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	法学	<p>社会には多種多様な規範があり、その代表例として、宗教、倫理、伝統、慣習といったものがしばしば挙げられる。法もまた、代表的かつ重要な社会規範の一つである。法を学ぶということは、我々の社会の在り様(の重要な一側面)を学ぶということに他ならない。</p> <p>本講は、教職科目としての趣旨も踏まえ、はじめに憲法(特に人権論)に力点を置き、法を支え、また法の背後に控える基本的な考え方(例えば、「公共の福祉」とは何か、「個人の尊重」と「人間の尊厳」との関係は如何なるものか、など)を把握する。</p> <p>続いて、我々の社会の中で法が如何に機能しているかを理解するために、民法・刑法を中心に具体的な事例を多く扱いながら、法的思考方法に基づく問題解決の在り方や、倫理その他の社会規範との相違点・共通点を概観する。</p>

二松舎 共通科目	総合 教養 科目	宗教学	<p>【概要】 世界中で宗教に関係する紛争や問題が起こっている。なぜこのような紛争や問題が起こっているのか、本当に宗教が紛争の原因となっているのかを理解するには宗教を正しく理解する必要がある。そこで、本講義では宗教の基本的な知識を身に付けることによって宗教を理解することができるようになる。</p> <p>【到達目標】 宗教の基礎的な用語と古代宗教、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教についてどのようなものであるかを理解し、関連づけて論じることができる。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	心理学	<p>【概要】 心理学の基本的な知識を学習する授業である。人間の行動の背後にあるしくみについて、心理学の観点から考察し、人間理解の幅を広げてほしい。具体的な内容としては、知覚、学習、記憶、思考を扱う。心理学の基本的な知識のうち、知覚、学習、記憶、思考の領域について理解し、心理学的な観点から人間の日常的な行動について考察することができる。</p> <p>【到達目標】 知覚、学習、記憶、思考の領域について、基本的な概念を理解し、</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	学校ボランティア論	<p>【概要】 今日の学校教育で求められる「地域の教育力の導入」について、現状把握を行うとともに、体系的にボランティア活動をとらえ、考察する。現在進められている学校と地域社会との連携による開かれた学校づくりや安心・安全な学校づくりの実現に、学校ボランティア活動がどのような関わりを求められるかの理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 ・学校ボランティア活動の実際を体系的にとらえることができる。 ・学校の教育活動の中にどのように地域等の関わりを深めることができるか構想を膨らませることができる。 ・自己のボランティア意識の高揚を図り、積極的に学校教育との関わりを探究することができる。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	介護等体験事前指導	<p>【概要】 障がいのある人々や介護を要する高齢者に関する認識を深めるとともに、介護等体験の意義を理解し、体験先の学校、施設などに関する基礎知識を習得する。また、教員に求められる対人関係の持ち方を理解し、自分なりに努力と工夫ができるようになる。</p> <p>【到達目標】 介護等体験の意義を理解し、自分なりの目標をもって取り組むことができるようになること。障がいのある人々や介護を要する高齢者に関する基礎知識を習得すること。障がい児（者）や介護を要する高齢者との関わりの基本、なかでもコミュニケーションの重要性を理解し、自分なりに努力と工夫をできること。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	介護等体験	<p>【概要】 障がいのある人々や介護を要する高齢者に関する認識を深めるとともに、介護等体験の意義を理解し、体験先の学校、施設などに関する基礎知識を習得する。また、教員として必要とされる対人関係能力を理解し、自分なりに努力と工夫ができるようになる。</p> <p>【到達目標】 介護等体験の意義を理解し、自分なりの目標をもって取り組むことができるようになること。障がいのある人々や介護を要する高齢者に関する基礎知識を習得すること。障がい児（者）や介護を要する高齢者との関わりの基本、なかでもコミュニケーションの重要性を理解し、自分なりに努力と工夫をできること。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	ジェンダー論	<p>【概要】 私たちの生きている社会は、大きな変革期にさしかかっています。その変化がどのように生じ、展開しているのかを、ジェンダーを通じて考えます。私たちが自然な性差と思っていることは、そのほとんどが言語的・社会的に作られたものであることを明らかにし、その過程を分析することを通じて、私たちの社会に存在する様々な権力関係を考えるきっかけとします。ジェンダー、性差、セクシュアリティ、恋愛・婚姻、家族、親密性、等の諸概念を理解し、社会の権力とポリティクスの在り方を考えます。</p> <p>【到達目標】 ジェンダーという視点を通じて社会学の基礎的な発想法や視点を獲得し、身近な社会現象を社会的視点で解釈できるようになること。</p>	

二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本史	<p>【概要】 古代から現代までの日本史の基本的な展開を「アジアの中の日本」という観点に留意しながら概観する。各時代の論点となっているテーマやそれに関連する資料についても適宜紹介する。日本史の基礎知識を習得しながら、各時代の変化を構造的に理解することを旨とする。</p> <p>【到達目標】 歴史を複数の立場から多角的に捉え、考察できるようにする。現代の価値観で過去の歴史を評価するのではなく、その時代の価値観に基づいて内面的に理解できるようにする。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	西洋史	<p>【概要】 ヨーロッパは、多くの側面において世界史に大きな影響を与えてきたが、その影響の濃淡は様々ではない。そこで、高校世界史レベルの復習も進めながら、古代から現代にいたる各時代の特徴を押さえつつヨーロッパ史の展開を概観し、そのなかで「ヨーロッパ」地域概念、絶対王政、啓蒙主義、立憲主義、ナショナリズム、社会主義など主要な諸問題を考察する。</p> <p>【到達目標】 既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような、大学教養レベルにふさわしい知的態勢の構築をめざす。そのために、(1)ヨーロッパ史に関する従来の説明を批判的に考察し、(2)歴史事象をとらえて自分で考えることができるようにして、一問一答式に慣れた思考法を克服することをめざす。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	美術史	<p>【概要】 日本は、古代より東アジアの国々の影響を強く受けながらも、固有な芸術文化を育んできた。その美術は、時代とともに変化するとともに多様化し、現在数々の作品として遺されている。これらの作品を素材に、制作者や様式、その美意識について考察する。今回は飛鳥～平安時代にかけての日本の美術に焦点が当てられる。日本美術史をこれから学ぶ学生が、美術史を理解するために必要な用語等の基礎知識を身につけることができるようになる。</p> <p>【到達目標】 日本美術史の各時代における主要作例について学ぶ。作品のスライドを観賞することにより、日本の美術を理解する。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	仏教史	<p>【概要】 仏教はアジアの国々の文化に、非常に大きな影響を与えた。各国に伝えられた仏教は、実に多様である。そこで、歴史学の視点から、日本を含めた、特に東アジアにおける仏教の広がりを概観し、各国における仏教の相違について具体例を挙げた上で触れる。その上で、日本において仏教が果たした役割について具体的事象を列挙しながら概観し、仏教の歴史的意義を考察する。</p> <p>【到達目標】 日本を含めた東アジアにおける仏教の歴史について十分に理解する。また、仏教の歴史的意義についての理解を深める。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	芸術学	<p>【概要】 美学と美術史の基礎をつうじて、美の概念はどのように揺れ動いてきたか、優れた造形はどのような要素を持っているのかを学ぶ。美学においては、自然美と芸術、天才、創造、オリジナルと複製といった問題の深さを理解する。美術史においては、先史時代から現代までの、西洋と東洋（日本を含む）の古典的な絵画や彫刻などについて図像を紹介しながら、その魅力を考えていく。</p> <p>【到達目標】 芸術学の入門的な考え方や知っておくべき代表的な造形作品について学習し、文化を多角的に考察するための基礎を身につけること。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	東洋史	<p>【概要】 東洋史の扱う地理的範囲は広いが、本講義では中国史を中心にして勉強していく。主に中国歴代王朝の政治体制と対外関係を中心に整理し、そこに展開されている中国と周辺諸国との関係、主に日本、朝鮮との関係を歴史的に見ていく。</p> <p>【到達目標】 東洋史が扱う範囲と時代区分、人口、民族について即ち東洋史全体に関する基本知識を勉強して理解する。これを通して東洋史勉強する方法をマスターする。次に中国史を中心とする東洋世界を理解することで、今日の中国とその対外関係が歴史的に如何に形成されたのかを考える力、更に日本史特に日中関係の歴史に対する複数の視点で客観的に捉える力を身につける。</p>	

二松舎 共通科目	総合 教養科目	欧米文化史	<p>【概要】 栄養摂取を主目的としない嗜好品としての酒は、生命維持に直接かかわるわけではないにもかかわらず、古くから人間の生活に少なからぬ喜びや楽しみを与えてきた。とりわけ醸造酒は、人類の歴史とともに古いとさえいえる。そこで本講義では、高校世界史レベルの復習も進めつつ古代から現代までの欧米酒文化を概観するなかで、とくに大航海時代以降の「コロンブスの交換」(クロスビー)によって惹起された欧米を中心とする酒の異文化間交流の諸相を考察する。その際、欧米文化を代表するワインとビールを、日本酒(清酒)との比較文化史的に考察する。</p> <p>【到達目標】 古代ギリシア・ローマ時代から大航海時代にいたる欧米酒文化のグローバルな展開という観点から食文化史の理解を深める。また、既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような、大学教養レベルにふさわしい知的態勢の構築をめざす。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養科目	環境科学	<p>【概要】 地球温暖化問題及び東日本大震災で問題となった地震、津波、そして放射能とはどのようなものかを解説する。</p> <p>【到達目標】 温暖化の問題を考えながら、科学的思考を身につける。津波のメカニズム、そして放射能に関しての正しい理解を得る</p>
二松舎 共通科目	総合 教養科目	宇宙科学	<p>【概要】 天文、宇宙の話のできる限り分かりやすく説明する。また、それにまつわる様々な物理法則を説明する。</p> <p>【到達目標】 宇宙に関心を持ってもらう。物理的に自然を見る眼を養う</p>
二松舎 共通科目	総合 教養科目	地理学	<p>【概要】 本授業では現代世界・社会の諸問題に地理学がどのように向き合っているかを考えるにあたり、具体的な事例を通して主要な地理学の研究成果とアプローチを紹介する。そして、地理学を通して私たちが生きる現実世界の様々な現象や課題とどのように向き合うことができるのか、ともに考えていく。</p> <p>【到達目標】 現代社会の諸現象の特徴および諸問題・課題を、ローカル、ナショナル、グローバルなど様々な空間スケールの視点を用いて理解、把握するとともに、解決に向けた提言をできることである。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養科目	基礎数学	<p>【概要】 中学受験問題や高校レベルの論理に関する問題等を授業中に考えてもらう。数学の知識を必要とはしない。考える力をつけること。つまり、1つのことを徹底的に考え抜く姿勢を身につける。</p> <p>【到達目標】 実用的には、文系学生に求められる就職試験レベルの数学、論理をこなせるようになること</p>
二松舎 共通科目	総合 教養科目	情報科学	<p>情報処理においては、キーボード処理の自由度と、データ入力 of 正確さが求められ、情報の活用に繋がる。プログラミング言語やアプリケーションソフトをマスターする事により曖昧であった情報が示す方向が見えてくる。本授業では情報処理の基礎を復習後、プログラミング言語の基本的な流れをマスターする事を旨とする。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養科目	プログラミング入門A	<p>近年、システムエンジニアの人手不足から文系学部においても高度な情報教育が求められている。</p> <p>本科目では、比較的ポピュラーなプログラミング言語である Visual Basic .NET (現 Visual Studio Community) について学んでいく。はじめに正確なソースコード入力のためのキーボード練習と情報処理の基礎を復習し、次に Word・Excel 等のマクロを具体的に作成することで Visual Basic .NET の役割や使い方を学習していく。</p>

二松舎 共通科目	総合 教養 科目	プログラミング入門B	プログラミング入門Aに引き続き、VisualBasic.NETを用いて分岐処理・繰返処理などの基本的な構造の理解を進める。同時にプログラミング内での関数の使い方や、サブルーチンなどを含めたプログラム全体の構造・設計を学習する。 次にその応用として、複数のサンプルプログラムを作成しトライ＆エラーを繰り返すことでより実践的な理解力の向上を目指す。 また、PhotoshopやIllustratorなどに代表される画像処理ソフトと連携させたグラフィックス処理なども学習する。	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	情報処理アドヴァンス	【概要】 情報化社会においてコンピュータ習得は必須条件となっています。さらに、就職する上では基本的なスキルだけではなく、実務にも耐えるスキルが要求されます。そこで、本授業ではWordとExcelの中級レベルを学ぶことによって応用する力を養うことを目的とした授業を行ないます。Wordはポスターを作成することにより図形機能とレイアウトの応用的機能を身に付け、Excelでは日常生活においても応用することのできるものを学習することにより、楽しみながらスキルを身につける。 【到達目標】 WordとExcelの中級レベルの操作を身に付ける。	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	データベース演習	データベースとは単なるデータの収集・保管にとどまらず、近年では意思決定やAIに代表される自律処理システムには欠かせないものとなっている。また、データの収集・加工・分析の能力は社会人全員に必須のスキルとなってきている。 まずはExcelを用いての簡単なデータベース構築・処理から始まり、実社会で広く使われているAccessを利用したデータベース利用方法を学ぶ。加えて、リレーショナルデータベースに関する本質的な理解を深めるためにSQLについての基本的な文法や構造を学び、データの抽出やデータベースの正規化についての理解に努める。	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	地球環境論	【概要】 大気と海洋、そして陸上の人間活動について化学という手段を用いて、実際に生じているいろいろな大気・海洋・陸域での現象が解明されつつある例を示します。物質が循環しているということを通して、地球システムに対する理解を深め、現在、起こりつつある地球環境の問題にどう取り組むかを考えていきたいと思います。本授業では地球を覆っている大気と海洋、人間の生息する陸域、そして気候変動に対して理解を深めることが目的です。 【到達目標】 地球は46億年、常に変わり続けています。その地球表面の70%が海に覆われていることから青い惑星と呼ばれます。しかし、地球表面を覆う大気には白い雲がたえず渦巻いています。人類が出現し、その活動は、地球の環境を急速に変えつつあります。「風が吹けば、桶屋が儲かる」という輪廻の地球環境の世界を、今までとは異なる視点で見ることができるようになるのが目標です。	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	情報システム概論	ITや情報処理の理解を深めるためには、実習等を通じて実際にパソコンを操作するという作業が不可欠である。しかしながら、WordやExcelといったアプリケーションソフトの基本的な使い方はマスターしていても、コンピュータそのものの仕組み（CPU・メモリ・HDD）やディレクトリ構造、コンピュータネットワークについての知識は皆無だという学生も多い。本講義では主に、実習以外で必要とされるITシステムに関する知識を習得することを目的とする。	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	総合英語 I A	【概要】 英語でのコミュニケーション能力（Speaking力）を養成します。日常生活を英語で考え、英語で話すことの心理的ハードルを下げながら、トピックに対して「自分自身」の意見を持ち、グループワークなどを通して、表現することに慣れることを目指します。またコミュニケーションの前提が異なる異文化への理解、視座を広げます。発表の機会が多くあり、学生は最終的にグループプレゼンテーションを通して、相手にしっかり意図を「伝え」「伝わる」Presentation力をつけることを目指します。 【到達目標】 日常生活を英語で考え、英語で話すことの心理的ハードルを下げる。トピックに対する「自分自身」の意見を持ち、アイデア、経験をシンプルに英語で言えるようになる。視野を広げ、異文化に対する理解を深める。相手にしっかりと「意図を伝える」プレゼンテーションが英語でできるようになる。	

二松舎 共通科目	総合 教養 科目	総合英語 I B	<p>【概要】 英語でのコミュニケーション能力（Speaking力）を養成します。日常生活を英語で考え、英語で話すことの心理的ハードルを下げながら、トピックに対して「自分自身」の意見を持ち、グループワークなどを通して、表現することに慣れることを目指します。またコミュニケーションの前提が異なる異文化への理解、視座を広げます。発表の機会が多くあり、学生は最終的にグループプレゼンテーションを通して、相手にしっかり意図を「伝え」「伝わる」Presentation力をつけることを目指します。</p> <p>【到達目標】 日常生活を英語で考え、英語で話すことの心理的ハードルを下げる。トピックに対する「自分自身」の意見を持ち、アイデア、経験をシンプルに英語で言えるようになる。視野を広げ、異文化に対する理解を深める。相手にしっかりと「意図を伝える」プレゼンテーションが英語でできるようになる。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	総合英語 II A	<p>【概要】 TOEIC500点を目指し、教科書及びプリントを用いて、TOEICテストを正しく把握し、その出題形式や問題自体に慣れ、また問題を解いていく過程で、英語圏の社会的・文化的背景の理解を深め、特に英語での聞く力および読む力を養います。授業中に行う様々な活動を通じて、TOEICの問題を実際に解くために必要な、語彙力・文法を読み解き解釈する力・文および文章や全体の構成への理解・解釈の仕方や実践的テスト攻略法を身に付け、また、各種英語の発音やイントネーションについても学びます。</p> <p>【到達目標】 TOEICテストを正しく把握し、その出題形式や問題自体に慣れ、問題を解いていくことができる。英語圏の社会的・文化的背景や音声・発音の特徴などを深く理解し、TOEICの問題を実際に解くために必要である、実践的な語彙力・文法や文章、全体の構成を読み解く力を基に正しく英語を理解することができた結果、TOEIC500点をクリアできる。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	総合英語 II B	<p>【概要】 TOEIC500点を目指し、教科書及びプリントを用いて、TOEICテストを正しく把握し、その出題形式や問題自体に慣れ、また問題を解いていく過程で、英語圏の社会的・文化的背景の理解を深め、特に英語での聞く力および読む力を養います。授業中に行う様々な活動を通じて、TOEICの問題を実際に解くために必要な、語彙力・文法を読み解き解釈する力・文および文章や全体の構成への理解・解釈の仕方や実践的テスト攻略法を身に付け、また、各種英語の発音やイントネーションについても学びます。</p> <p>【到達目標】 TOEICテストを正しく把握し、その出題形式や問題自体に慣れ、問題を解いていくことができる。英語圏の社会的・文化的背景や音声・発音の特徴などを深く理解し、TOEICの問題を実際に解くために必要である、実践的な語彙力・文法や文章、全体の構成を読み解く力を基に正しく英語を理解することができた結果、TOEIC500点をクリアできる。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	総合英語 III A	<p>【概要】 中学・高校で学んだ知識を復習し、「学校英語」と「ネイティブの英語」との接点を確認していきます。諦めずにかんばった人はリスニング上達のきっかけを掴むことができます。</p> <p>【到達目標】 上述の学習活動が続けることにより、より効率的な学習ストラテジーを学習者に獲得させることを目指します。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	総合英語 III B	<p>【概要】 中学・高校で学んだ知識を復習し、「学校英語」と「ネイティブの英語」との接点を確認していきます。諦めずにかんばった人はリスニング上達のきっかけを掴むことができます。</p> <p>【到達目標】 上述の学習活動が続けることにより、より効率的な学習ストラテジーを学習者に獲得させることを目指します。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	総合英語 IV A	<p>【概要】 The purpose of this course is to improve listening and speaking ability for common conversational topics. This practice will also lead to expanding vocabulary.</p> <p>【到達目標】 Have the opportunity to have further practice in listening to and speaking about topics which some passive knowledge may be had.</p>	

二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	総合英語IVB	<p>【概要】 The purpose of this course is to improve listening and speaking ability for common conversational topics. This practice will also lead to expanding vocabulary.</p> <p>【到達目標】 Have the opportunity to have further practice in listening to and speaking about topics which some passive knowledge may be had.</p>
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	総合英語（文）A	<p>【概要】 この授業では、主に英語で読む力を養います。効率的かつ効果的に読むために、段落構成・要約・大意把握・特定情報の読み取り・飛ばし読みなどの基本的な知識や技術の習得を目指します。また、発表などの様々な活動を通して、読む力ばかりでなく、書く力・話す力・聞く力の総合的な向上も図ります。コミュニケーションの道具として実際に英語を積極的に使い、クラスメートとの協働的な活動により学びを深めます。</p> <p>【到達目標】 読むために必要な知識と技術を活かして正確に且つ速く読むことができる。文章の内容を反映させた要約を書くことができる。文章を分析的に読み、自分の見解を形成することができる。書くために必要な知識や技術を活かして原稿を作成し、自信をもってクラスメートの前で発表することができる。英語をコミュニケーションの道具として使い、様々な活動に積極的に取り組むことができる。</p>
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	総合英語（文）B	<p>【概要】 この授業では、主に英語で読む力を養います。効率的かつ効果的に読むために、段落構成・要約・大意把握・特定情報の読み取り・飛ばし読みなどの基本的な知識や技術の習得を目指します。また、発表などの様々な活動を通して、読む力ばかりでなく、書く力・話す力・聞く力の総合的な向上も図ります。コミュニケーションの道具として実際に英語を積極的に使い、クラスメートとの協働的な活動により学びを深めます。</p> <p>【到達目標】 読むために必要な知識と技術を活かして正確に且つ速く読むことができる。文章の内容を反映させた要約を書くことができる。文章を分析的に読み、自分の見解を形成することができる。書くために必要な知識や技術を活かして原稿を作成し、自信をもってクラスメートの前で発表することができる。英語をコミュニケーションの道具として使い、様々な活動に積極的に取り組むことができる。</p>
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	短期海外語学研修①	<p>【概要】 本学海外協定校で実施される中国語・韓国語・英語学研修プログラムである。春・夏休みなどの長期休業期間中に実施する。語学力の向上や異文化体験はもとより、現地大学講師による専門抗議、ホームステイや大学寮での生活、現地の大学生・ホストファミリーとの交流など、グローバルマインドを養う。</p> <p>【到達目標】 語学力を向上させる。また、滞在国についての総合的な理解や認識を深める。</p>
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	短期海外語学研修②	<p>【概要】 本学海外協定校で実施される中国語・韓国語・英語学研修プログラムである。春・夏休みなどの長期休業期間中に実施する。語学力の向上や異文化体験はもとより、現地大学講師による専門抗議、ホームステイや大学寮での生活、現地の大学生・ホストファミリーとの交流など、グローバルマインドを養う。</p> <p>【到達目標】 語学力を向上させる。また、滞在国についての総合的な理解や認識を深める。</p>
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	短期海外語学研修③	<p>【概要】 本学協定校で実施される中国語研修プログラムである。この語学プログラムでは、集中演習形式での講義を実施する。少人数クラスでの中国語指導、中国歴史文化講座受講、課外活動（現地学生との交流、博物館見学等）による中国語実践から構成されている。</p> <p>【到達目標】 現地の講師の指導を受けながら、これまで学んできた中国語運用能力を向上させる。また、中国文化に対する理解を深め、長い日中文化交流史の中で育まれてきた知識を確認する。</p>
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	短期海外語学研修④	<p>【概要】 本学海外協定校で実施される中国語・韓国語・英語学研修プログラムである。春・夏休みなどの長期休業期間中に実施する。語学力の向上や異文化体験はもとより、現地大学講師による専門抗議、ホームステイや大学寮での生活、現地の大学生・ホストファミリーとの交流など、グローバルマインドを養う。</p> <p>【到達目標】 語学力を向上させる。また、滞在国についての総合的な理解や認識を深める。</p>

二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	ドイツ語①A	<p>【概要】 ドイツ語を初めて学ぶ学生のための入門コース。会話表現にも配慮されたテキストを用いてドイツ語の基本的な文法事項を学ぶ。文法一辺倒の授業にならないように、ドイツ語圏の文物についても随時言及しながら、CD・ビデオ・DVDを活用する予定である。ドイツ語の学習を通して異文化的視点を涵養することも本授業の狙いである。</p> <p>【到達目標】 基本的なドイツ語運用能力の習得が本授業の【到達目標】である。より具体的にはドイツ語技能検定試験の5級から4級程度の総合的な能力養成が目標となる。</p>	
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	ドイツ語①B	<p>【概要】 ドイツ語を初めて学ぶ学生のための入門コース。会話表現にも配慮されたテキストを用いてドイツ語の基本的な文法事項を学ぶ。文法一辺倒の授業にならないように、ドイツ語圏の文物についても随時言及しながら、CD・ビデオ・DVDを活用する予定である。ドイツ語の学習を通して異文化的視点を涵養することも本授業の狙いである。</p> <p>【到達目標】 基本的なドイツ語運用能力の習得が本授業の【到達目標】である。より具体的にはドイツ語技能検定試験の5級から4級程度の総合的な能力養成が目標となる。</p>	
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	ドイツ語②A	<p>【概要】 西欧最大の言語圏を誇るドイツ語を学ぶことで、日本語・英語に限定されがちな枠を越えて、世界に対する新たな視野を拓きましょう。この授業では、会話表現を中心としたドイツ語の習得を目標とします。さまざまなシチュエーションにおける会話文を題材に練習を繰り返し、簡単な日常会話を行うのに必要な基本文法・語彙・表現を習得します。さらに独語・ドイツ文化を介して母国の言語・文化を見直す機会としたいところです。</p> <p>【到達目標】 ドイツ語およびドイツ語圏文化に関する基本的な知識を習得し、ドイツ語による基礎的な日常会話ができるようになることを目的とします。</p>	
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	ドイツ語②B	<p>【概要】 西欧最大の言語圏を誇るドイツ語を学ぶことで、日本語・英語に限定されがちな枠を越えて、世界に対する新たな視野を拓きましょう。この授業では、会話表現を中心としたドイツ語の習得を目標とします。さまざまなシチュエーションにおける会話文を題材に練習を繰り返し、簡単な日常会話を行うのに必要な基本文法・語彙・表現を習得します。さらに独語・ドイツ文化を介して母国の言語・文化を見直す機会としたいところです。</p> <p>【到達目標】 ドイツ語およびドイツ語圏文化に関する基本的な知識を習得し、ドイツ語による基礎的な日常会話ができるようになることを目的とします。</p>	
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	フランス語①A	<p>【概要】 フランス語を初めて学ぶひとを対象としてABCから始め、日常よく用いられる表現、またその表現に関連した文法を説明します。また折に触れ音楽や映画、文学などフランスの文化について解説します。</p> <p>【到達目標】 フランス語の基礎能力（フランス語検定5級合格程度）を身につけ、簡単な日常会話を覚える。</p>	
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	フランス語①B	<p>【概要】 フランス語を初めて学ぶひとを対象としてABCから始め、日常よく用いられる表現、またその表現に関連した文法を説明します。また折に触れ音楽や映画、文学などフランスの文化について解説します。</p> <p>【到達目標】 フランス語の基礎能力（フランス語検定5級合格程度）を身につけ、簡単な日常会話を覚える。</p>	
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	フランス語②A	<p>【概要】 フランス語を初めて学ぶ人のための入門クラスである。単語の読み方、語彙と文法の基礎を身につけ、簡単な日常会話をこなす能力を養う。フランス語を修得するうえで基礎となる事柄を学習すること。文法の解説に重点をおく。</p> <p>【到達目標】 初歩的な日常フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができるようになること。フランス語検定試験五級合格程度の能力の養成を目指す。</p>	
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	フランス語②B	<p>【概要】 フランス語を初めて学ぶ人のための入門クラスである。単語の読み方、語彙と文法の基礎を身につけ、簡単な日常会話をこなす能力を養う。フランス語を修得するうえで基礎となる事柄を学習すること。文法の解説に重点をおく。</p> <p>【到達目標】 初歩的な日常フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができるようになること。フランス語検定試験五級合格程度の能力の養成を目指す。</p>	

二松舎 共通科目	総合 教養 科目	ロシア語①A	<p>【概要】 まずロシア語の文字と発音に慣れることから始め、初歩のロシア語文法を短文による簡潔な表現を通して学んでいくことにします。ロシア語の文法は語形変化が多いので、ゆっくりと進めるようにします。最終的に、辞書を引きながら独力でロシア語の文章が読めるレベルの文法力を目指します。また、ロシアの文化や人々の暮らしについて、折にふれて紹介するようにします。</p> <p>【到達目標】 ローマ文字とは異なるロシア語独自の文字に慣れ、基本語彙を習得し、最終的に、語形変化の多い文法体系の初歩を理解することを目標とします。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	ロシア語①B	<p>【概要】 まずロシア語の文字と発音に慣れることから始め、初歩のロシア語文法を短文による簡潔な表現を通して学んでいくことにします。ロシア語の文法は語形変化が多いので、ゆっくりと進めるようにします。最終的に、辞書を引きながら独力でロシア語の文章が読めるレベルの文法力を目指します。また、ロシアの文化や人々の暮らしについて、折にふれて紹介するようにします。</p> <p>【到達目標】 ローマ文字とは異なるロシア語独自の文字に慣れ、基本語彙を習得し、最終的に、語形変化の多い文法体系の初歩を理解することを目標とします。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	ロシア語②A	<p>【概要】 入門レベルのロシア語の基礎的文法の知識を前提に、できるだけ話せるロシア語を身につけることを目指します。また、接することの少ないロシア文化を紹介していき、語学の背景となっているロシア社会の理解に努めます。限られた時間の中で多彩な内容を盛り込んでいく。</p> <p>【到達目標】 ロシア語辞書を自由に使いこなせるようにし、平易なロシア語の文章であれば、理解しうる程度までの語学力に到達することを目指します。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	ロシア語②B	<p>【概要】 入門レベルのロシア語の基礎的文法の知識を前提に、できるだけ話せるロシア語を身につけることを目指します。また、接することの少ないロシア文化を紹介していき、語学の背景となっているロシア社会の理解に努めます。限られた時間の中で多彩な内容を盛り込んでいく。</p> <p>【到達目標】 ロシア語辞書を自由に使いこなせるようにし、平易なロシア語の文章であれば、理解しうる程度までの語学力に到達することを目指します。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	中国語①A	<p>【概要】 初級中国語文法の基礎を固める、中国語「入門」の科目です（初級者対象）。文法とともに会話にも力を入れレベルアップを目指します。</p> <p>【到達目標】 発音をマスターし、中国語の基本的構文の理解を目標とするとともに、会話のレッスンにより「使える中国語」を目指します。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	中国語①B	<p>【概要】 初級中国語文法の基礎を固める、中国語「入門」の科目です（初級者対象）。文法とともに会話にも力を入れレベルアップを目指します。</p> <p>【到達目標】 発音をマスターし、中国語の基本的構文の理解を目標とするとともに、会話のレッスンにより「使える中国語」を目指します。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	中国語②A	<p>【概要】 初級中国語文法の基礎を固める、中国語「初級」の科目です（初級者対象）。併せてリスニング・スピーキングの能力を鍛えます。</p> <p>【到達目標】 中国語の文章を正確に読み取るすることを目標とすると共に、「聞く・話す」にも力を入れ、「使える中国語」を目指します。</p>
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	中国語②B	<p>【概要】 初級中国語文法の基礎を固める、中国語「初級」の科目です（初級者対象）。併せてリスニング・スピーキングの能力を鍛えます。</p> <p>【到達目標】 中国語の文章を正確に読み取るすることを目標とすると共に、「聞く・話す」にも力を入れ、「使える中国語」を目指します。</p>

二松舎 共通科目	総合 教養 科目	韓国語①A	<p>【概要】 初めて韓国語を学ぶ者を対象とした初級科目である。ハングル（韓国語の文字）の読み方、書き方、基本的な文法、挨拶などを、ドラマで実際に使われている場面を使って学習する。生きた韓国語を初歩から学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ハングルの基本的な読み方がわかる。ハングルが書ける。基本的な挨拶ができる。簡単な文章が読める。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	韓国語①B	<p>【概要】 初めて韓国語を学ぶ者を対象とした初級科目である。ハングル（韓国語の文字）の読み方、書き方、基本的な文法、挨拶などを、ドラマで実際に使われている場面を使って学習する。生きた韓国語を初歩から学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ハングルの基本的な読み方がわかる。ハングルが書ける。基本的な挨拶ができる。簡単な文章が読める。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	韓国語②A	<p>【概要】 韓国語を初めて学ぶ者を対象とした、初級科目である。日常的によく使われる簡単な会話を学びながらハングル（韓国語の文字）とその発音、基礎的な文法を習得する。あわせてその背景となる韓国の歴史や文化についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ハングルを読み、書くことができる。韓国語の基本的な文法を理解する。簡単な日常会話ができる。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	韓国語②B	<p>【概要】 韓国語を初めて学ぶ者を対象とした、初級科目である。日常的によく使われる簡単な会話を学びながらハングル（韓国語の文字）とその発音、基礎的な文法を習得する。あわせてその背景となる韓国の歴史や文化についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ハングルを読み、書くことができる。韓国語の基本的な文法を理解する。簡単な日常会話ができる。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語①A	<p>【概要】 日本古典作品を取り扱う。留学生にとって、古典作品に触れる機会は少ないと思うが、本授業では、古典の基礎や文法、様々な古典作品を学び、日本の古典文学の大まかな流れも理解したい。古典入門とし、現代文との違い（歴史的かなづかひの理解）や古典常識（時や方位、十干十二支等の理解）、古典文法の基礎や和歌の修辞法などを学び、基礎をしっかりと理解する。</p> <p>【到達目標】 ひとりで古文を読めるようにし、基礎の古典文法や古典常識を理解することで、自身で古語辞典を引きながら、短文を解釈できるようになることを目標とする。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語①B	<p>【概要】 時代順に日本古典作品を取り扱う。日本語①Aで習得した基礎古典をもとにして、様々な古典作品に触れ、古典世界を味わう。古文を現代語訳し理解することで、日本語の読解力も養う。日本語①Aで学んだ基礎古典から、自分自身で古文を読み、現代語訳できる力を養う。</p> <p>【到達目標】 様々な古典作品を読み、自ら現代語訳することで、日本の古典世界を理解できるようになることを目標とする。また、正しい現代語訳ができるように日本語力も身につける。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語②中級A	<p>【概要】 授業における日本語でのインタビュー、プレゼンテーション等の発表能力や問い合わせ、お願い、雑談といった日常会話におけるスムーズな会話技術を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 日本語での自己発表の技術を身につけ、また、なるべく効率よく、相手を不快にさせないコミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語②中級B	<p>【概要】 面接、スピーチ等フォーマルな場面の日本語での発表能力を身につけ、また、いろいろなテーマでクラスメートと意見交換しながら、日本語のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 日本語での自己発表の技術を身につけ、自分の意見を自由に表現できるようにすることを目標とする。</p>	

二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語②上級A	<p>【概要】 留学生を対象に、専門のゼミナールにおける発表原稿、レポート、小論文、卒業論文等の作成に必要な基礎を身につけることを目的とした授業をおこなう。授業では、日本語でレポート等を作成する際に使われる文型・表現およびレポートの構成等を中心に取り上げ、受講者の考え、意図することが日本語でより正確に表現できることを目指す。なお、授業におけるコミュニケーションは日本語（中国語での対応可能）でおこなう。</p> <p>【到達目標】 レポートや論文でよく使われる文型や表現、展開パターンを習得し、論理的な文章が作成できるようになることを目標とする。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語②上級B	<p>【概要】 留学生を対象に、専門のゼミナールにおける発表原稿、レポート、小論文、卒業論文等の作成に必要な基礎を身につけることを目的とした授業を行う。授業では自分の関心のあるテーマについて、論証型のレポートを作成し、受講者の意図が日本語でより正確に表現できることを目指す。なお、授業におけるコミュニケーションは日本語（中国語での対応可能）で行う。</p> <p>【到達目標】 自分の関心のあるテーマについて、必要な資料・情報の収集、分類、検討をおこない、自分の思考をまとめ、読み手にとってわかりやすいレポート（4000字程度）を完成することを目標とする。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語③中級A	<p>【概要】 文字・語彙、文法等、日本語能力試験2級合格程度の日本語力を前提として、各学部の授業における発表原稿、レポート、小論文等、文章表現の訓練を行う。特に文章表現の基礎を学習する。原稿用紙の使い方等、基本的な書式を学びながら、文章表現の基礎固めを行う。</p> <p>【到達目標】 文章表現の基礎を学習し、簡単なレポート作成ができるようになることを目標とする。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語③中級B	<p>【概要】 文字・語彙、文法等、日本語能力試験2級合格程度の日本語力を前提として、各学部の授業における発表原稿、レポート、小論文等、文章表現の訓練を行う。特に短文から論理的なレポートが書けるように、段階的に書く練習を行う。簡単な短文から始めて、最終的には自ら資料を探し、論理的なレポートが書ける力を養う。</p> <p>【到達目標】 レポートを書くために、資料を探し、分析し、自分の意見が述べられるようになることを目標とする。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語③上級 I A	<p>【概要】 留学生を対象に、専門のゼミナールにおける発表原稿、レポート、小論文、卒業論文等の作成に必要な基礎を身につけることを目的とした授業をおこなう。授業では、日本語でレポート等を作成する際に使われる文型・表現およびレポートの構成等を中心に取り上げ、受講者の考え、意図することが日本語でより正確に表現できることを目指す。なお、授業におけるコミュニケーションは日本語（中国語での対応可能）でおこなう。</p> <p>【到達目標】 レポートや論文でよく使われる文型や表現、展開パターンを習得し、論理的な文章が作成できるようになることを目標とする。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語③上級 I B	<p>【概要】 留学生を対象に、専門のゼミナールにおける発表原稿、レポート、小論文、卒業論文等の作成に必要な基礎を身につけることを目的とした授業を行う。授業では自分の関心のあるテーマについて、論証型のレポートを作成し、受講者の意図が日本語でより正確に表現できることを目指す。なお、授業におけるコミュニケーションは日本語（中国語での対応可能）で行う。</p> <p>【到達目標】 自分の関心のあるテーマについて、必要な資料・情報の収集、分類、検討をおこない、自分の思考をまとめ、読み手にとってわかりやすいレポート（4000字程度）を完成することを目標とする。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語③上級 III A	<p>【概要】 留学生を対象とし、大学の講義におけるレポートや小論文の書き方（個人的な感想文やエピソード文ではなく、感情や主観を抑えた論述文の書き方）を基礎から学習する。受講者の使用言語は指定なしであるが、クラスにおけるコミュニケーションは日本語（英語も可）で行う。文章による表現技術を養成する。的確な表現を使い、正しい構造の文を書くこと、構成のしっかりした論理的な文章を書くことを主なねらいとする。</p> <p>【到達目標】 授業計画にそって、基礎的な表現技術の1から7のステップを身につける。</p>	

二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語③上級ⅢB	<p>【概要】 留学生を対象とし、大学の講義におけるレポートや小論文の書き方（個人的な感想文やエピソード文ではなく、感情や主観を抑えた論述文の書き方）を基礎から学習する。受講者の使用言語は指定なしであるが、クラスにおけるコミュニケーションは日本語（英語も可）で行う。この講義は、日本語③上級Aの続きであり、先にAを履修していることが望ましい。文章による表現技術を養成する。的確な表現を使い、正しい構造の文を書くこと、構成のしっかりした論理的な文章を書くことを主なねらいとする。</p> <p>【到達目標】 授業計画にそって、基礎的な表現技術の8から12のステップを身につける。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語④A	<p>【概要】 日本の大学の授業は専攻を問わず、受講者が現在の日本社会のしくみや地理、歴史と伝統についての常識を備えていることを前提として行われている。この科目ではその前提となっている日本に関する常識を、政治・経済・地理・歴史の分野に分けて演習形式で学んでいく。さらに総合的な日本語力の向上もはかる。日本の地理、歴史を中心に、与えられたテーマについて調べ、パワーポイントをつかいないながら日本語で発表できるようになる。</p> <p>【到達目標】 ・日本の地理、歴史の基本を知る。 ・レジュメとパワーポイントを使って日本語で正確に説明できるようになる。 ・日本語で、日本の地理・歴史・伝統・文化等、事実を誤りなく説明できるようになる。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語④B	<p>【概要】 日本の大学の授業は専攻を問わず、受講者が現在の日本社会のしくみや地理、歴史と伝統についての常識を備えていることを前提として行われている。この科目ではその前提となっている日本に関する常識を、政治・経済・地理・歴史の分野に分けて演習形式で学んでいく。さらに総合的な日本語力の向上もはかる。日本の地理、歴史を中心に、与えられたテーマについて調べ、パワーポイントをつかいないながら日本語で発表できるようになる。</p> <p>【到達目標】 ・日本の地理、歴史の基本を知る。 ・レジュメとパワーポイントを使って日本語で正確に説明できるようになる。 ・日本語で、日本の地理・歴史・伝統・文化等、事実を誤りなく説明できるようになる。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本事情A	<p>【概要】 現代の日本社会を考えるには、まずかつての日本社会のありようを把握しなければならない。そのうえで現代社会のありようを的確にとらえ、その変化や変容をとらえていく必要がある。「現代日本A」では生活文化に焦点を当て、近世・近代から現代への移り変わりの中で、われわれの生活の何が変わり、また何が変わらないのかを見つめ直す視点を提供したい。 本講義では、現代の生活・社会・文化などのありようを、近世・近代から現代という移り変わりの中で把握できることを目標とする。</p> <p>【到達目標】 現代社会の文化・社会現象に関心を持ち、変化を考慮して的確に捉えられるようにする。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本事情B	<p>【概要】 日本の大学の授業は専攻を問わず、受講者が現在の日本社会のしくみや地理、歴史と伝統についての常識を備えていることを前提として行われている。この科目ではその前提となっている日本に関する常識を、政治・経済・地理・歴史の分野に分けて演習形式で学んでいく。さらに総合的な日本語力の向上もはかる。 日本の地理、歴史を中心に、与えられたテーマについて調べ、パワーポイントをつかいないながら日本語で発表できるようになる。</p> <p>【到達目標】 ・日本の地理、歴史の基本を知る。 ・レジュメとパワーポイントを使って日本語で正確に説明できるようになる。 ・日本語で、日本の地理・歴史・伝統・文化等、事実を誤りなく説明できるようになる。</p>	
二松舎 共通科目	総合 教養 科目	日本文学	<p>【概要】 日本文学の特徴に関する基本的な事柄を学ぶ。日本語で綴られた代表的な文学作品（小説・エッセイ・詩歌・書簡・日記など）の鑑賞を通じて、日本語がもつ叙情性や芸術性に慣れ親しむと共に、日本文化の歴史や特徴について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 日本文学に関する基礎的な知識を得る。文学作品の単純な読解・鑑賞に留まることなく、日本語が持つ叙情性や芸術性を意識的に捉え、文学作品の特徴や仕組みを理解し、基本的な分析や批評を行えるようになる。</p>	

二松舎 共通科	総合 教養 科目	中国文学	<p>【概要】 中国の近代文学（小説）を中心に学んでいく。まず中国の古典小説について概説し、日本文学への影響についても考えていく。その後主に魯迅の作品を原文を参照しながら読み進めていく。またそこから中国近代文学の新しさや、古典文学からの流れを受け継いでいる点についても考えて行きたい。</p> <p>【到達目標】 中国の近代文学について、当時の時代性を理解した上で作品を理解できるようになることを目指す。 中学・高校の国語の教科書に取り上げられる魯迅の作品について、文化や国の違いを正しく理解した上で、教えられるようになることを目指したい。特に魯迅の生まれ育った都市、紹興の特徴について学び、作品の背景への理解を深めることができるようにしていく。</p>
二松舎 共通科	総合 教養 科目	欧米文学	<p>この授業は欧米文学について基本的な知識を持つことを目的とする。</p> <p>まずその源流として、古代ギリシア時代の叙事詩や神話を取り上げる。そして中世におけるロマンスと呼ばれた物語的な抒情詩やイタリアのダンテの『神曲』、イギリスのチョーサーの『カンタベリー物語』、イタリアのボッカッチョの『デカメロン』を取り上げる。次いでルネサンス期文学を代表する劇作家シェイクスピアを取り上げる。近代以降の各国文学については、ロシア、イギリス、フランス、ドイツ、イタリアの文学、またアメリカ文学についても取り上</p>
二松舎 共通科	総合 教養 科目	漢文学	<p>【概要】 本講義は、中国古典文学における有名な漢文（中国古典文）資料をより深く理解し、受講者の将来にわたる漢文教育力の向上を目指す。漢文を読むための基礎的な解釈技能を涵養しつつ、さらにはそれを適切に伝えるための技術の上達をはかる。</p> <p>【到達目標】 講義を通じて、中国古典世界における言語文化や文学史・思想史に関する該博な知見を身につけることができる。くわえて、漢文資料の深い理解に裏付けられた総合的な教育力を高めることができる。</p>
二松舎 共通科	総合 教養 科目	健康スポーツ科学	<p>【概要】 身体の構造を理解して、健康に関する問題点を見つけ出すことができるようになる。 病気になることとは、どういうことかを知る。 自分自身の生活習慣を見直し、何をどのように改善したらいいか考え、行動変化へ結びつけることができるようになる事を目的とする。</p> <p>【到達目標】 自分の日常生活を振り返り、問題点を理解して改善策を考えられるようになる。 事前に病気に対する予防行動ができるようになる。 健康に関する知識を持ち、健康な生活習慣とは何かを考え、問題解決に向けて努力することができるようになる。</p>
二松舎 共通科	総合 教養 科目	健康スポーツ①	<p>【概要】 生涯に渡って健康に生活し、多少の困難やストレスなどに打ち勝ち無事に過ごすには、運動習慣を身につけて体力増進を図っておくことは重要である。さまざまなスポーツを通して新しい人間関係を築き、コミュニケーション能力を高めると同時に、定期的な運動習慣を身につけて、体力の増強を図ることを目的とする。また、課題に対して積極的に取り組む態度や、道具の準備片付けなど、状況判断し協力して行動できるようになることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 さまざまなスポーツを通して、大学生としてのコミュニケーション能力を確立する。卓球、バドミントン、硬式テニスを生涯スポーツとして身につけることを目標とする。</p>
二松舎 共通科	総合 教養 科目	健康スポーツ②	<p>【概要】 生涯に渡って健康に生活し、多少の困難やストレスなどに打ち勝ち無事に過ごすには、運動習慣を身につけて体力増進を図っておくことは重要である。さまざまなスポーツを通して新しい人間関係を築き、コミュニケーション能力を高めると同時に、定期的な運動習慣を身につけて、体力の増強を図ることを目的とする。また、課題に対して積極的に取り組む態度や、道具の準備片付けなど、状況判断し協力して行動できるようになることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 さまざまなスポーツを通して、大学生としてのコミュニケーション能力を確立する。卓球、バドミントン、硬式テニスを生涯スポーツとして身につけることを目標とする。</p>

二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	シーズンスポーツ①	<p>【概要】 夏の野外スポーツを対象とするこのシーズンスポーツ①では、テニスとゴルフを行います。どちらも多様なレベルのクラスを用意していますので、初心者から上級者まで参加可能となっています。ゴルフは、最終日には本コースに出て回る予定です。</p> <p>【到達目標】 テニスもゴルフも、年齢に関係なく、生涯楽しむことができるスポーツです。体力増進とともに、個人の実力に応じた上達を図ることがこのシーズンスポーツ①の【到達目標】となります。</p>	
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	シーズンスポーツ②	<p>【概要】 シーズンスポーツ②では、冬のスポーツスキーを行う。日本のスキー発祥の地で、プロのインストラクターに教えてもらい、テストを受けてメダルを目指す。冬山の厳しい自然に向き合いながら、スキーの上達を目指す。SAJテストを受けて、実力を測る。</p> <p>【到達目標】 個人の上達をSAJのテストにより評価する。</p>	
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語教育概論A	<p>【概要】 外国語としての日本語を教えることとは？から始まり、国内外で行われている日本語教育の現状を把握する。日本語を外国語として教える「日本語教育」に関する基本的な知識、例えば、学習者のレベル分け、シラバスの種類、様々な教授法・学習法、教材選び・作成、評価活動などを身につける。さらには第二言語習得の観点から母語である日本語と他の言語との違いについて自ら検討できるようになる。検定試験（日本語教育能力検定試験や日本語検定）の紹介及び解説も行う。</p> <p>【到達目標】 日本語学習者のレベルに合わせた授業内容を組み立て、教壇に立つ心構えを養う。</p>	
二松学舎 共通科目	総合 教養 科目	日本語教育概論B	<p>【概要】 外国語としての日本語を教えることとは？から始まり、国内外で行われている日本語教育の現状を把握する。日本語を外国語として教える「日本語教育」に関する基本的な知識、例えば、学習者のレベル分け、シラバスの種類、様々な教授法・学習法、教材選び・作成、評価活動などを身につける。さらには第二言語習得の観点から母語である日本語と他の言語との違いについて自ら検討できるようになる。検定試験（日本語教育能力検定試験や日本語検定）の紹介及び解説も行う。</p> <p>【到達目標】 日本語学習者のレベルに合わせた授業内容を組み立て、教壇に立つ心構えを養う。</p>	
文学部共 通科目		文学入門	<p>【概要】 2年次以降の専攻科目への移行をスムーズに行えるよう文学研究の基本的な姿勢を身につけ、ゼミの選択を着実に進めるようになること。</p> <p>【到達目標】 二松学舎大学文学部でどのような「学び」が出来るのかを理解する。教員によっては入門書の紹介なども行うので、自らの「学び」の第一歩を踏み出せるようになる。</p>	
文学部共 通科目		漢学と文章表現A	<p>【概要】 明治期の漢学塾での役割のひとつであった文章表現の教授を歴史的に確認するとともに、近代日本の文章論や文章表現指導論を辿りながら、具体的な文章表現法を受講学生には学んでもらう。特に、文章表現の基本だけでなく、大学でのレポート作成のための文章表現の技法を身につけてもらいたい。文章表現方法の基本事項を歴史と現在を概観・紹介、さらに個々の文章の添削を通して、文章表現の技術を身につけてもらおう。</p> <p>【到達目標】 文章表現方法の基本事項の理解、文章表現教育の歴史と現在の把握、個々の文章の添削を通して文章表現技術の向上、文学部学生としてのレポート作成の作法を身につけてもらおう。</p>	
文学部共 通科目		漢学と文章表現B	<p>【概要】 明治期の漢学塾での役割のひとつであった文章表現の教授を歴史的に確認するとともに、近代日本の文章論や文章表現指導論を辿りながら、具体的な文章表現法を受講学生には学んでもらう。特に、文章表現の基本だけでなく、大学でのレポート作成のための文章表現の技法を身につけてもらいたい。文章表現方法の基本事項を歴史と現在を概観・紹介、さらに個々の文章の添削を通して、文章表現の技術を身につけてもらおう。</p> <p>【到達目標】 文章表現方法の基本事項の理解、文章表現教育の歴史と現在の把握、個々の文章の添削を通して文章表現技術の向上、文学部学生としてのレポート作成の作法を身につけてもらおう。</p>	

文学部共通科目	人文学とビジネスデザイン	<p>【概要】 大学で学ぶ諸学問領域に加えて、積極的に社会で活動・活躍していくための、さまざまなビジネスに関する知識を身につける。海外や日本でのビジネス活動 のなかでの文学とビジネスに関する話を、自分が実社会で生きていくための知識やコミュニケーションツールとして活用する術を修得する。</p> <p>【到達目標】 社会人として活動していくために大学で学びそして学生時代に身につけておかなければならない知識・スキルを文学的観点から身につける。</p>	
文学部共通科目	人文学と教育	<p>【概要】 大学で学ぶ諸学問領域を入口としながら、教育と多様性、教科の意義や教育の役割について考察を深める。格差の拡大、民族や宗教、障がい、ジェンダー、セクシュアリティなど、多様な背景をもつ教育機関の構成員が安心して参画できる場の形成について、教育の国際的動向や教科教育の観点、教育方法の検討などを通して考察を深める。</p> <p>【到達目標】 社会の変化や教育の国際的動向等を踏まえ、多様な背景をもつ生徒・教職員・保護者など教育機関の構成員が安心して共に学び、参画できる場をつくるための基礎知識の習得と方策の考察を目的とする。</p>	
文学部共通科目	人文学とコミュニケーション	<p>【概要】 大学で学ぶ諸学問領域に加えて、積極的に社会で活動・活躍していくための、さまざまな表現力を身につけてほしいと願い、「人文学とコミュニケーション」という講座を開きます。講師は、宝塚歌劇団で活躍された元トップの先生たちです。宝塚歌劇団やその後の舞台生活のなかでの共感体験やそれを基にした目標設定、計画的修練等の有様から、自分が生きていくための知識を手に入れてください。</p> <p>【到達目標】 担当講師の舞台人生から生まれた、人と人の関わりや組織・集団で</p>	
学科共通科目	歴史文化概論	<p>【概要】 古代から現代にいたるヨーロッパ・アメリカ史の展開について、歴史理解に不可欠な政治と社会の関係を中心に考察する。そのために、貴族と市民、統治階級（エリート層）と被支配層、政治党派と政治イデオロギーなど政治・社会の主要側面の持続と変容に着目しつつ、各時代の特徴を押さえる。その際、史的発展段階論をはじめとする歴史理論や代表的な歴史家の足跡にも触れ、歴史学研究がいかにして欧米史を把握しようと試みてきたのかについても検討する。</p> <p>【到達目標】 既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような、大学レベルの歴史研究にふさわしい知的態勢の構築をめざす。そのために、(1)欧米史に関する従来の説明を批判的に考察し、(2)歴史事象をとらえて自分で考えることができるようにして、一問一答式に慣れた思考法を克服することをめざす。</p>	
学科共通科目	日本史概論	<p>【概要】 高校歴史教科書を読み解きながら、旧石器時代から平成時代までの日本史の全体像をイメージする。教科書の知識を使って、ひとつの歴史的事象を政治史、経済史、外交史、社会史、文化史といった複数の視点から捉え直すことで歴史的思考力を鍛える。</p> <p>【到達目標】 原始から現代までの日本史の基本的な流れを一般的な時代区分にしたがって俯瞰する。各時代の特徴と論点を政治・経済・外交・社会・文化の観点から理解し、歴史学の見方・考え方を身につける。</p>	
学科共通科目	アジア史概論	<p>本講義は、日本で歴史学を研究するために、踏まえておくべきアジア史の基本的な知識を伝授するものである。東アジアに位置する日本にとって、最も重要なアジアの国は、中国である。邪馬台国を始め、中国の史書により日本の歴史を窺い得ることが多い。中国史を学ぶことが、アジア史概論の中心となる。また、朝鮮半島の歴史も、日本と深い係わりを持つ。ヴェトナムを含めた東アジア文化圏、さらには中国とさまざまな関係を結んできた北アジアの遊牧民族のあり方も知らねばなるまい。インドを中心とする南アジアは、言うまでもなく仏教生誕の地であり、文化的な影響を日本に与えている。イスラム教を中心とする西アジアは、日本と直接的な係わりを持つことは少なかったが、アジア史全体の理解に欠くことはできない。本講義は、中国の歴史を概観することを中心としながら、北・南・西アジアの歴史にも目配りをしながら、アジア史を概論するものである。</p>	

学科共通 科目	西洋史概論	<p>【概要】 古代ギリシアの「デモクラティア(=democracy)」や古代ローマの「レース・プブリカ(=republic)」をはじめ、国家や政治思想にかかわるの多くの概念(用語)はヨーロッパの歴史的経験に起源をもつ。そこで、主要な政治的概念の生成と展開に着目しつつ、古代から現代までの各時代における具体的事例の検討にもとづいて、ヨーロッパとアメリカの国家や政治・社会関係にかかわる諸概念の歴史的展開を考察する。</p> <p>【到達目標】 既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような、大学レベルの歴史研究にふさわしい知的態勢の構築をめざす。そのために、(1)ヨーロッパ史に関する従来の説明を批判的に考察し、(2)歴史事象をとらえて自分で考えることができるようにし、一問一答式に慣れた思考法を克服することをめざす。</p>	
学科共通 科目	古文書学入門①(古代・中世)	<p>【概要】 古文書は、日記(古記録)とともに日本史研究の基礎的材料であり、これらの読解を通じて歴史像の構築が行われるものである。本講義では、律令国家成立以降にわが国で発達した様々な文書の様式を学ぶとともに、その実例を読解し、文書の果たした役割について理解を深めるとともに、史料としての活用方法を習得する。</p> <p>【到達目標】 日本史を研究するうえで、その基礎的史料となる古文書についての基本的な知識習得を目指す。特に、古代・中世の古文書の様式について学習し、あわせてその様式の古文書の読解も行い、自身が原典の古文書に接し、研究できるスキルを習得する。</p>	
学科共通 科目	古文書学入門②(近世)	<p>【概要】 古文書は、日記(古記録)とともに日本史研究の基礎的材料であり、これらの読解を通じて歴史像の構築が行われるものである。本講義では、主として近世とよばれた江戸時代の様々な文書の様式を学ぶとともに、その実例を読解し、文書の果たした役割について理解を深めるとともに、史料としての活用方法を習得する。</p> <p>【到達目標】 日本史を研究するうえで、その基礎的史料となる古文書についての基本的な知識習得を目指す。近世(江戸時代)の古文書の様式について学習し、あわせてその様式の古文書の読解も行い、自身が原典の古文書に接し、研究できるスキルを習得する。</p>	
学科共通 科目	地理学概説	<p>この授業は、「地理的なものの見方・考え方」を生徒に教授できるようにするための地理的、そしてその基礎にある地理学的な知識・思考を習得してもらうことをめざしている。そのためには、当然のこととして見過ごしてしまいがちな身近な事象について「なぜここに?」「どこからどこへ?」などと地理的好奇心を常に持ち続けることが地理的なものの見方、考え方につながる。本授業では、自然地理学・人文地理学のさまざまな地理的分野を紹介しながら、生徒にもそのような好奇心を持ってもらう授業実践および教案づくりが可能となるような地理的視点・知識・考え方・方法・技法について教授する。</p>	
学科共通 科目	地誌学概説	<p>地誌学とは、自然現象(地形・気候・水文など)と人文現象(都市・経済・歴史・交通など)の相互関係を考察し、各地域の性質を総合的にとらえる地理学の一分野である。この授業では、日本や世界各地の自然環境と人間活動の相互関係について学び、グローバル化する現代世界でそれぞれの地域を単純化することなく理解する能力を身につける。また、世界の各地域の特徴について自然環境、歴史、文化、政治、経済など様々な観点から多角的に理解する。</p>	
学科共通 科目	社会学概説	<p>【概要】 社会学の古典から現代社会学の学説までを講じ、相互行為、社会秩序、共同性、再帰性、差異などの社会学の基本的な概念を理解する。また、社会の成り立ちを理論、近代社会、現代社会の観点から解きほぐし、社会学の視点と考え方を養う。その上で、現代社会における身近な社会現象や社会問題について、受講生自身が考察する。</p> <p>【到達目標】 社会学の基本的な概念を理解する。社会学の視点と考え方を身につける。現代社会の様々な社会問題を考察できる。</p>	
学科共通 科目	政治学概説	<p>【概要】 政治学の基本的な道具(概念)について学生が基礎的理解を得ることを目的として、政治学が扱う領域を幅広く取り上げて丁寧に解説する。授業では題材を日本政治に取りながらできるだけ身近な問題として政治を考えていく態度を養う。</p> <p>【到達目標】 政治学の基本的な道具(概念)を理解し、さまざまな政治現象をこれらの概念を通じて考察するための基礎を身につけるとともに、政治を身近なものとして捉える態度を養うことを目標とする。市民として知るべき政治的知見がマスターできる。</p>	

学科共通科目		経済学概説	<p>【概要】 個別市場の分析を主とするマイクロ経済学と一国や世界といった広い枠組みで経済事象を捉えるマクロ経済学についての入門的な内容を扱う。高等学校政治・経済の経済に関する内容を網羅的に取り上げながら、さまざまな経済事象の原因やメカニズムを分析するための考え方を身につける。</p> <p>【到達目標】 マイクロ経済とマクロ経済学の基礎知識を身につける。高等学校政治・経済の経済に関する内容について網羅的に取り上げて分析し、経済学の考え方を養う。</p>
学科共通科目		哲学概説	<p>【概要】 哲学とは、ふだんわたしたちがあたりまえと思っていることがらを、「なぜ？」と問い直す営みであり、この営みをわたしたちが実際に行うためには、西洋の哲学の歴史を学んでおくことが不可欠である。本授業では、「人間とはどのような存在であるか」という問いを軸として、古代から現代までの主要な哲学者の思想、哲学的議論を概観する。</p> <p>【到達目標】 西洋哲学史の大きな流れを理解し、哲学的議論に必要な基礎知識や基本概念、論点を習得する。その知識・理解をふまえ、自分の考えを系統立てて、論理的に表現できるようになる。</p>
学科共通科目		倫理学概説	<p>【概要】 倫理学とは、規範の根拠について問う哲学の一部門である。本授業では、倫理学がこれまで伝統的に扱ってきた問いや議論、学説を概説しつつ、それらを現代社会の倫理的問題の中で捉え直す。</p> <p>【到達目標】 倫理学の基礎知識や基本概念、論点を習得し、自分自身の倫理的判断（「良い／悪い」）の根拠を論理的に説明できるようになる。現代社会に広がる倫理的問題を、多角的な視点から問いかけ、他の人々と議論できるとともに、「いかに行為すべきか」「いかに生きるべきか」といった問いについて主体的に追究できる。</p>
専門科目	ゼミナール	プレゼミ (日本史・古代～近世)	<p>【概要】 本授業は、3年次以降の専門的な事柄を学ぶゼミナールを受講する前の入門ゼミナールである。日本古代から近世までの歴史について、古記録や古文書を読み解きながら学ぶ。古記録や古文書の読み方についての理解を深め、各時代の特徴について史料読解をもとに正確に捉えていく。</p> <p>【到達目標】 前近代の日本史を専門的に学ぶ上で、古記録や古文書の正確な読解は不可欠である。それゆえ、古記録や古文書を、くずし字辞典や漢和辞典をひきながら、読解できる力を身につける。古代から近世までの歴史に関する理解を深める。</p>
専門科目	ゼミナール	プレゼミ (日本史・近現代)	<p>【概要】 明治維新からアジア・太平洋戦争まで、近代日本が経験した戦争の歴史の変遷を検証する。通説がどのような学術的議論を経て成立したのか、通説以外にどのような説があるのかを知ることで歴史的事象を多角的に捉えて自ら考える力を養う。戦争博物館、国立博物館の資料を使って調べ物をする。</p> <p>【到達目標】 日本近現代史を戦争と戦後という視点から振り返る。文献の輪読と議論を通して基礎知識を身につけるとともに歴史的思考力を養う。レジュメ、レポート作成、プレゼンテーションの基本を習得する。</p>
専門科目	ゼミナール	プレゼミ (欧米史)	<p>【概要】 ワインは、古代ギリシア・ローマ時代から現代にいたるまで、欧米文化の理解に不可欠な要素のひとつである。そこで本講義は、ワインという飲料を切り口に、銘醸地フランスを中心としてヨーロッパ・ワインの歴史的展開を本格的に研究するための予備的鍛錬として、先行研究の読解および歴史研究に不可欠な史料読解（英語、仏語など）の基礎力を養成する。</p> <p>【到達目標】 歴史研究の方法に習熟することを通じて、歴史的考察力を涵養するとともに、既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような、大学レベルにふさわしい知的態勢の構築をめざす。歴史事象をとらえて自分で考える訓練をし、「国民国家」を自明の前提とする一国的な歴史認識をはなれ、よりグローバルな視点から考察する力を涵養する。</p>
専門科目	ゼミナール	プレゼミ (アジア史)	<p>【概要】 高等学校で漢文の授業を受けた学生、受けなかった学生共通して、漢文訓読能力の低下は目に余るものがある。この現状を打破すべく、この授業では専門課程の授業への抵抗感を和らげるため、読解の実践を通して漢文訓読の基礎を身につける。</p> <p>【到達目標】 漢文訓読の様々な基礎事項をマスターする。漢文文法・特殊語彙・特殊語法の説明は勿論、返り点や送りがなの表示の仕方、日本の古典文法の知識、漢和辞典の概説まで、漢文訓読に関わる基礎事項について、知識と技術を身につける。</p>

専門科目	ゼミナール	プレゼミ (思想文化史)	このゼミでは思想と文化という、一見すると漠然としたものについて身近に存在する様々な事例を通して読み解き、理解する視点を養う。思想とは人間が生きている上で中心的な柱となるものであり、人格を形成するものである。また、思想は個人を取り巻く社会や時代の影響を強く受けるものでもある。いっぽう、文化もまた人間が豊かな生活を送るうえで不可欠なものである。文化も思想と同じく個人を取り巻く社会や時代に左右されることが多い。しかし思想と文化は個人の人生を大きく左右するだけではなく、社会や時代を動かすこともある。その積み重ねが我々を取り巻く現在の社会であることを理解するために、このプレゼミではあらゆる事象、出来事、概念を事例としてとりあげ、共に考えていきたい。	
専門科目	ゼミナール	プレゼミ (芸能文化史)	【概要】 近世の芸能や文化にかかわる文献記録を講読する。代表的な芸能のみならず、諸演芸や見世物など、近世の諸芸能を広く知ることによって近世社会の実態を把握する。また、衣食住等の生活文化や祭礼等についての資料を講読することで、諸問題を考察するうえでの基礎的知識を習得する。 【到達目標】 近世文献の基礎的な読解力を身に着けると同時に、講読を通じて各芸能の特質、歴史的変遷、代表的な作品や演者、またほかにも衣食住等の生活文化、祭礼等の知識を習得し、近世社会を理解するにあたっての基礎力を涵養する。	
専門科目	ゼミナール	ゼミナールⅠA	【概要】 それぞれのゼミナールにおいて設定するテーマに基づき、学生が個人またはグループで調査した内容を授業内で報告し、報告内容をもとに議論を行う。	
専門科目	ゼミナール	ゼミナールⅠB	【概要】 それぞれのゼミナールにおいて設定するテーマに基づき、学生が個人またはグループで調査した内容を授業内で報告し、報告内容をもとに議論を行う。	
専門科目	ゼミナール	ゼミナールⅡA	【概要】 それぞれのゼミナールにおいて設定するテーマに基づき、学生が個人またはグループで調査した内容を授業内で報告し、報告内容をもとに議論を行う。	
専門科目	ゼミナール	ゼミナールⅡB	【概要】 それぞれのゼミナールにおいて設定するテーマに基づき、学生が個人またはグループで調査した内容を授業内で報告し、報告内容をもとに議論を行う。	
専門科目	ゼミナール	卒業研究	【概要】 各ゼミナールの指導教員の指示にしたがって卒業論文を執筆し、指導教員の審査を受けることになる。あるいは指導教員の方針によっては、卒業論文の代わりに卒業制作によって審査がなされる場合もある。 【到達目標】 論文の執筆もしくは作品の制作を計画的に遂行し、それを完成させることによって、大学での学習成果を集大成することにある。	
専門科目	専門科目Ⅰ	日本社会史 (明治大正社会史)	【概要】 国土、人口、GDPの増加と西洋化により大きな変化が訪れた明治時代の45年間と、政党政治が実現し社会運動が展開した大正時代の25年間を、当時を生きた人びとの視点から捉え直す。具体的には当時の農民、都市下層民、女性労働者、都市民衆、出稼ぎ労働者、移民、大衆の生き方から、それを支えた社会の価値観について考察する。 【到達目標】 明治時代から大正時代を生きた人びとの日常生活や心性について学び、日本近代史を学ぶ上で必要な見方・考え方を身につける。	

専門科目	専門科目 I	日本文化史 (昭和 문화史)	<p>【概要】 民主化と経済発展を背景に大衆消費社会の下で花開いた昭和時代の文化を、庶民・大衆派の文化人（詩人、作家、落語家、映画人、漫画家、画家、演劇人、作詞家など）の伝記的研究と作品を通して学ぶ。それによって戦前・戦中・戦後を貫く大衆文化の特徴を理解するとともに、近年の昭和レトロブームを歴史学の視点から捉え直す。</p> <p>【到達目標】 昭和時代を生きた文化人の人生と作品を通して大衆文化を理解し、日本近現代史を学ぶ上で必要な見方・考え方を身につける。</p>
専門科目	専門科目 I	日本仏教史① (古代仏教史)	<p>【概要】 本授業では、日本への仏教伝来から平安時代末期までの仏教の歴史について概観する。まず、そもそもの仏教の始まり、仏教思想について述べた上で、日本への仏教伝来から平安時代末期までの仏教の歴史について概観する。平安時代末期以降の日本の仏教に大きな影響を与えた思想は、末法思想である。末法思想の、社会的影響についても述べる。</p> <p>【到達目標】 平安時代末期までの仏教の歴史について基本的な知識を習得する。その上で、仏教が日本の歴史に及ぼした影響、さらにはその意義について十分に理解する。</p>
専門科目	専門科目 I	日本仏教史② (中世仏教史)	<p>【概要】 親鸞の教えを継承する人々の教えと信仰について、親鸞の手紙や妻恵信尼の手紙、親鸞の子孫の手による弟子に向けて教えを書いた書などの史料に基づいて、理想化せずに分析した上で論じる。古代・中世の歴史の中に親鸞やその家族、子孫を位置付けることにより、等身大の姿について講義する。</p> <p>【到達目標】 鎌倉仏教の代表格とされる浄土真宗に着目し、親鸞の教えを継承する人々の教えと信仰を深く理解する。鎌倉仏教とは何かを説明できるようにする。</p>
専門科目	専門科目 I	九段学	<p>【概要】 キャンパス近郊の九段、千鳥ヶ淵の史跡を歴史学と民俗学の視点から観察する。遊就館、昭和館、しょうけい館の展示を見学し、近代日本の戦争の歴史を知る。九段、千鳥ヶ淵が戦没者の慰霊と追悼を象徴的に記憶する役割を果たしてきたことを理解し、「九段学」の構想を目指す。</p> <p>【到達目標】 キャンパス周辺のフィールドワークを通して大学と地域の歴史と文化への理解を深める。九段、千鳥ヶ淵における歴史・文化表象から戦争と平和について考える。</p>
専門科目	専門科目 I	江戸東京史	<p>【概要】 近世の江戸から近代以降の東京への変遷を、近世江戸を中心として経時的にたどる。近世期江戸の政治、経済、文化等を広範囲に扱い、都市・江戸を客観的に把握する。現在の東京の基盤としての江戸に着目し、今につながる文化や遺跡、歴史資料なども取り上げていく。</p> <p>【到達目標】 歴史的変遷を経時的に捉える視点を身につけると同時に、江戸・東京にかかわる基本的な歴史および諸文化についての知識を得る。あわせて史料読解の能力など都市史研究の基礎を身につける。</p>
専門科目	専門科目 I	歴史文化フィールドワーク	<p>歴史学には政治史、経済史、社会史、文化史、地域史といった様々な分野が存在するが、いずれも史料が必要不可欠である。史料のうち、特に一次史料を現地で探索・入手し、分析するにあたって重要かつ必要な手法がフィールドワークである。この授業では実際に現地を歩き、そこで入手し得る史料の特徴や概要、史料の発見と探索の方法、入手した史料を研究で使用する際の読解や技術を教授する。そして、史料が翻刻・刊行された紙ベースのものだけではなく、我々の身近なところに無数に存在するものであることを理解し、歴史学研究におけるフィールドワークの重要性の理解を目指す。</p>
専門科目	専門科目 I	比較文学・文化論③A (中国 문화史)	<p>【概要】 伝説時代から清代までの歴史に沿って、各時代の歴史背景や文化事象をたどりながら、中国 문화史の流れを体系的に学習していく。同時に各時代に展開した日中文化交流の史実も触れる。</p> <p>【到達目標】 1. 中国文化発展の歴史を把握し、その形成過程と文化事象などに関わる基本的な知識をマスターする。2. 日本との比較を通じて中国 문화の特徴を捉える視座を学ぶ。3. 中国 문화史を理解することを通じて、今日の中国とその対外関係が歴史的に如何に形成されたのかを考える力、更に日中文化関係史に対する複数の視点で客観的に捉える力を身につける。</p>

専門科目	専門科目 I	比較文学・文化論③B (中国文化史)	<p>【概要】 伝説時代から清代までの歴史に沿って、各時代の歴史背景や文化事象をたどりながら、中国文化史の流れを体系的に学習していく。同時に各時代に展開した日中文化交流の史実も触れる。</p> <p>【到達目標】 1. 中国文化発展の歴史を把握し、その形成過程と文化事象などに関わる基本的な知識をマスターする。2. 日本との比較を通じて中国文化の特徴を捉える視座を学ぶ。3. 中国文化史を理解することを通じて、今日の中国とその対外関係が歴史的に如何に形成されたのかを考える力、更に日中文化関係史に対する複数の視点で客観的に捉える力を身につける。</p>	
専門科目	専門科目 I	文化交流史	<p>【概要】 欧米列強はアヘン戦争後にアジアと日本への進出を本格化し、日本とは修好通商条約（安政の五カ国条約）により外交関係を樹立した。外交関係を開拓・維持すべき初期局面では、その最前線にたつ現地外交官が、直接的に未知の異文化と対峙し、本国との媒介としてきわめて重要な役割をになった。そこで本講義では、外交官たちが日本をどのように観察し、いかにして日本人と交流し、任務を遂行したのかという具体的な諸側面に着目し、欧米列強と日本との異文化間関係がどのように構築・維持されていったのかという問題を考察する。</p> <p>【到達目標】 主として19世紀以降の欧米列強によるアジア・日本進出とその歴史的影響、欧米外交官たちによる日本観について理解を深める。これにより、既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような、大学教養レベルにふさわしい知的態勢の構築をめざす。</p>	
専門科目	専門科目 I	日本漢文学史A	<p>【概要】 近世・近代の日本漢文学の歴史について、政治や宗教、さらには他の文学ジャンルとの関わりを視野に入れつつ、論じる。漢詩・漢文を中心に講じるが、学問や典籍の問題などについても言及し、総合的な理解を得られるようにする。また、名詩や名文などを積極的に取り上げ、教育をはじめ多方面に役立つ日本漢文学に関する基礎知識を獲得できるようにする。</p> <p>【到達目標】 最新の研究動向についての知識を得つつ、16世紀以前の日本漢文学について、その概況を理解し、漢文学が日本文学や文化において、どのような位置づけを持ち、また役割を果たしたのかについて把握</p>	
専門科目	専門科目 I	日本漢文学史B	<p>【概要】 近世・近代の日本漢文学の歴史について、政治や宗教、さらには他の文学ジャンルとの関わりを視野に入れつつ、論じる。漢詩・漢文を中心に講じるが、学問や典籍の問題などについても言及し、総合的な理解を得られるようにする。また、名詩や名文などを積極的に取り上げ、教育をはじめ多方面に役立つ日本漢文学に関する基礎知識を獲得できるようにする。</p> <p>【到達目標】 最新の研究動向についての知識を得つつ、16世紀以前の日本漢文学について、その概況を理解し、漢文学が日本文学や文化において、どのような位置づけを持ち、また役割を果たしたのかについて把握</p>	
専門科目	専門科目 I	芸能・演劇史①	<p>【概要】 年間を通して、古代から近世（江戸期）に至るまでの日本古典芸能の特徴を学び、古典芸能ひと通りを理解する。能楽（能・狂言）と歌舞伎・落語を主に扱う。文献に基づく学習が中心となるが、舞台映像を多用し、また落語については実演も交える。</p> <p>【到達目標】 伝統芸能の変遷をおさえ、現在の姿から文化史の流れを理解する。伝統芸能や伝統文化の基本的な知識を習得する。</p>	
専門科目	専門科目 I	芸能・演劇史②	<p>【概要】 明治以降の日本近・現代演劇（芸能）の流れを概観していく。春セメスターの「芸能・演劇史②A」では演劇改良運動から壮士芝居、新派の登場、戦前から戦中への新劇の流れを解説する。講義とともに、関連する具体的な作品鑑賞（ビデオ、一作品の部分鑑賞）を行い理解を深める。</p> <p>【到達目標】 明治から昭和初期に至るまでの日本演劇がどのように発展し、展開して来たのかを具体的な演劇人や劇団、劇作を参照しながら理解し把握できるようにする。そのことを通じて、演劇という表現芸術の特徴について思考を深められる。また日常生活において舞台芸術に興味を持ち、観劇を楽しむ態度を養うことができる。</p>	

専門科目	専門科目 I	芸能・演劇史③	<p>【概要】 明治以降の日本近・現代演劇（芸能）の流れを概観していく。春セメスターの「芸能・演劇史②A」では演劇改良運動から壮士芝居、新派の登場、戦前から戦中への新劇の流れを解説する。講義とともに、関連する具体的な作品鑑賞（ビデオ、一作品の部分鑑賞）を行い理解を深める。</p> <p>【到達目標】 明治から昭和初期に至るまでの日本演劇がどのように発展し、展開して来たのかを具体的な演劇人や劇団、劇作を参照しながら理解し把握できるようになる。そのことを通じて、演劇という表現芸術の特徴について思考を深められる。また日常生活において舞台芸術に興味を持ち、観劇を楽しむ態度を養うことができる。</p>	
専門科目	専門科目 I	芸能・演劇史④	<p>【概要】 明治以降の日本近・現代演劇（芸能）の流れを概観していく演劇史講義の後半。この秋セメスターでは、昭和初期の岸田国士から初めて、戦後演劇、1960年代以降の「アングラ演劇」、「小劇場」ブームから1990年代の「現代口語演劇」の登場までを視野に入れて、具体的な作品鑑賞（ビデオ、部分）を行いながら解説して行く。</p> <p>【到達目標】 戦後から現代に至るまでの日本演劇がどのように発展し、展開して来たのかを具体的な演劇人や劇団、劇作を参照しながら理解し把握できるようになる。そのことを通じて、演劇という表現芸術の特徴について思考を深められる。また日常生活において舞台芸術に興味を持ち、観劇を楽しむ態度を養えるようになる。</p>	
専門科目	専門科目 I	日本思想史	<p>この授業では、江戸時代に誕生した著名な思想家（伊藤仁斎、荻生徂徠、安藤昌益、本居宣長など）を取り上げ、日本の近世思想や文化を概説していく。例えば、儒教思想というと我々はあまり身近でないように感じるが、昔の日本人の中には、『論語』『大学』『中庸』『孟子』など儒教の経典から多くのことを学び、生活の規範としていた人々がいた。現在の日本社会では、そういった古い伝統を日常生活の中で意識することはまずない。しかし、その言葉にふれてみれば、長い時間の中で温められ空気のようなになった儒教思想の中に、自分たちがいることに気付く。難しい用語の壁を越え、江戸時代の思想家が格闘した問題に目を向ける。それは、現在を生きる我々にも共通するものでもある。授業では、毎回感想や質問を記すコメントペーパーを用意し、それを中心に対話形式で進めていく。予備知識は特に求めないが、考えることを厭わず積極的に参加</p>	
専門科目	専門科目 I	アジア思想史	<p>【概要】 中国文化のみならず、日本を含む東アジア文化全体を考える上で理解しておく必要がある中国思想の大きな流れとそれを形成する重要な思想家・学派等の特質を各時代ごとに理解する。思想内容の独自性とそれを生み出した時代背景、後世に与えた影響などについて概略を把握する。また、中国思想が東アジアや日本に与えた影響は具体的にどのようなものがあるのか、現代文化・社会にまで与えた影響はあるのかといった観点に立って考えてみる。</p> <p>【到達目標】 中国思想に関する基礎的な知識を習得するとともに、日本文化に与えた影響への理解を深め、また専門科目へのアプローチとなること、思想家・学派と時代の対応関係、中国思想の基本的な文献に関する情報を身に付けることを目標とする。</p>	
専門科目	専門科目 I	日本史通史講義① (古代～近世)	<p>【概要】 日本の古代末期から近世初頭までの社会や政治に関する展開と様相を論じる。その中で、荘園公領制から大名領国制への転換、荘園から惣村・村の成立の問題や大名領国制への転換による在地領主制の止揚、武士の変質等の社会体制の転換を基軸に論じる。そして、鎌倉幕府の成立や蒙古襲来の国内的な影響、南北朝動乱、幕府・鎌倉府の対立、応仁。文明の乱の実像、織豊政権の展開等の武家政権の具体的な政治過程を踏まえながら、古代から近世へ転換していく社会の特質を考察する。</p> <p>【到達目標】 古代末期から近世前期を中心とする日本の歴史の特質を理解することができる。</p>	

専門科目	専門科目 I	日本史通史講義② (近現代)	<p>【概要】 明治天皇、大正天皇、昭和天皇、明仁天皇の軌跡を日本近現代史上の重要な歴史的事象と結びつけて辿ることで、我が国におけるナショナル・ヒストリーの特徴について理解する。『昭和天皇実録』を史料批判することで、そこに何が書かれていて何が書かれていないかを明らかにする。</p> <p>【到達目標】 近代に即位した天皇たちの足跡を通して、日本近現代史の基本的な流れを掴む。『昭和天皇実録』を読み解く過程で歴史学における史料批判の方法を身につける。</p>	
専門科目	専門科目 I	考古学概論	<p>考古学とはどのような学問体系であるのか、考古学が美術史や博物学、生物学、地質学の方法論を下地に形成され、他の分野と協働しながら学際的な学問として成立してきた歴史の経緯と基本的な方法論を中心にその全容を説明していく。また、考古学は人類誕生から農耕・牧畜の開始、都市社会および国家の成立過程、そして近現代までを対象とし長大な文明史と広範な地域を扱う学問である。本講義では、考古学の基礎を学ぶとともに、これまで考古学が明らかにしてきた人類史の画期にも触れることで、考古学を通じて過去の社会と文化に対する歴史認識を深めていく。なお、考古学のフィールドワークは遺跡の発掘調査が基本となる。授業では写真や動画を交えて実際の発掘調査がどのように進められ、その成果が過去の社会・文化をどのように解明してきたのか、日本およびエジプトにおける実例とともに紹介する機会も設ける。</p>	
専門科目	専門科目 I	日本史特講①	<p>【概要】 本講義では、主に九世紀以降に編纂された『日本霊異記』などの、仏教説話集の序文や説話内容を素材として、それらの諸史料に影響を及ぼした、中国の六朝隋唐期の多様な仏教説話集との比較を行うことにより、古代日本における宗教書の成立の問題や、日中の説話構造や内容の差異から、古代日本の社会・信仰・文化の実態や世界観について考えていきたい。</p> <p>【到達目標】 古代日本で編纂された仏教説話集の史料的特質を理解する。また中国仏教説話との比較から、日中の文化的背景の相違を理解する。</p>	
専門科目	専門科目 I	日本史特講②	<p>【概要】 日本の中世後期は、古代から続く荘園公領制から大名領国制への直接的な転換期であり、惣村の成立等から社会が動揺し、領主制を含めた社会時代が大きく変質が迫られる時期である。その時代の様々な様相を考察し、中世後期の時代的特質を論じる。具体的には、その転換期の状況を基本的な社会的な枠組みとその変質の確認をした上で、社会の変化に対応して成立する領主権力である戦国期の領主権力の実像を考察し、さらにその領主権力を包摂し、新たな支配体制を構築する織豊政権の特質を考察する。</p> <p>【到達目標】 日本の中世後期の社会や政治の事象を理解し、時代的特質を理解することができる。</p>	
専門科目	専門科目 I	日本史特講③	<p>【概要】 日本人の精神世界を検討する上で、死に関する検討は不可欠である。本授業では、古代に天台僧源信が『往生要集』を執筆して臨終行儀が貴族社会の中で行われるようになったことを述べた上で、源信の示した臨終行儀が近代の人々の死に際にまで大きな影響を及ぼしたことを論じていく。このような講義を通して、日本人が死への恐怖をいかに超克しようと試みてきたのかを示し、現代人が直面している往生際の問題について考察する。</p> <p>【到達目標】 歴史上の人物は死への恐怖をいかに超克しようと試みてきたのかを理解し、現代社会ではそれをどのように応用していくべきかを考察できるようにする。</p>	
専門科目	専門科目 I	日本史特講④	<p>【授業の概要】 戦後日本史について概説しながら、歴史とは何かについて考える。東京裁判、占領、55年体制、高度経済成長、バブルを経て現在に至るまでの中心・中央の戦後史を、沖縄、女性、在日コリアン、公害患者などの周縁・他者の戦後史によって相対化し、歴史は多様かつ複雑なものであることを理解する。</p> <p>【到達目標】 戦後日本史の基礎知識を習得する。 戦後日本史の論点を把握し、自分なりに考察できる。 歴史に対する見方・考え方を身につける。</p>	
専門科目	専門科目 I	海外社会事情 I (韓国) A	<p>【概要】 朝鮮半島の歴史を講義する。特に第2次世界大戦後の南北分断状況の継続に焦点を当て、韓国・北朝鮮の各国内事情と南北関係進展の経緯について学習する。</p> <p>【到達目標】 日本の隣国でありながら必ずしも日本との関係が良好とは言えない朝鮮半島の実情を客観的に理解できるようになること。主観的・独善的な解釈や先入観を排除し、信頼できる情報・データに基づいて冷静に現実を理解することのできる能力の獲得を目指す。</p>	

専門科目	専門科目 I	海外社会事情 I (韓国) B	<p>【概要】 日韓関係・北朝鮮の時事問題に関心をもち、内容や背景について正しく理解する。自分の意見を整理して発表できるように授業で練習する。自分と異なる意見について、その背景を知り、ひとつの事柄に対する意見の多様性について、理解を深める。</p> <p>【到達目標】 新聞報道で論じられている日韓問題について、韓国社会や日韓の歴史・政治関係の側面から正しく理解し、自分の言葉でまとめて発表する。</p>	
専門科目	専門科目 I	海外社会事情 II (中国) A	<p>【概要】 90年代以降の消費社会化を中心に、中国社会の変容を、日本のそれと詳しく比較対照しながら見ていく。他者理解の前提として、比較する主体である日本の事情の理解にも、多くの時間を割く。中国の昨今の動向や今後の動向など、不確定で証明不能な事柄については、一切取り上げない。</p> <p>【到達目標】 中国、日本の社会を実例として、自分たちが暮らす日常のさまざまな変化の意味を理解し、新たな状況下において主体的な判断を下せるようにする。</p>	
専門科目	専門科目 I	海外社会事情 II (中国) B	<p>【概要】 経済発展の著しい中国とは今後ますます交流する機会が増えていくが、日本と中国の文化背景の違いから、思いがけない誤解を生じてしまうことが往々にしてある。本講義では、中国人との交流に必要な教養としての中国常識を身に着けるために、日中文化交流史、中国近現代史、現代中国社会問題などを学ぶ。</p> <p>【到達目標】 教養としての中国常識を身につけることによって中国人との円滑なコミュニケーションスキルを獲得する。</p>	
専門科目	専門科目 I	東アジア史学講読①	<p>【概要】 司馬遷が著した中国最初の通史であり、正史の筆頭に位置づけられる『史記』を取りあげる。本紀・列伝・世家の中から特に熟知されている人物項羽を選んでじっくり読む。そして、課題を通じて、本文への理解を深めてもらう。</p> <p>【到達目標】 『史記』を読み進めることで、中国の歴史書の体裁や内容の特徴を理解するとともに、漢文読解力の基本的な涵養を身につける。 1. 古典中国語の閲読に馴染むこと。2. 歴史書の最高の傑作への理解を深めること。3. 参考書(工具書)の使用に習熟すること。</p>	
専門科目	専門科目 I	東アジア史学講読②	<p>【概要】 司馬遷が著した中国最初の通史であり、正史の筆頭に位置づけられる『史記』を取りあげる。列伝の中から著名な刺客を選んでじっくり読む。そして、課題を通じて、本文への理解を深めてもらう。</p> <p>【到達目標】 『史記』を読み進めることで、中国の歴史書の体裁や内容の特徴を理解するとともに、漢文読解力の基本的な涵養を身につける。 1. 古典中国語の閲読に馴染むこと。2. 歴史書の最高の傑作への理解を深めること。3. 参考書(工具書)の使用に習熟すること。</p>	
専門科目	専門科目 I	ヨーロッパ史特講	<p>概要 ヨーロッパのヒト・モノが織りなしたグローバルな交流・交渉の展開を考察するに際して、その裏面で展開されるローカルレベルでの対極的な事象との関係も見逃してはならない。そこで本講義では、広義の「近代」、すなわちヨーロッパ列強が本格的な対外進出を開始した大航海時代から、絶対主義が確立する16世紀、人権思想、自由主義・国民主義などが席卷した17～19世紀をへて、帝国主義や社会主義に特徴づけられる20世紀初頭までの時代に着目し、主権国家、国民統合、列強の対外進出と植民地政策、市民革命、産業革命、ナショナリズム運動と国民国家などの主要トピックにもとづいて、グローバリズムとローカリズムの歴史的関係を考究し、世界史的視野でヨーロッパ世界の史的ダイナミズムを読み解く。</p> <p>到達目標 世界史的文脈からヨーロッパ史を学修・理解することにより、既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような、大学レベルの歴史研究にふさわしい知的態勢の構築をめざす。また、そのような作業をつうじて歴史的考察力を涵養し、思考プロセスを重視して一問一答式に慣れた思考法を克服してもらいたい。</p>	

専門科目	専門科目 I	多文化共生講義	<p>【概要】 1990年代以降、世界は、ヒト・モノ・カネ・情報などのさまざまなグローバル化を体験することになった。その結果、国家・個人さらに文化といった各種の次元での相互交流が急激に進展している。他方、移民労働者の増加は、受け入れ国の雇用に影響を与えるだけでなく、自国とは異なる文化・宗教・慣習をもつ人びとの増加を意味し、そこから発生する摩擦や軋轢が問題となっている。これらの課題に対して異文化間において摩擦が起きない状況を示す用語として「多文化共生」という表現が使われることが多い。この授業では、現在、多文化共生についてどのような事象や問題が生じているのかを理解し、その背景や要因を考える。多文化に向かい合うために、まず、自文化を相対化する必要があることを理解する。さらに、異なる文化をもつ人びととの共生について、表象や伝統を切り口にして学ぶ。</p> <p>【到達目標】 異なる文化のとらえ方や、多文化社会に向かい合うための自文化理解を深め、さらに民族の表象や伝統といった観点から多文化共生を考える。それらを通して、異文化や国際社会を理解し、多様な人々とのコミュニケーションがとれる能力を身につけると同時に、全体を俯瞰する視点を持つことで、多様な価値観を尊重できるようになる。</p>
専門科目	専門科目 I	自然地理学講義	<p>【概要】 現代社会における代表的な課題として、自然災害への対処が挙げられる。防災・減災を着実に実施し、安全・安心な社会を実現するには、地理学・社会学・経済学などの既存の学問分野を融合した多面的・多角的なアプローチによる政策の立案と実行が求められている。加えて、自然災害に対する正確な知識とそれに基づく自助・互助のあり方の重要性が指摘されている。本講義では、自然環境を「人間活動の場」として捉え、人と自然の関係史を学ぶとともに、現在の位置づけ、将来の展望について考える。また、「過去は現在・未来を解く鍵である」という立場から、人と自然の関係のもとで生じる「自然災害」の構造について自然地理学の文脈から解説する。</p> <p>【到達目標】 「自然災害」に関して、自然地理学的思考により、様々な時間軸と空間スケールで把握・整理する能力を習得することを目標とする。さらに、「自然災害」についての情報を精査し、批評できるような思考力の基礎を身につける。</p>
専門科目	専門科目 I	民俗学概論	<p>【概要】 日本の民俗学は、当初は柳田國男らによって本格的な研究が進められてきたが、その多くは伝統的な生活の中で繰り返し伝えられる民俗が研究の対象とされ、業績が積み上げられてきた。その後、生活や社会の変化にともなって都市生活や現代の民俗も研究の対象となっている。本講義では伝統的な民俗をとりあげ、民俗学の研究方法を考えると同時に、都市民俗や現代民俗についても考察してゆく。</p> <p>【到達目標】 生活や社会の変化に対応した民俗のあり方を考える視座を身につける。また、現代民俗のありようや変化を理解し、日本の民俗と民俗学研究を理解できるようにする。</p>
専門科目	専門科目 I	日本思想史講読	<p>この授業では近世の日本の排耶書、つまりキリシタン排除のために著された書物の講読を通じて、キリシタンとキリスト教に対する近世の人々のまなざしを読み解く。近世のキリシタン禁制下で著された複数の排耶書の執筆者は様々な立場の人々であった。時代背景と併せて読解することにより、異文化としてのキリスト教に対する当時の人々の態度を読み取り、現代における「多様性」や「多文化共生」の本質および課題について考察するヒントとしたい。また、授業を通じて、異文化に対する人々の反応の普遍性を理解するとともに、授業で使用するテキストの検索、データベース利用、デジタル化された史資料へのアクセス方法の修得を目指す。</p>
専門科目	専門科目 I	中国思想史講読①	<p>中国思想史は、古典の解釈史である。最も有名な古典である『論語』は、日本と中国を合わせると三千種以上の注釈（解釈）があると言われている。それらの中から、三国時代の何晏がまとめた『論語集解』を扱う。これは正始二（二四一）年、十歳の皇帝曹芳が、読書始めとして『論語』を修めることを契機として編纂された。したがって、十歳の皇帝の御覧に供するために編纂された、半ば官撰の書といえる。授業では、「古注」と称されるこの『論語集解』をとりあげ、注釈をていねいに読解することで、東洋哲学の基礎知識と方法を学び、あわせて、中国古典文（漢文）読解力の深化をめざす。</p>

専門科目	専門科目 I	芸能文化史講読	<p>【概要】 近世の芸能関係資料を中心とした文献記録を講読する。近世芸能を代表する歌舞伎を基本としつつ、近世に発達した諸芸能や都市文化を取り扱い、近世の芸能文化に対する知見を養う。芝居界の年中行事、音曲や囃子、芝居小屋の看板や宣伝材料など、舞台周辺の事象にも目を配って講読を進める。</p> <p>【到達目標】 近世文献の基礎的な読解力を身につけると同時に、講読を通じて歌舞伎を中心とする芸能や近世の諸文化についての知見を獲得する。また、衣食住等の生活文化のうち都市の文化にかかわる資料を講読して、歌舞伎等が発達した近世都市の特質を理解する。</p>	
専門科目	専門科目 II	日本古代史研究	<p>【概要】 本講義では、古代日本の都城である平城京・長岡京や、都城から都市化していった平安京における仏教受容の特質について考察する。古代日本においては、王権の所在地であり、貴族や官人の居住する都城や都市における仏教受容のあり方は、地方社会とは異なる独自の特質があったと考えられる。都城・都市の具体的事例をもとに、遷都の史的背景も概説し、古代都城・都市の仏教成立の歴史的意義を明らかにする。</p> <p>【到達目標】 古代日本の都城・都市における仏教受容の特質を理解する。また遷都などの政策的側面及び都市問題など社会的側面と仏教との関係についての理解を深める。</p>	
専門科目	専門科目 II	日本中世史研究	<p>【概要】 本授業では、日本中世の医療史について講義する。中世には、医師による病気治療のほか、僧侶や陰陽師による病気治療も盛んに行われていた。これらが医師、僧侶、陰陽師による病気治療が具体的にいかなるもので、どのような関係にあったのかを検討する。さらに、個々の貴族の病気治療の有り様や、疫病や癩病といった特定の病にも注目し、その治療法について検討する。検討するにあたっては、古記録や医学書、絵巻物の詞書、文学作品などの史料の読解も行う。</p> <p>【到達目標】 医師、僧侶、陰陽師による病気治療の有り様を理解する。呪術が当たり前に行われた中世という時代の信仰世界についても理解を深める。</p>	
専門科目	専門科目 II	日本近世史研究	<p>・日本近世史研究</p> <p>【概要】 江戸を中心とした近世社会について、歴史資料の講読などによりながら学修する。都市における特定の「町」などの地域論、名主等の諸制度、災害と社会の様相、庶民信仰など特定のテーマを取り上げながら、近世社会の深い理解を目指す。</p> <p>【到達目標】 近世社会についての踏み込んだ知見を得ると同時に、近世史料の読解力を身につける。また、現在の東京と江戸との関係性、あるいは江戸と地方との関係性に理解を深め、社会事象を把握する力を養う。</p>	
専門科目	専門科目 II	日本近現代史研究	<p>【概要】 大日本帝国の成立から崩壊までの過程を、大元帥の軍事儀礼と戦争指導、軍内部の派閥の変遷、代表的軍人の伝記的研究、末端の兵士たちの戦争体験に着目して把握する。それによって日本の近代化の普遍性と特殊性を理解し、近代日本が帝国主義とどう向き合ったのかについて考える。</p> <p>【到達目標】 日本軍隊の誕生から終焉までの過程を通して、大日本帝国の成立・展開・崩壊の大まかな流れを掴む。我が国における国民国家形成とナショナリズムの特徴について理解する。</p>	
専門科目	専門科目 II	日本史料研究	<p>【概要】 日記(古記録)は、日本史研究にとって古文書とならば貴重な史料である。古くは平安時代の貴族の残したものがあり、主として平安貴族社会解明の基礎的史料として活用されている。以降、日本社会においては様々な階層による日記が残されてきた。本講義では、主として平安時代～室町時代にかけての皇族・貴族の日記読解を通じ、基礎的知識を吸収しながら歴史像構築のための方法論を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 日本史研究に必要な日記(古記録)読解のための基礎的知識の習得と、それらを活用した日記の具体的な読解を行う。関係する必要参考書の活用法や、それらを駆使した読解技術の習得を目標とする。</p>	

専門科目	専門科目Ⅱ	国際日本史研究 (日本史の中の世界史)	<p>【概要】 近代日本の歴史的経験を世界のグローバルな動向と関連づけることで、一国史的な歴史叙述から零れ落ちた対象をすくい上げる。周縁から歴史を捉え直すことで、日本史の中に普遍性を見出す。外国語資料を活用することで日本史を日本語の制約から解放し、日本人だけでなく世界のひとびとに向けて開く。</p> <p>【到達目標】 日本史の中に世界史に通じる普遍的課題を発見する。その課題に対して自分なりの解答を出すことによって、歴史研究の楽しみを知る。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	日本思想史研究①	<p>この授業では様々な文書や地図、絵図を通して、近代以前の日本における地理的認識や地理思想、世界観、および地理的知識の変遷について見ていく。まずは中世以前の様々なテキストから現実と想像上の空間のあわいに出現していた境界領域に注目する。次に近世のテキストや地図類に注目する。近世は出版文化の隆盛とともに名所案内記や地誌に関する書物、都市図のほか瓦版で作成された地図や科学的測量によって作成された地図など多様な地理情報や地理的認識が社会に広く共有されていった。その中で知識人層を中心に地理思想や世界観、空間認識がどのように近世の日本社会に広がり、変化していったのかを概観する</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	日本思想史研究②	<p>・日本思想史研究② この授業では、近代以降の日本においてどのような世界観や世界認識が共有されていったのか、それが社会の様々な場面でどのように人々に影響を及ぼしていったのか、そこでどのような人々の書物や地図類が影響を与えていったのか、について検討する。特に明治前期の日本において「地理学」という学問と「地理学者」という研究者が誕生する以前から多様な人々が地理思想を書物に著し、社会に共有されていた。また、大正から昭和前期にかけて学校教育の現場でローカルな地理思想が登場し、特徴的な教育実践が展開していた。この授業では近代の地理思想について、ローカル、ナショナル、グローバルといった様々な空間スケールに注目しながら概観していく。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	江戸東京文化研究	<p>【概要】 This class introduces students to major themes related to Edo-Tokyo: urban history, urban society, popular and consumer cultures. There will be two course-related urban trips.</p> <p>【到達目標】 Academic understanding of Japanese urban life and culture. Experience of a class taught in English.</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	欧米文化史研究	<p>【概要】 一般的なフランスのイメージの多くは、すぐれてパリの現象であり、地域社会の役割がみえにくい。他方、食文化の側面はヨーロッパ文化の理解には欠かすことのできない要素の一つである。そこで本講義では、ワインという切り口から地域社会の歴史的役割に焦点をあてつつ、ワインの銘醸地であるボルドー、ブルゴーニュ地方、シャンパーニュ地方、その他の欧米ワイン産地の比較文化的検討をおこなう。</p> <p>【到達目標】 既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような、大学レベルの歴史研究にふさわしい知的態勢の構築をめざす。そのために、(1)近代ヨーロッパ史に関する従来の説明を批判的に考察しつつ、歴史事象をとらえて自分で考える訓練をし、(2)「国民国家」を自明の前提とする一国史的な歴史認識をはなれ、地域社会の展開過程と諸地域間の連関、地域社会の史的ダイナミズムを、ワインという飲料文化の視点から考究する。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	アジア文化史研究	<p>アジアの文化形成に大きな影響を与えたのが中国思想である。中でも、中国の三教といわれる儒教・仏教・道教は、歴代王朝における支配理念にもなった。こうしたことに加え、諸子百家が現れ、氏族共同体の解体が行われていく春秋戦国時代、儒学・史学・文学・玄学といった多様な文化が擡頭する魏晉南北朝時代など、中国史上における変革期を経て、思想・宗教は対立と融合を繰り返しながら、漢民族だけでなく異民族にも受容された。以上を踏まえて、授業では、中国古代（上古～唐宋）における支配体制の形成過程と、それに関連する宗教・文化政策を合わせて知る。これを通じて、政策の理念的根拠としての思想および支配の正統性を支えた宗教の役割について理解することをめざす。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	人文地理学研究	<p>地理学は現代世界・社会で生じる様々な現象や課題を学ぶことのできる分野である。地理学を通して私たちが生きる現実世界の様々な現象や課題とどのように向き合うことができるのか、ともに考えていく。そして、現代世界・社会の諸問題に地理学がどのように向き合っているかを考えるにあたり、具体的な事例を通して主要な地理学の研究成果を紹介する。その際、様々な事例が地域や場所を超えた有機的なつながりを持っていることに注目し、複数の空間スケールからのアプローチを提示していく。</p>	

専門科目	専門科目Ⅱ	中国思想史研究①	<p>【概要】 東アジアの文化を考察する際、中国文化の理解は不可欠であるが、特に多様な文献（テキスト群）に関する知識と理解は押さえておくべき学術的基礎である。この授業では、中国文化の根底を支える多様な思想の歴史的展開を踏まえ、各時代における社会的意義を考察する。①では、先秦の諸子百家から漢代を経、唐代に至るまでの思想の流れをたどる。</p> <p>【到達目標】 中国思想史の展開と各学派の特徴を理解するのが目標である。中国史上の各時代における思想家とその主張の概略を把握し、歴史的にどのように展開していくのか、他の思想と如何に連関しているのか、が説明できるようになることを目指す。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	中国思想史研究②	<p>【概要】 東アジアの文化を考察する際、中国文化の理解は不可欠であるが、特に多様な文献（テキスト群）に関する知識と理解は押さえておくべき学術的基礎である。この授業では、中国文化の根底を支える多様な思想の歴史的展開を踏まえ、各時代における社会的意義を考察する。②では宋代から清朝に至る思想の流れを学術思想を中心に扱う。</p> <p>【到達目標】 中国思想史の展開と各学派の特徴を理解するのが目標である。中国史上の各時代における思想家とその主張の概略を把握し、歴史的にどのように展開していくのか、他の思想と如何に連関しているのか、が説明できるようになることを目指す。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	芸能・演劇研究③A	<p>【概要】 近世の演劇を中心に、概説から一歩踏み込んで芸能個々の歴史の変遷を学ぶ。その中で役者、演奏者、作者、作品などに焦点を当ててゆき、近世の芸能文化を近世の文献資料や絵画資料を読み解くことによって理解する。</p> <p>【到達目標】 歴史の流れの中における近世演劇の特徴を理解するとともに、近世の文献資料・絵画資料から必要な知見を得る能力を養成する。また、現在も演じ継がれている伝統芸能に触れることで、その歴史性と、舞台芸能としての特質を体感する。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	芸能・演劇研究③B	<p>【概要】 近世の話を中心に、概説から一歩踏み込んで芸能個々の歴史の変遷を学ぶ。その中で演じ手、興行形態、出版物、作品などに焦点を当ててゆき、近世の芸能文化を近世の文献資料や絵画資料を読み解くことによって理解する。</p> <p>【到達目標】 歴史の流れの中における近世の話芸や演劇の特徴を理解するとともに、近世の文献資料・絵画資料から必要な知見を得る能力を養成する。また、現在も演じ継がれている伝統芸能に触れることで、その歴史性と、現代に生きる舞台芸能としての娯楽性を体感する。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	日本文学と思想A	<p>【概要】 日本の文化や社会の底流を流れる思想について発展的に学ぶ。歴史的資料や文学作品（小説・随筆・詩歌・戯曲・日記・説話・神話など）の読解・分析を通じて、各時代に見られる特徴的な価値観（美的感覚・死生観・人生観・恋愛観・宗教観・政治観・人権感覚など）について学修する。</p> <p>【到達目標】 日本の文化や社会に底流する思想・価値観に関する高度な知識を得る。学術的な専門用語や歴史的語彙についての注釈などを行ないながら、難易度の高い歴史的資料や文学作品を読み解くことができるようになる。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	日本文学と思想B	<p>【概要】 日本の文化や社会の底流を流れる思想について発展的に学ぶ。歴史的資料や文学作品（小説・随筆・詩歌・戯曲・日記・説話・神話など）の読解・分析を通じて、各時代に見られる特徴的な価値観（美的感覚・死生観・人生観・恋愛観・宗教観・政治観・人権感覚など）について学修する。</p> <p>【到達目標】 日本の文化や社会に底流する思想・価値観に関する高度な知識を得る。学術的な専門用語や歴史的語彙についての注釈などを行ないながら、難易度の高い歴史的資料や文学作品を読み解くことができるようになる。</p>	

専門科目	専門科目Ⅱ	中国文学と思想A	<p>【概要】 現在は人文的学問を「文学」、「思想」、「歴史」等に分類し、独立したジャンルとして認識しているが、古典中国においては明確に区別されていたわけではない。従って「文学」を扱う場合にも「思想」的側面からのアプローチも必要になる。Aでは、先秦から宋代までの「詩（韻文）」や各種「文（散文）」を思想の観点から理解することを試みる。</p> <p>【到達目標】 ・先秦から宋代までの中国文化史（文学・思想等）の概略を理解する。 ・中国の韻文と散文について理解する。 ・韻文・散文テキストを文学的に解釈する方法と思想的視点を導入する方法を理解する。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	中国文学と思想B	<p>【概要】 現在は人文的学問を「文学」、「思想」、「歴史」等に分類し、独立したジャンルとして認識しているが、古典中国においては明確に区別されていたわけではない。従って「文学」を扱う場合にも「思想」的側面からのアプローチも必要になる。Bでは、明代から清代（・現代）までの「詩（韻文）」や各種「文（散文）」を思想の観点から理解することを試みる。</p> <p>【到達目標】 ・明代から清代（・現代）までの中国文化史（文学・思想等）の概略を理解する。 ・中国の韻文と散文について理解する。 ・韻文・散文テキストを文学的に解釈する方法と思想的視点を導入する方法を理解する。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	日本史特殊研究① （有職故実）	<p>【概要】 有職故実の世界は、平安時代の貴族社会を考える上で必要不可欠の知識であり、かつ当該期の日記や文学作品を読解するための基礎的な知識である。本講義では、主として王朝貴族が担い手となった公家有職について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 平安時代に形成された有職故実について、その基礎的な知識習得を行う。知識の習得は勿論のこと、データベースの活用や参考書等の利用方法等についても学び、自身で調査・研究の糸口を見つけられるようにする。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	日本史特殊研究② （服飾史）	<p>【概要】 我が国で発展をみた服飾の歴史について具体的な画像等を多用し、その歴史的変遷について学ぶ。主として古代から中世末期、近世初頭までをその対象とし、変遷の歴史的背景についても考察していく。特に、王朝貴族の服制について重点的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】 日本社会における服飾の変遷について、具体的な事例をもとに学習し、基礎的な知識習得を行う。服飾の時代相などの知識を蓄積し、その変遷の意味の歴史的背景について理解を深めさせる。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	日本史特殊研究③ （もののけ・幽霊・妖怪の歴史）	<p>【概要】 古代・中世では、モノノケ（物気）は人間に病や死をもたらすものであり大変恐れられていた。モノノケがいかに恐れられ、どのような対処が講じられたのかを、古記録や仏教書、説話などの史料をもとに検討する。さらに、近世、近代、さらには現代に至るまでのモノノケがどのように変化して捉えられるようになったのかを述べ、日本人の靈魂観の変遷について講義する。</p> <p>【到達目標】 日本人の死生観、靈魂観の変遷を深く理解し、現代社会における諸問題を多角的な視点から考察できるようにする。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	日本史特殊研究④	<p>【概要】 天皇制について通史的に概観しながら、各時代における変容を理解する。その上で、現在の象徴天皇制がどのようにして成立したのかを認識し、各自の皇室論を作り上げる。基本的には講義形式だが、受講者に課題を出す演習形式をとることもある。</p> <p>【到達目標】 日本の天皇制の得異性と他国の王室との共通性に着目しながら、現在の象徴天皇制の実相を理解し、今後の天皇制の在り方について自分の考えを持てるようになってもらいたい。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	日本史特殊研究⑤ （オーラル・ヒストリー）	<p>【概要】 国内外における聞き取りの歴史について振り返る。聞き取りの成果に基づく研究書を輪読しながら議論する過程でオーラル・ヒストリーの方法論について学ぶ。テーマを決めて聞き取りに取り組み、口述資料を作成する。口述資料を文字資料によって史料批判した上でテーマに関連するレポートを書く。</p> <p>【到達目標】 聞き取りによって歴史を描く方法について学ぶ。聞き取りを実践し、口述資料を作成する。口述資料を文字資料によって史料批判し、レポートを作成する。</p>	

専門科目	専門科目Ⅱ	東アジア都市文化フィールドワーク①	<p>【概要】 中国の大学をフィールドワークの舞台として設定する。PBLの形式を採用し、受講生が3-4人一組となって、現地の歴史・文化に関する文献調査をおこない、それをもとにドキュメンタリー映像を制作することになる。また、現地大学の教員・スタッフが撮影や編集の技術について指導し、作品完成後、学生向けに作品発表会をおこなう。また、完成した作品を中国大学生映画祭・ドキュメンタリー祭に出品することも検討している。またそれ以外にも、期間中、様々な体験プログラムを実施する予定である。</p> <p>【到達目標】 本講義の到達目標は、文献調査の方法の習得、自らテーマを設定する課題発見・課題解決力の養成、さらには現地でのフィールドワークによる多彩な学びの体験にある。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	東アジア都市文化フィールドワーク②	<p>特定の都市をフィールドしながら、その歴史・文化に関する文献調査に依拠して、学生がテーマをみずから設定し、実地でのフィールドワークを遂行し、報告書を作成する。</p> <p>文献調査の方法の習得、自らテーマを設定する課題発見・課題解決力の養成、さらには現地でのフィールドワークによる多彩な学びの体験を得ること等を目標とする。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	欧米都市文化フィールドワーク	<p>【概要】 ヨーロッパの都市（パリ、リヨンなど）をフィールドとしながら、その歴史・文化に関する文献調査に依拠して、学生がテーマをみずから設定し、実地でのフィールドワークを遂行し、報告書を作成する。</p> <p>【到達目標】 本講義の到達目標は、文献調査の方法の習得、自らテーマを設定する課題発見・課題解決力の養成、さらには現地でのフィールドワークによる多彩な学びの体験にある。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	中国語学概論A	<p>【概要】 甲骨文・金文から楷書までの書体の変遷、字書及び分類語彙集、中国語の音節構造について学ぶ。 漢字の字形・字義に関する知識、及び漢字の字音を学ぶための基礎的な知識の習得を目的とする。</p> <p>【到達目標】 甲骨文・金文から楷書までの書体の変遷、字書及び分類語彙集の歴史など、漢字の字形・字義に関する知識を習得する。 中国語の音節構造、IPA等、漢字の字音を学ぶための基礎知識を習得する。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	中国語学概論B	<p>【概要】 中古音、清朝古音学、現代中国語文法について学ぶ。 漢字の字音に関する初歩的な知識を習得する。朱徳熙の文法理論の概略を理解する。</p> <p>【到達目標】 中古音に関する基礎知識を習得し、中古音・北京音・日本漢字音の関係について説明できるようになる。 清朝古音学、朱徳熙の文法理論の概略を説明できるようになる。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	韓国語学概論A	<p>【概要】 韓国語の中級クラスを履修し、韓国語教育にも関心のある学生を対象とした上級クラスの科目である。ハングルの発音変化や特殊な読み方を学び、ハングルの歴史、韓国語史について理解する。</p> <p>【到達目標】 基本的な発音変化のみならず、特殊な発音変化も習得し、韓国語の歴史に興味を持つ。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	韓国語学概論B	<p>【概要】 韓国語の中級クラスを履修し、韓国語教育にも関心のある学生を対象とした上級クラスの科目である。語尾、時制などの主要な文法項目について解説する。韓国語について音韻論、文法論、韓国語史からアプローチし、文法についての理解を深める。</p> <p>【到達目標】 韓国語の文法体系を理解し、助詞や時制を正しく使えるようになる。</p>	
専門科目	専門科目Ⅱ	海外（中国）研修講座③	<p>本学海外協定校で実施される短期海外研修（中国語）プログラムにおいて、現地で修得した科目の単位を、当科目の単位として認定する。</p>	

専門科目	専門科目 II	海外（韓国）研修講座③	本学海外協定校で実施される短期海外研修（韓国語）プログラムにおいて、現地で修得した科目の単位を、当科目の単位として認定する。	
専門科目	専門科目 II	東アジア史特殊研究	中国の三国時代は、小説『三国志演義』により古来日本人にも親しまれてきた時代である。「三顧の礼」「水魚の交わり」「白眉」といった故事成語は、人口に膾炙している。小説では、武将が戦い軍師が智謀をめぐらす三国時代は、史実としては貴族制の形成期にあたる。土地所有や皇帝との血縁関係を存立基盤としない中国固有の貴族は、どのように形成されたのであろうか。また、儒教一尊の後漢「儒教国家」が崩壊し、様々な文化に価値が見出されていった三国時代は、中国史上最初の本格的な文学活動と言われる「建安文学」が興り、「竹林の七賢」伝説を生み出す阮籍ら老荘思想家が活躍した時代でもあった。曹操・曹丕・曹植ら三曹の文学の内容と政治的な意義、司馬氏の権力掌握に抵抗していった阮籍らの生き方など、三国時代の史実は、小説に劣らぬ魅力に満ちている。本講義は、歴史としての三国時代のあり方を探求していくものである。	
専門科目	専門科目 II	中国文化史特殊研究	【概要】 中国は世界一長い日本研究の歴史を有するが、魏志倭人伝や宋史日本伝の域を脱して本格化したのは、明代以降である。特に清末に入ると多くの中国人が訪日し、多数の特色ある日本研究書を著した。この授業では明治時代の中国人が書いた代表的な日本随筆や日本研究書を取り上げて講読をする。 【到達目標】 清末中国人の日本研究。1. 清末中国人の日本研究の流れを把握すること。2. 清末中国人の日本認識を理解すること。3. 参考書（工具書）の使用に習熟すること。	
専門科目	専門科目 II	欧米文化史特殊研究	【概要】 近年、ワインの世界では「テロワールterroir」という語をよく耳にするが、ワインを生み出す気候や土壌を意味する用語として狭義に使用されることが多い。しかしその意味はかならずしも明白でなく、時として言葉のみが一人歩きしている観もある。そこで本講義では、当該概念が典型的に発展した近代フランスの具体的事例を検討することによって「テロワール」概念を歴史的に考究する。 【到達目標】 既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような、大学レベルの歴史研究にふさわしい知的態勢の構築をめざす。そのために、「テロワール」に関する従来の学説を批判的に検討しつつ、「テロワール」概念の歴史的多義性を理解し、ワインという飲料文化に即して、歴史事象をとおした歴史的考察力を鍛錬・涵養する。	
専門科目	専門科目 II	民俗学特殊研究①	【概要】 日本の民俗文化を理解していくためには、その根底に流れる民俗信仰について知っておくことが重要である。そこで日本の各地域で展開する民俗信仰の事例をとりあげ、その意味について検討する。仏教や神道、修験道、さらに宗教職能者の影響を考慮し、民俗信仰の性格や機能、現代的意味を考える。 【到達目標】 民俗学における民俗信仰分野の調査や研究について、体系的に理解できるようにする。さらに生活文化のなかで展開する民俗信仰のさまざまなありようから、日本の民俗文化を理解する視座を身につける。	
専門科目	専門科目 II	民俗学特殊研究②	【概要】 日本の民俗文化の根底には山への信仰があり、民俗信仰としての山岳信仰を知っておくことが重要である。山は、生活や生業に必要な水を提供してくれたり、死霊がおもむく場であったりする。本講義では日本各地における山岳霊場をとりあげ、旅や祭礼、信仰集団（講）などを検討し、その変遷や現代的意味を考える。 【到達目標】 民俗学における民俗信仰分野の調査や研究について、体系的に理解できるようにする。さらに山への信仰や山岳霊場への旅を通して培われていった民俗や社会のありようを見つめなおし、日本の民俗文化を理解する視座を身につける。	

専門科目	専門科目Ⅱ	日本思想史特殊研究	この授業のテーマは、新聞メディアから明治前期思想を考えることである。これまで当該分野の研究において、その中心となってきたのは、「啓蒙」や「民権」と名の付くような著名な思想家と呼ばれる人物であり、またそれらが集い意見し合う学術や政治に関する結社であった。つまり、この授業で取り上げる新聞や新聞記者は枝葉の存在とされてきたといつてよい。しかし、近代的議会制度の成立していない明治前期において、新聞は極めて重要な政治的コミュニケーションの場であり、新聞という政治文化をいかに社会に定着させるかは、当時の知識人たちの課題でもあった。この授業では、そうした研究動向を鑑み、明治前期の新聞メディアに光を当てていく。具体的には明治期の著名な新聞記者である福地源一郎（桜痴、1841～1906）と福澤諭吉（1835～1901）という近代日本を代表する思想家を比較することで、明治思想史の再検討を行う。	
専門科目	専門科目Ⅱ	中国思想史特殊研究	【概要】 『論語』に載せられている孔子の言動は、すべて孔子本人のものであるだろうか。津田左右吉は、約五百章ある『論語』の文章の中で、孔子その人の言葉や行動を伝えるものは、半分にも届かないという。全二十篇の後の篇になるほど、一篇の中でも後の章になるほど、孔子に仮託するものが多くなる。しかも、孔子の言動が、孔子の意図どおり伝わっているのかについても疑問は大きい。『論語』の解釈によって、『論語』から受ける孔子の言動は異なる。それでは、『論語』を読むことに意味はないのか。儒教経典に代表される古典は、時代や個人に応じて受け取られ方が異なるからこそ、時代を超えた普遍的な書籍として読み継がれてきた。『論語』も、それを読む一人ひとりの思いに基づいて生きる。答えが一つに固定されないことに、『論語』の重要性がある。本講義は、古典中国における『論語』解釈の展開を検討することを通じて、中国思想史のあり方を示すものである。	
専門科目	専門科目Ⅱ	美術史特殊研究	【概要】 飛鳥時代から天平時代（7～8世紀）にかけて制作された仏教彫刻や絵画に焦点を当てる。古代寺院がどのように成立し発展していったのかをたどりながら、そこにまつられた仏像の図像、様式、技法について講義する。また、その作例に関する史料もあわせて参照、解説することにより、当時の仏像の安置状況や人々の信仰背景についても探求したい。さらに、かならずしも仏教美術とはいえないが、当時の信仰や時代背景を考えるうえで欠かせない作例として、古墳壁画などの絵画作例もあわせて取り上げる。スライドを映しながら講義を進めるので、作品をつぶさに観察しながら当時の人々の美意識についても考察していきたい。	
専門科目	専門科目Ⅱ	芸能・演劇特殊研究②A	【概要】 近世の後半期から幕末・明治初頭の時代を中心として、演劇を軸に近世芸能の変遷を理解する。特定の資料を中心に上げつつ、周辺の参考資料を参照して事実を把握する。また、芸能が発達した江戸、京都、大坂、あるいは他の地方といった地域の特徴にも着目する。 【到達目標】 近世文献の読解力を身につけ、当時の資料を講読することで明らかになる知見を得るとともに、他の資料を照合して客観的に演劇・芸能史を理解する。また、現在演じられている伝統演劇・芸能の知識を得てその変遷を理解する。	
専門科目	専門科目Ⅱ	芸能・演劇特殊研究②B	【概要】 近世の後半期から幕末・明治初頭の時代を中心として、話芸を軸に近世芸能の変遷を理解する。特定の資料を中心に上げつつ、周辺の参考資料を参照して事実を把握する。また、芸能が発達した江戸、京都、大坂、あるいは一定の資料が残された地域の特徴にも着目する。 【到達目標】 近世文献の読解力を身につけ、当時の資料を講読することで明らかになる知見を得るとともに、他の資料を照合して客観的に芸能・演劇史を理解する。また、現在演じられている伝統話芸や芸能の知識を得てその変遷を理解する。	
専門科目	専門科目Ⅱ	表象メディア特殊研究A	【概要】 明治から大正期における近代演劇・映画の展開について、トピックとなる事象や作家、作品等を取り上げ、時代背景や近接する文学ジャンルとの関わりから、歴史的意義を考察する。この時期の演劇・映画には多くの文学者が関わっていた。西洋文化や思想の動向、文学的潮流などを前提として、演劇・映画というジャンルが文化の場でどのように意味づけられていたのかについて、ジェンダーの観点から考察する。 【到達目標】 時代背景を理解し、個別の事象や作品に関する同時代資料を調査する力や、事象やテキストを分析する力を身につける。またジェンダーの観点から文化を考察する方法を学ぶ。	

専門科目	専門科目Ⅱ	表象メディア特殊研究B	<p>【概要】 大正期から昭和前期における近代演劇・映画の展開について、トピックとなる事象や作家、作品等を取り上げ、時代背景や近接する文学ジャンルとの関わりから、歴史的意義を考察する。この時期の演劇・映画は思想運動等と深い関係を有していた。当時の社会的思想的動向、文学的潮流などを前提として、演劇・映画というジャンルが文化の場でどのように意味づけられていたのかについて、ジェンダーや階級の観点から考察する。</p> <p>【到達目標】 時代背景を理解し、個別の事象や作品に関する同時代資料を調査する力や、事象やテキストを分析する力を身につける。またジェンダーや階級の観点から文化を考察する方法を学ぶ。</p>	
教職課程科目		道徳教育の指導法	<p>【概要】 本講義の目的は、道徳教育の歴史的考察をふまえて、学校の教育活動全体を道徳性の発達という観点から検討し、より良い指導法を探究することである。具体的には、学校教育における教科指導、教科外指導、「特別の教科道徳」といった諸領域について、それらが道徳教育としてどのような特質を有するかを具体的な指導例に即して考察することである。</p> <p>【到達目標】 道徳の本質を理解した上で、学校教育における道徳教育の実践構造を理解し、さらに、道徳教育の各領域の特質に応じて、適切な指導計画及び指導法を理解し実践できるようになることが目標である。</p>	
教職課程科目		特別支援教育概論	<p>【概要】 インクルーシブ教育システムを含む特別支援教育の理念や仕組みを理解するとともに、教員として通常学級等で担当することを想定した様々な障害等の個別のニーズの理解や支援の方法の理解を障害種別に進め、具体的な手立てを講じる力をつける。また、個々の教員が講じるだけでなく、支援体制を構築するための校内体制や関係機関との連携、家庭との連携についても十分に理解を図り、実働する力をつける。</p> <p>【到達目標】 特別支援教育についての理念や仕組みの理解、発達障害を含む様々な障害等の個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の特性や心身の発達及び教育課程の理解、学習や生活上の困難さに対する支援の方</p>	
教職課程科目		教師論	<p>【概要】 今日の学校教育や教育の動向を踏まえ、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について多面的に考察し、教職への意欲を高めて、自分の個性に応じた理想的教員像をもつ。</p> <p>【到達目標】 ・学校教育や教職の社会的意義、教員に求められる役割や資質能力を理解する。 ・教員の職務内容や研修の意義、服務上・身分上の義務を理解する。 ・学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について</p>	
教職課程科目		教育原理	<p>【概要】 教育の理念や教育の思想を社会現実との関わりの中で具体的に考察する際の理論枠組みを理解することが一次的な目的であるが、その際、教育理念の歴史的な展開や種々の教育思想の相互関係についても把握できることもめざしている。また、教育理念の社会的規定と目的論的規定との統一的な把握をめざしてもいる。</p> <p>【到達目標】 個人の社会的処遇の歴史的変遷を理解し、近代学校における教育特徴を教育理念と関わらせて把握できること。また、政治や社会統合に関わる側面では、国民教育の概念や多文化教育の理念を具体的な事例に即して考察できることが目標となる。</p>	
教職課程科目		教育史	<p>【概要】 教育の理念を分析的に考察した後、西洋及び日本の主に近代に焦点を当て、教育思想と教育制度・運動の展開を概説する。公教育制度の成立を支えた教育論および新教育運動が志向した教育観を理解し、今日における教育課題の諸論点について考察するものである。</p> <p>【到達目標】 到達目標は主に、①近代公教育成立の社会的背景を理解できること、②公教育の意義や目的を歴史的・社会的な規定とのからみで考察できることであるが、同時に、近代社会における人間の処遇（能力主義）をめぐる対立等について叙述できることも大事にしたい。</p>	

教職課程 科目	教育心理学	<p>【概要】 教師として幼児、児童及び生徒と関わるためには、人間としての幼児、児童及び生徒の基本的な心理的特性を理解しておくことは不可欠である。本授業では、人間の発達と学習過程に関するテーマを中心に、教師として幼児、児童及び生徒と関わる上で参考となる教育心理学の知見について学ぶ。また、障害のある幼児、児童及び生徒の特性と支援について学び、特別支援教育の基本的な考え方を学ぶ。講義内容を自分の日常的、具体的な生活経験と関係づけながら理解し、自分の問題として吸収してほしい。</p> <p>【到達目標】 ①人間の人格発達・身体発達・知能発達について各発達段階の特徴を知り、子どもの特性を発達心理学的な観点からとらえることができる。②人間の学習と動機づけの過程について基本的なしくみを理解し、それらに基づいた教育的な支援について考察できる。③発達障害を中心に、障害のある子どもの特性について理解し、特別支援教育の基本的な考え方に基づいた支援について考察できる。</p>	
教職課程 科目	特別活動・総合的な学習の 時間の指導法	<p>【概要】 下記のような授業目標のもとに、本授業では、特別活動や総合的な学習（探求）の時間について学習指導要領その他の資料で、意義や目標を理解するとともに、実際の指導事例等をグループで分析・批評する予定である。また、ホームルーム指導計画や総合的な学習（探求）の時間の単元指導計画の作成にも挑戦する予定である。</p> <p>【到達目標】 総合的な学習（探求）の時間及び特別活動について、その意義及び目標を理解するとともに、実際の指導計画の作成や指導法（評価を含む）等に関する基礎的な素養と技能の習得が目標である。</p>	
教職課程 科目	教育方法・技術論	<p>【概要】 中学校等で使われている教材や文部科学省等の調査資料を使って演習形式（説明の後、課題に取り組む）で授業を進める。作成したノートはWeb学習システムを使って毎時間提出する。教育の情報化が進められており、電子黒板の活用等新たな教育技術の習得は必須の課題となっている。本講座では、コンピュータやインターネットを利用した教育方法について演習形式で授業を進め、理解を深めるとともに実用的な知識の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】 教育方法の基礎的理論と実践（情報機器等の活用を含む）を理解するものであり、とりわけ、①教科毎の授業様式の違いとその特性がわかる、②コンピュータを使った多様な教材づくりとその活用を通して、主体的・対話的で深い学びを実現できる指導法について理解することを目標としている。</p>	
教職課程 科目	教育課程・教育方法論	<p>【概要】 学校教育が教育課程の編成・実施によって成り立っていることを理解し、その基準である学習指導要領と、教育課程の意義や編成の方法、そしてカリキュラムマネジメントについて理解を深める。また、授業の質を高めるための教育方法の基礎的理論と実践について理解を深めると共に、実際の授業を構成する要件や学習評価について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領の性格や位置づけ、改定の変遷や内容と社会的背景を理解する。 ・ 教育課程の役割・機能・意義を理解する。 ・ 授業を校正する基礎的な要件、学習評価の基礎的な考え方を理解する。 <p>【到達目標】 ・ 教育課程編成の基本原則、教育実践に即した教育課程編成の方法について理解する。 ・ カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、カリキュラム評価の基礎について理解する。 ・ 教育方法の基礎的理論と実践及び新学習指導要領で求められている教育方法の在り方を理解する。</p>	
教職課程 科目	生徒指導・進路指導論	<p>【概要】 学校における生徒指導上の課題の全容と対処の基本を理解する。「児童・生徒の健全育成」をどのように達成するか、また、種々の問題行動に対処するには、どのような配慮と取り組みが必要かを考える。進路指導では児童生徒の「自分探し」・「自己実現」を援助するための理論や指導法について学ぶ。全体を通じて、的確な生徒理解と生徒指導の基本を学び、現場での実践力を高めていく。</p> <p>【到達目標】 学校教育における生徒指導及び進路指導について、その指導理念と実際、配慮すべきこと、教師としてあるべき姿勢等について、具体的に理解すること。現実の場面を想定しつつ、実際的な力量の習得を目指す。</p>	

教職課程 科目	社会科指導法A	<p>【概要】 各自が指定された範囲の中学校社会科の教材を研究し、その研究の成果を模擬授業の形式で発表し、それらの知識の共有化を図る。なお、基本的な知識の定着のため、ほぼ毎回小テストを実施する。</p> <p>【到達目標】 中学校の社会科教員として求められる地理的分野と歴史的分野の基本的な知識の定着を図るとともに、授業における発問や教材提示など授業の方法についても学ぶ。基本的な知識に関しては、必ず習得するまで再テスト等を繰り返し実施する。</p>	
教職課程 科目	社会科指導法B	<p>【概要】 各自が指定された範囲の中学校社会科の教材を研究し、その研究の成果をマイクロティーチングの形式で発表し、それらの知識の共有化を図る。なお、基本的な知識の定着のため、ほぼ毎回小テストを実施する。</p> <p>【到達目標】 中学校の社会科教員として求められる地理的分野と歴史的分野の基本的な知識の定着を図るとともに、授業における発問や教材提示など授業の方法についても学ぶ。基本的な知識に関しては、必ず習得するまで再テスト等を繰り返し実施する。</p>	
教職課程 科目	教育法規	<p>【概要】 学校教育の社会的、制度的、経営的事項や、学校と地域との連携、学校安全について、その基盤となる教育法規を基に概括的に理解するとともに、具体的な事例を通して、教育を巡る問題や課題を法規範的な観点から考察し理解を深める。</p> <p>【到達目標】 ・教育政策の動向を理解するとともに、公教育制度の原理・構造等について、法的・制度的仕組み、諸課題について理解する。 ・公教育における教育課題（学校安全への対応を含む）、学校経営、学校評価、学級経営について理解する。 ・学校と地域との連携の意義や協働の方策・経緯について理解する。</p>	
教職課程 科目	教育相談	<p>【概要】 本授業では、カウンセリングについて学ぶことを通じて、教育相談の基本的な考え方と技法を身につけるとともに、それを教育の場で役立つ実践的な力につなげることを目指す。また、不登校、いじめ、非行といった学校不適應の問題について理解し、教育相談の観点からあるべき対応について学ぶ。相談分野の学習には、実習の経験が不可欠である。ロールプレイやワークなど、様々な形式で実習の機会を用意するので、積極的に参加すること。</p> <p>【到達目標】 個別カウンセリングの技法と予防・開発的カウンセリングの基本的な事項を実践的に理解する。また、実習を通じて自分の習慣的なコミュニケーションの特徴を振り返り、自分の個性を活かした教育相談について考察する。不登校、いじめ、非行などの学校不適應の問題の現状についての知識を修得するとともに、これらの問題に適切に対応するために必要な教育相談の考え方を身につける。</p>	
教職課程 科目	社会・地理歴史科教育法A	<p>【概要】 中学校・高等学校の社会科教員として学習指導を担当するために、基礎的な知識・技能を具体的な実践に即して学ぶ。学習指導要領を踏まえて、育成する能力を明確にした社会科の授業を構想する力を養う。</p> <p>【到達目標】 ・中学校・高等学校の社会科学習指導要領に示された指導内容を理解することができる。 ・育成する能力に即した教材を選定し、教材研究を行うことができる。 ・指導目標に対応して、校種ごとの社会科学習指導案を作成すること。</p>	
教職課程 科目	社会・地理歴史科教育法B	<p>【概要】 中学校・高等学校の社会科教員として学習指導を担当するために、基礎的な知識・技能を具体的な実践に即して学ぶ。学習指導要領を踏まえて、育成する能力を明確にした社会科の授業を構想する力を養う。</p> <p>【到達目標】 ・中学校・高等学校の社会科学習指導要領に示された指導内容を理解することができる。 ・育成する能力に即した教材を選定し、教材研究を行うことができる。 ・指導目標に対応して、校種ごとの社会科学習指導案を作成すること。</p>	

<p>教職課程 科目</p>	<p>教育実践研究</p>	<p>【概要】 教育実習で必要な教材研究の方法、学習指導案の作成、授業の進め方等について実践的な力を養う。 模擬授業の実践と観察を通して、授業デザイン、教室運営などについて体験的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】 教材に応じた学習指導案を作成し、模擬授業を展開することができる。 指定された共通教材について自分が実践する授業をデザインすることができる。 課題意識を明確にした授業参観を通して、的確な批評と自分の授業改善案を作成することができる。</p>	
<p>教職課程 科目</p>	<p>教育実習Ⅰ</p>	<p>【概要】 実習校における教育実習を通し、教職課程の学修の成果を確認する。教材研究、学習指導案の作成、研究授業等を通して教科指導力を高める。学級における指導、学校行事、部活動の指導を通して、学級経営、生活指導の力量を高める。</p> <p>【到達目標】 教科書を通して、生徒の実態に即した学習指導案を作成し、生徒の興味関心を高める授業ができる。学級経営、生活指導、部活動指導等を通して、教職の実感を体験し、教育活動の意義や意味を理解する。</p>	
<p>教職課程 科目</p>	<p>教育実習Ⅱ</p>	<p>【概要】 学校現場における実習を通して、教職課程の学修の成果を確認する。 教材研究、学習指導案作成、授業実践、授業分析と研究協議を通して、教科指導の力量を高める。 学級（HR）における指導、学校行事・部活動における指導を経験して、学級経営、生徒指導の能力を養成する。</p> <p>【到達目標】 生徒の実態に即した学習指導案を作成し、言語活動の充実を目指した授業実践を行うことができる。 教育実習の期間中、使命感と熱意をもって勤務し、学修の成果としての資質能力を発揮することができる。 学級経営、生徒指導、学校行事、部活指導等について体験的に理解することができる。</p>	
<p>教職課程 科目</p>	<p>教育実習指導</p>	<p>【概要】 教育実習の心構え、教材研究の方法、学習指導案の作成等を復習した後、模擬授業、授業分析と研究協議を通して、充実した教育実習を行える力量を養成する。 後半では、教育実習を通して学んだことを整理し、更に育成すべき資質能力を明確にして、「教職実践演習」における自分の目標を確認する。</p> <p>【到達目標】 生徒の実態に即した学習指導案を作成し、言語能力の育成を目指した授業を計画することができる。 教育実習の期間中、使命感と熱意をもって勤務し、学修の成果としての資質能力を発揮することができる。 学校教育について体験的に理解することを通して自分の実習を点検し、更に育成すべき資質能力を明確にすることができる。</p>	
<p>教職課程 科目</p>	<p>教職実践演習（中・高）</p>	<p>【概要】 教職課程の履修全体を通じて身に付けるべき資質能力について、学校現場の視点を取り入れながら自己点検し、教員としての資質能力の最終確認を行う。 履修者は、教職課程の学びの集大成として、教員になる自己の課題を把握し、必要に応じて知識・技能を補って定着を図り、教員生活をより円滑にスタートできる資質能力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】 以下の4つの事項について、自己の課題を認識した上で授業に参加し、課題の解決を図る。授業を通して、教員としての資質能力が必要な水準に到達していることを確認する。 ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ②社会性や対人関係能力に関する事項 ③生徒理解や学級経営等に関する事項 ④教科内容等の指導力に関する事項</p>	

教職課程 科目	学校経営と学校図書館	<p>【概要】 司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。学校図書館の理念と教育的意義、学校図書館のあゆみ、教育行政関係法規、学習指導要領などを考察する。また、学校内の図書館の位置づけ、司書教諭の任務、学校図書館支援計画の立案、児童生徒図書委員の活動、行事、広報などの活動支援の意義を理解し、学校図書館の現状と課題について考究する。</p> <p>【到達目標】 学校図書館経営組織の構築をめざす。司書教諭とホスピタリティ、学校図書館支援計画の立案と教育環境整備、心の教育と図書館教育カリキュラム、広報や行事および生涯学習との関係理解、公共図書館の相互協力、資料の情報交換方法、児童生徒図書委員会の活動支援についても理解する。そのためにも学内所蔵の多くのリソースにふれることが期待される。</p>	
司書教諭 科目	学校図書館メディアの構成	<p>【概要】 司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。学校図書館において利用しやすいメディア構築をはかるため、学校図書館メディアの種類と特性、選択と収集の意義、学習活動への適用、維持と更新メディアの組織化（分類の意義と分類表、分類規定）を理解する。日本十進分類法、分類と書架での配置方法、メディアの組織化と目録の作成と機械化の意義を知る。</p> <p>高度で多様な情報社会が形成されている。情報の扱い方により、学校現場に整害をもたらすことも考えられる。学校図書館における各</p>	
司書教諭 科目	学習指導と学校図書館	<p>【概要】 司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。教育課程、学習指導要領、発達段階に応じた学習指導、自ら学ぶ能力の育成、課題解決方法を考察する。その際、学校図書館における情報サービス、情報識別能力、学校図書館におけるレファレンスサービスのあり方など、児童生徒の学習を支援する学校図書館の役割について理解を深める。</p>	
司書教諭 科目	読書と豊かな人間性	<p>【概要】 司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。読書の意義と目的の考察、子どもの読書環境（児童サービスの意義）、読書によるイメージ構築能力、発達段階に応じた読書、読書能力の考察方法、読書資料の種類とその特性、読書資料の選択と蔵書構成の考察、読書活動を進める環境整備、学校図書館における読書の導きと読書の生活化とのかかわりなどを考察する。</p>	
司書教諭 科目	情報メディアの活用	<p>【概要】 日本語処理、形態素解析、画像編集、音声編集、データベース、Web検索等について基本的事項を解説した後、演習課題に取り組む。結果は毎時間ごと電子メール等で提出する。情報化社会の中における図書館や博物館の役割として、教育とデジタルアーカイブに目を向け、必要なメディア情報の特性や編集・保存方法などについて演習を交えて解説し、実践的に理解を深める。</p> <p>【到達目標】 ①日本語入力の仕組みがわかる②形態素解析の仕組みがわかる③情報検索の方法について理解を深める④マルチメディア教材の制作を通してその特性がわかる⑤Webを使った情報発信について理解を深める。</p>	

図書館司書・学芸員課程	生涯学習概論	<p>【概要】 本講座は、生涯学習が、①生活上・職業上の能力の向上や自己の充実を目指し、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであり、②必要に応じ、可能なかぎり自己に適した手段及び方法を自ら選びながら生涯を通じて行うものであり、③学校や社会の中で意図的、組織的な学習活動として行われるだけでなく、スポーツ・文化活動、趣味、レクリエーション、ボランティア活動の中でも行われるものであるという理解に基づき、その理論・法制度や具体的実践例等を考えるものである。</p> <p>【到達目標】 人々が生涯にわたって学んでゆく意義を知るとともに、どのような場所や機会で学ぶことができるのかを知る。また、どのように対象者を支援していけばよいのか考える力を身に付けることを目標とする。</p>	
図書館司書課程	図書館概論	<p>【概要】 ①図書館の歴史や機能について基本的な考え方を学ぶ ②公共図書館、国立図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館など各種図書館の機能や任務 ③組織としての図書館のあり方 ④図書館サービスの担い手としての図書館員の役割 ⑤図書館に関する機関・団体を知る ⑥図書館と図書館員の将来あるべき姿等を理解し他の授業との関連性を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①図書館の歴史や社会における意義や役割、図書館の種別、サービス内容、利用者ニーズなどについての基礎的知識が理解できる。 ②図書館の機能及び高度情報化時代の図書館の現状を理解し、課題や問題点について理解できる。 ③図書館員の役割と専門性、図書館に関する機関・団体について理解できる。</p>	
図書館司書課程	図書館制度・経営論	<p>【概要】 図書館の位置づけや役割を確認した上で、図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について学習する。図書館経営の考え方、サービス計画、資料・情報・職員・施設等の経営資源、予算の確保、新たな役割や運営態等について理解できるようになる。</p> <p>【到達目標】 ①図書館がどのような法律や社会的制度によって支えられているかを理解できる。 ②急激な社会変化に対応する図書館の経営について理解できる。 ③コミュニティに役立つ図書館はいかにあるべきかを考察できる。</p>	
図書館司書課程	図書館情報技術論	<p>【概要】 変化する社会の中で、図書館業務に必要な情報技術の歴史と現状を学習する。またその前提となるコンピュータ、ネットワーク、データベース等の基礎的事項も概観する。それらを踏まえて、今後の図書館のあるべき姿を考える。</p> <p>【到達目標】 コンピュータ、ネットワーク、データベース等の基礎的な知識と図書館との関係を理解し説明できる。今後図書館が情報技術をどのように活用したらよいか、自ら考えて討議し発表することができる。</p>	
図書館司書課程	図書館サービス概論	<p>【概要】 図書館サービスの考え方と構造を、受講する学生と教員が考えながら行う授業展開をしていきます。主に公立図書館におけるサービスを中心に経験をもとに解説し、各種サービスの意義とその具体的展開及び問題点と課題を考えることで理解を深める。図書館のさまざまなサービスについての理解を深め、新型コロナウイルス感染症の「新たな生活様式」の下でも今後も継続的に行っていかなければならないサービスとはどのようなものかを考える。</p> <p>【到達目標】 図書館サービスを行う上で、現在図書館が抱えている課題を把握し、提供するサービス（資料・利用者）の多様化の視点を持って、今後図書館に求められるサービスを図書館法や著作権法、読書バリアフリー法などの面から考える姿勢を身につける。</p>	

図書館司書課程	情報サービス論	<p>【概要】 情報とは。情報サービスとは。これらを明らかにした上で、図書館における情報サービスとはどのような意義をもち、どのような種類があり、どのような媒体・形態・方法で提供されるのかを学びます。図書館員と利用者の関係性を意識しながら、とくに情報サービスの中心となるレファレンスサービスの事例をもとに、その提供提示方法・情報源・レファレンスツール・関連事項をみていきます。また、発信型情報サービス、利用教育についても考えます。</p> <p>【到達目標】 広い意味での図書館における情報サービスの意義・種類・内容・提供方法等を理解すること。</p>	
図書館司書課程	児童サービス論	<p>【概要】 現代の子供たちは、テレビをはじめとする視覚的な情報の占める割合が大きく、今改めて本に触れることの大切さが問い直されている。この講義では、年齢に応じた子どもたちの心身の発達状況を理解し、その中で読書がどんな役割を果たしているか、また、どんな読書環境を創っていく必要があるのかを学んでいく。さらに、情報やコミュニケーションについても理解を深め、適切に情報を処理し、コミュニケーション能力を高めていくために、グループ・ディスカッションや現地調査も実施する。</p> <p>【到達目標】 児童を取り巻く読書環境を理解し、子どもたちが読書に親しみ楽しむことができる環境をどのように創っていくかを考え提案できる能力を養う。</p>	
図書館司書課程	情報サービス演習 I	<p>【概要】 情報サービス論で学習したレファレンスサービスとレファレンスブックについての知識に基づいて、レファレンス質問に実際に回答する演習を行なう。レファレンスサービス以外の周辺サービスについても学習する。</p> <p>【到達目標】 レファレンス質問を理解・分析し、回答に適するレファレンスブックやインターネットサイトを学生が主体となって探し出せるように</p>	
図書館司書課程	情報サービス演習 II	<p>【概要】 図書館司書として、利用者の疑問に適切に回答するだけでなく、利用者への振る舞い、積極的な発信型情報サービスができるようになるように学生が主体の演習を行う。</p> <p>【到達目標】 利用者に対し、適切な振る舞い・レファレンス回答・パスファインダー作成・イベント企画ができるようになる。</p>	
図書館司書課程	図書館情報資源概論	<p>【概要】 知識をめぐる社会的な状況が大きく変動しつつある現在、図書館が果たしていくべき役割はいかに変わっていくのか。この問題を考えていくために、知識という情報資源のあり方がいかに支配的なメディア（物質的媒体）のあり方によって大きく影響を受けているのかを歴史的に辿っていくとともに、それぞれの時代における図書館の役割を理解していく。</p> <p>【到達目標】 情報資源とそれを具体化するメディア（物質的媒体）との関係性を理解し、これからの図書館の役割を考えていくための力を身につける</p>	
図書館司書課程	情報資源組織論	<p>【概要】 図書館として、利用者が求める情報資源を的確に提供するには、情報資源の組織化（整理）が欠かせない。情報資源の組織化は、情報資源に関するデータを一定の方法に従って記述するための記述目録法（狭義の目録法）と、情報資源の内容（主題）を分析、表現するための主題目録法（分類法および件名法）に大別される。この授業では、情報資源組織化の意義とその理論的背景に加え、目録法、分類法、件名法の基礎的事項を学ぶ。その際、授業計画の内容に記述してある、キーワードの解説を中心に授業を進行する。</p> <p>【到達目標】 1) 情報資源組織化の意義を説明できる。 2) 情報資源組織化の理論的背景を説明できる。 3) 目録法、分類法、件名法の概略を説明できる。</p>	

図書館司書課程	情報資源組織演習	<p>【概要】 「情報資源組織論」で学ぶ情報資源組織化の基本的方法をスキルとして習得することを目指し、情報資源の主題分析と記号化、統制語彙の適用、目録データ作成等の演習を行う。具体的には、『基本件名標目表』（BSH）、『日本十進分類法』（NDC）、『日本目録規則』（NCR）という三つのルールブックの構成と、その使用方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 1) 『基本件名標目表』（BSH）を使用して、各主題分野に応じた適切な件名を与えることができる。 2) 『日本十進分類法』（NDC）を使用して、各主題分野に応じた適切な分類記号を与えることができる。 3) 『日本目録規則』（NCR）に従って、各種情報資源に対する目録データを作成できる。</p>	
図書館司書課程	図書館サービス特論	<p>【概要】 図書館サービス概論で学んだことをふまえ、より具体的に、さまざまな図書館の多様なサービスについて考えていく。特に障害者差別解消法が平成28年4月に施行されたことに伴い、障害者が利用しやすい図書館こそ、すべての利用者が利用しやすい図書館であることを再確認する。また国や自治体の子ども読書推進計画なども比較しながら、図書館のサービスのあり方について、子どもの視点から考察する。</p> <p>【到達目標】 図書館サービスとは何か、それぞれの学生が自分の言葉で語れるようになる。</p>	
図書館司書課程	図書館情報資源特論	<p>【概要】 知識をめぐる社会的な状況が大きく変動しつつある現在、図書館が果たしていくべき役割はいかに変わっていくのか。この問題を考えるために、知識という情報資源のあり方がいかに支配的なメディア（物質的媒体）のあり方によって大きく影響を受けているのかを歴史的に辿っていくとともに、それぞれの時代における図書館の役割を理解していく。</p> <p>【到達目標】 情報資源とそれを具体化するメディア（物質的媒体）との関係性を理解し、これからの図書館の役割を考えていくための力を身につける。</p>	
図書館司書課程	図書・図書館史	<p>【概要】 必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書をはじめとする各種図書館情報資源の形態、生産（印刷等含む）、普及、流通等の歴史、並びに図書館の歴史的発展について教員が主体となって学習してゆく。また、図書そのものにも注目し修復・選書・作成・図書館にまつわる問題点について学生が主体となって学習する。</p> <p>【到達目標】 書・図書館史の変遷を学ぶことで、現代における図書館の役割について考えられるようにする。さらに、図書そのものを適切に扱えるように修復・保存についてできるようになる。</p>	
学芸員過程	博物館概論	<p>【概要】 世界の博物館と日本の博物館について、どのような歴史的背景の中で設立されてきたのかを説明し、博物館とはどのような施設であるのかについて理解を深める。「博物館法」および「文化財保護法」などの関連法規に基づきながら、博物館に課せられた社会的役割と学芸員の職務内容について説明し、博物館と学芸員について理解を深める。</p> <p>【到達目標】 博物館の歴史と社会的役割について理解を深める。学芸員の職務内容に関する基礎的知識を身に付ける。</p>	
学芸員過程	博物館経営論	<p>【概要】 社会教育・研究機関としての博物館を運営するために基盤となる専門知識を学ぶ。博物館は何をめざしているのかを常に念頭におくこと。適宜、博物館法規（資料）を参照する。博物館の経営・運営全体のあり方を理解することを目的とする。学芸員資格取得をめざす学生は、よりよい将来の博物館活動に結びつけるために、堅実な管理・運営の実態を把握する。</p> <p>【到達目標】 博物館とは何であるのかを理解し、博物館の今日における現状、課題について考察する。博物館の存在意義について確認する。博物館関係法規を読むことにより、博物館運営の実務を習得する。</p>	

学芸員課程	博物館資料論	<p>【概要】 博物館活動の主軸となるのが資料（コレクション）である。健全な展示活動を行うためには、資料は適確に管理、研究されることを要する。授業では主に、資料の種類、収集方法、調査研究の方法について講義される。 学芸員の実務における基礎知識を学ぶことを目的とする。資料の収集法を理解し、資料を適確に保存するための方法を身につける。また、文化財の種類についても学習する。</p> <p>【到達目標】 学芸員業務の基盤となる資料活用法を学び、資料の特質を理解する。学芸員としての即戦力のもととなる基礎知識を身につける。</p>	
学芸員課程	博物館資料保存論	<p>【概要】 博物館資料の保存目的は、それらを実物として後世に伝えることだけでなく、それらに有する価値(社会的、文化的、自然科学的な性質)を伝えることに意義があると関連付けさせる。 保存という営みの中では、外すことのできない環境条件等の事柄を具体的に述べて、保存の繊細さ、重要度について明らかにする。その中で、古典資料や文化財、各種保護材などの実物により、それらの構造、あるいは脆弱さ、取り扱いの注意点などを実感できるようにする。</p> <p>【到達目標】 資料の寿命を長期的に伸ばす観点とともに、破損の危険や資料が価値を失ってしまうことを防止する視点を養う。資料保存における人間の及ぼす影響の大きさを認識し、実際の取り扱いで気を付けなければならない要点を明確化しながら、文化財および資料の扱い方および保存に携わる仕事に必要な素養の基礎を身につける。</p>	
学芸員課程	博物館展示論	<p>【概要】 博物館展示の目的と方法およびその種類について学ぶ。 展示の企画立案から予算案の作成・業者の選定など、展示開催に至るまでの作業について学ぶ。 展示資料の選定・展示技術・展示道具などについて学ぶ。 「改正文化財保護法」と博物館展示のありかたについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】 博物館展示の意義と内容について理解を深め、開催までの手順について基礎的知識を身に付ける。</p>	
学芸員課程	博物館教育論	<p>【概要】 文化遺産や自然などと直接触れる機会が希薄になりがちな現代社会において博物館には文化の理解や生命・環境保護等に関わる教育的役割が求められている。本講座では博物館における教育的役割の重要性を歴史的・文化的な観点から理解を深めると共に、博物館教育活動の調査や企画・立案の演習を通して実践的な知識習得を目指す。</p> <p>【到達目標】 博物館の成立を歴史的、時代的背景と照合しながら博物館が持つ教育的役割について理解を深める。博物館が持つ機能の実際や学校教育・地域社会に果たす役割について調査活動を通して理解を深める。博物館教育活動の調査や企画・立案の演習を通して実践的な力を養う。</p>	
学芸員課程	博物館情報・メディア論	<p>【概要】 博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う内容とする。そのために学芸員として対象者や計画実行のために、どのような機器を用い、ネットワークを活用し、収集保存や調査研究、展示、教育活動、広報、マネジメントしてゆくのか総合的に考えられるようになることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 博物館における情報活用・発信について理解すること。また、資料保存のデジタル化、これにより生じる知的財産権について考えられるようになること。また、学芸員として自ら情報発信できる基礎的な力を身につけられるようにする。</p>	
学芸員課程	博物館実習 I	<p>【概要】 学芸員としての実践力を身につけるための実習指導。博物館実務の基礎知識・技術を学ぶ。博物館概論および博物館資料論等で学んだ知識を確認しながら、学芸員の実務に応用できるような資料取り扱い法・キャプション制作法などの実践力を養う。また現場で活用する資料や展示器具に関する専門知識や用語を習得する。 学外館実習の事前指導として、学内において博物館実習の基礎を習得する。</p> <p>【到達目標】 資料（掛軸・卷子）の取り扱いの基礎、キャプションの作成方法について習得する。博物館現場における即戦力を身につけることを目標とする。</p>	

学芸員課程	博物館実習Ⅱ	<p>【概要】 博物館実習Ⅰの履修を前提とし、館外実習にむけて学芸員の主要業務である展示・資料調査研究に関わる実践力を養う。実習は個々の受講生が主体になり、主に資料の扱い方、展示企画法について習得する、また博物館実習を行う際の心構えやマナーについても身につけていく。館外実習及び事前・事後指導として、学芸員の実務を体験することを目的とする。展覧会の企画書の作成やそれに基づく発表など、学生同志で互いに協調し、コミュニケーション能力を身につける。</p> <p>【到達目標】 資料（掛軸・茶碗）の取扱いの基礎、展示企画法について習得し、学外実習を行う博物館についての事前調査を行う。博物館現場における即戦力の基礎を身につけることを目標とする。自身のノートを作成することにより、実習で学んだ内容の総括をする。</p>	
-------	--------	--	--

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人二松学舎 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度

令和4年度

	入学 定員	編入 学	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
二松学舎大学				二松学舎大学				
文学部				文学部				
国文学科	300	-	1,200	国文学科	<u>240</u>	-	<u>960</u>	定員変更(△240)
中国文学科	90	-	360	中国文学科	90	-	360	
都市文化デザイン学科	50		200	都市文化デザイン学科	50	<u>30</u>	<u>260</u>	外国人留学生に限定した特別枠 学科の設置(届出)
				歴史文化学科	<u>60</u>	-	<u>240</u>	
国際政治経済学部				国際政治経済学部				
国際政治経済学科	160	-	640	国際政治経済学科	160	-	640	
国際経営学科	80		320	国際経営学科	80	-	320	
計	680		2,720	計	680	<u>30</u>	<u>2,780</u>	

令和3年度

令和4年度

	入学 定員	編入 学	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
二松学舎大学大学院				二松学舎大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
国文学専攻(博士前期)	16	-	32	国文学専攻(博士前期)	16	-	32	
国文学専攻(博士後期)	5	-	15	国文学専攻(博士後期)	5	-	15	
中国学専攻(博士前期)	16	-	32	中国学専攻(博士前期)	16	-	32	
中国学専攻(博士後期)	5	-	15	中国学専攻(博士後期)	5	-	15	
国際政治経済学研究科				国際政治経済学研究科				
国際政治経済学専攻(修士)	10	-	20	国際政治経済学専攻(修士)	10	-	20	
				国際日本学研究科				研究科の設置(届出)
				国際日本学専攻(修士)	<u>20</u>	-	<u>40</u>	
計	52		114	計	<u>72</u>		<u>154</u>	